

## II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)		一般小売店〔酒〕（経営者）	・9月一杯で緊急事態宣言が解除されるとみられるため、今後の売上は徐々に回復することになる。
		商店街（代表者）	・緊急事態宣言が解除される見通しのため、今後の景気はやや良くなる。ただし、景気をより向上させるためには、国民への給付金支給、消費税減税、長期的な視点での国土強じん化など、財政出動による救済策が求められる。
		商店街（代表者）	・緊急事態宣言の解除が発表され安どしたところに、新たな自粛要請が発表された。確かに一気の全面解除については心配なことも理解するが、新規感染者数が基準を下回っているにもかかわらず営業活動が制限されることには納得できない。これまで頑張って協力してきた店舗からも大きな不満が出ている。また、第三者認証制度の準備が遅れているなかで、制度を導入したことにも憤りを感じている。このような事態が想像できるのに何故このような方法を採用したのかも理解できない。ましてや宣言解除の2日前にである。解除に向けた議論を行うだけの準備期間はあったはずであり、もう少し先を見越した計画を発表してほしい。今後予定されている行動緩和についても2度とドタバタ劇にならないような対応を望む。
		商店街（代表者）	・青果物の価格について安定期に入ることが見込まれるため、今後の景気はやや良くなる。このまま台風などの影響が生じず、果物類が不作とならないことを期待している。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・ワクチン接種が進展することの効果を期待している。現首相はとてよくやっていたと捉えている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・今後、人流がある程度増えたとしても、ワクチンの効果で新規感染者数が大幅に減っていくと考えられる。そのため、これまで旅行を控えていた層が徐々に動き始めることが見込まれ、年末にかけて来道者や来客数が少しずつ右肩上がりになるとみられる。
		百貨店（売場主任）	・ワクチン接種が若い世代にも行き渡ること、新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅に減少することが期待される。そうなれば、景気回復が進むことになる。
		百貨店（販売促進担当）	・月明けの緊急事態宣言解除を受けて、来客数及び買上客数の増加が見込まれる。年末に向けて大きなカレンダーマーケットも増えてくるため、客の購買意欲は一層高まることになる。
		百貨店（営業販促担当）	・ワクチン接種が幅広い世代に行き渡ること、来客数の回復が見込まれる。また、人が動き出すことで、衣料、雑貨などにも動きが出てくることになる。特に出張、旅行、会合関連の需要が上向いてくるとみている。
		百貨店（マネージャー）	・来客数及び売上が徐々に上向きになってきている。前月までは巣籠り需要が強まっていたこともあり、衣料品を始めとしたファッションゾーンが前年比70%台で推移するなど、特に厳しかったが、9月は前年比93%と善戦したことから、10月以降は緊急事態宣言解除に伴い回復基調に転じることになる。
		スーパー（企画担当）	・新規感染者数が減少傾向にあること、ニューノーマルが定着してきていることから、緊急事態宣言の解除によって年末にかけて経済活動が活発になることを期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・緊急事態宣言が9月30日で解除されることが大きい。新型コロナウイルスの動向次第の面はあるが、今後の景気はやや上向きになる。
	コンビニ（エリア担当）	・前年はGo To Travelキャンペーンがあったことで一時的な回復がみられたものの、年末にかけて再度動きが鈍化した。今年は前年の反動が生じたとしても、年末にかけて前年を上回る回復が見込まれる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・ワクチン接種が進み、今後、行動制限が緩和される見込みであることから、景気はやや良くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・緊急事態宣言が解除されるため、今後の景気はやや良くなる。
		家電量販店（店員）	・緊急事態宣言が解除されること、ワクチンを接種した人が増えていることから、今後の景気はやや良くなると期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの影響が落ち着くことで、飲食や観光を中心に景気が回復することを期待している。
		自動車備品販売店（店長）	・緊急事態宣言が解除され、客の動向が変化することを期待している。スタッドレスタイヤの販売時期や年末年始を控えていることを考えると、景気は上向くことになる。
		高級レストラン（スタッフ）	・緊急事態宣言の解除によって、経済活動が再開されるようになるため、今後の景気はやや良くなる。ワクチン接種率が向上していることもプラスである。
		観光型ホテル（スタッフ）	・9月一杯で緊急事態宣言が解除される見通しにより、ビジネス目的の個人旅行、教育旅行の問合せが入るようになったことから、今後の景気はやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・今はどん底の状態であるが、景気回復に向けた施策が動き始めていることから、今後の景気は今よりも良くなると期待している。
		旅行代理店（従業員）	・少なくとも今よりは景気が上向きになると期待している。
		旅行代理店（従業員）	・ワクチン接種率が上がり、ウィズコロナ対策が進んでいくことで、今後の旅行需要が増えると期待している。
		タクシー運転手	・緊急事態宣言が解除され、10月1日からアルコールの提供自粛要請も緩和されるため、人出が徐々に戻り、タクシーの利用も増えていくと期待している。
		タクシー運転手	・9月一杯で緊急事態措置が解除され、飲食店の酒類提供に係る規制が緩和されることで、移動を伴うサービスの注文が増えてくると期待している。
		タクシー運転手	・緊急事態宣言が解除されるため、今後の景気はやや良くなる。
		タクシー運転手	・9月が景気の底とみている。新規感染者数が減りつつあり、ワクチン接種率についても、10月末には70%が2回接種を終了する見通しであることから、今後の景気はやや良くなる。新政権の経済対策にも期待している。
		通信会社（企画担当）	・秋の話題の端末について、客からの引き合いが都市部で多くみられることから、旧端末との価格バランス次第で契約者数を伸ばせる余地がある。端末の在庫次第の面はあるが、今後の景気はやや良くなる。
		観光名所（従業員）	・5～6月、8～9月と緊急事態宣言が続いたことで、修学旅行や各種団体の旅行が先延ばしになっており、それが11～12月に集中し、すごい件数となっている。また、個人客からも旅行を待ちかねているとの声もたくさん聞いている。これらのことから、これまでのリバウンド効果で当施設はもちろん、域内経済の活性化が期待できる。
		美容室（経営者）	・明らかに人の動きが活性化してきていることから、新型コロナウイルスの感染状況が現在と変わらなければ、売上が本来の水準まで回復すると見込んでいる。
		住宅販売会社（経営者）	・ワクチン接種が進むことを期待している。また、新型コロナウイルスの治療薬も年内に完成することになれば、ムードが改善することになり、景気も少しずつ良くなる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、石油価格が高止まりしている状態が続いていることから、地域住民が出控えに徹することが懸念される。元々、当地を訪れるビジネス客や観光客の少ない時期でもあるため、売上のプラスも期待できない。
		スーパー（店長）	・今後も新型コロナウイルスの感染状況によって、乱高下を繰り返すことが見込まれる。
		スーパー（店長）	・1か月半に及ぶ緊急事態宣言が解除されること、ワクチン接種が進んでいることから、現状よりも景気は良くなる。ただし、何らかの消費刺激策がなければ良くても前年並みだと見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（従業員）	・9月一杯で緊急事態宣言が解除される見通しだが、食品小売業に好影響はないとみられる。ワクチン接種が進み、年内で感染が終息すれば消費動向も変化すると期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・緊急事態宣言が解除されることから、今後の景気は回復傾向になるとみられるが、新車の減産がまだ続きそうのため、売上に繋がらないことが懸念される。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・マスク生活はしばらく変わらないとみられるため、マスク着用による内面的な疲労、ストレスの影響がこれから現れることが懸念される。そうなれば、地道に個々の客と相談していくことになる。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・新型コロナウイルスへの明確な対策がないため、今後も景気は変わらない。
		高級レストラン（経営者）	・ワクチン接種が進んでいること、新規感染者数が減ってきていることから、今後の景気が上向きになることを期待しているが、今後第6波が発生し新規感染者数が再び増えることになれば、年末に向けて景気が上向くかどうかは不透明である。このままワクチン接種が進み、治療薬なども出てくれば、景気が上向きになるとみているが、今の状態では予測が付かない。
		旅行代理店（従業員）	・緊急事態宣言の解除に伴って、今後、観光業向けの景気回復策が出されるとみているが、10月には間に合わない。11～1月は観光閑散期に当たるため、それ以降の冬季観光まで回復は期待できない。
		タクシー運転手	・現状からは今後の景気がどうなるか分からないというのが実感である。緊急事態宣言が解除された後にリバウンドが生じ、再び緊急事態宣言が発出されれば、先の見えない状況が続くことになると懸念している。ワクチンの効果などで新規感染者数がある程度減少しているとはいえ、まだまだこの冬に向かって心配なところがある。
		観光名所（職員）	・緊急事態宣言の発出に伴って正常な営業ができていないため、引き続き低調な業績となっている。ワクチン接種や抗体カクテル療法が浸透してきていること、徐々に感染者数や重症者数、病床数が落ち着きを見せ始めていることから、適切な時期での経済活動の再開を期待している。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況の落ち着き具合から、景気が良い方向に転じてほしいとの希望はあるが、今後も景気はそれほど変わらないとみている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めが掛かっているものの、今後、厳冬季に突入することから、観光客は減少するとみられる。
		スーパー（店長）	・食材などの値上げラッシュと緊急事態宣言の解除に伴って、今後、内食需要が厳しくなることが懸念される。
		スーパー（店長）	・経済面で新型コロナウイルスの影響が出てくることが懸念される。
		スーパー（企画担当）	・緊急事態宣言が解除され、まん延防止等重点措置も適用されなかった場合、外食や百貨店でいわゆるリベンジ消費が生じることが見込まれることから、食品スーパーとしては売上が落ち着くことを懸念している。また、第6波による感染拡大も懸念されているなかでは先行きを見通すのが難しい。
		スーパー（役員）	・東南アジアでの新型コロナウイルスの感染拡大、コンテナ運賃の値上がりなどにより、年末に向けて食品の値上げが増え、客の節約志向が一層強まることが懸念される。
		乗用車販売店（従業員）	・10～12月はタイヤ交換の時期となるため、一定の需要を見込めるが、車販売の落ち込む時期でもあるため、景気はやや悪くなる。ただ、1月になれば盛り返しが期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・海外での新型コロナウイルスの感染拡大によって、車両の生産が大きな影響を受けており、売上の見込めない状況となっている。また、冬季ボーナスにも影響が生じることが懸念されるため、今後の消費は控えられるようになる。
		高級レストラン（スタッフ）	・現状から、年内は昼食がメインで夕食は予約コースだけの営業を想定していることから、当店の景気はやや悪くなる。ただ、衆議院選挙が終わり、何らかの経済対策が行われることになれば、景気が良くなるのではないかとささやかに期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（経営者）	・これからの2～3か月間、北海道では冬季の観光シーズンが始まるまでの閑散期となるため、緊急事態宣言が解除されても当面は同じような状況が一層の悪化で推移することになる。
		住宅販売会社（経営者）	・コロナ禍の影響で経済的に損なわれた部分が回復するまで相当な時間を要するとみられることから、客の所得が元どおりに回復するのは当分先のことになる。また、分譲マンションの建築コストが高止まりしており、今後も価格が下がらないとみられるため、市場のボリュームゾーンに位置する需要層の多くがマンションを購入できない状況が続くことになる。こうした需要と供給のミスマッチが新型コロナウイルスの影響で一段と拡大していることが問題となっている。
	×	商店街（代表者）	・コロナ禍の影響が続くなか、これからオフシーズンを迎えることから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	衣料品専門店（店長）	・前年に商材を販売できていない分、今年の仕入れをできておらず、苦しい経営状況が続いている。そのため、今後の景気は一層悪化することが懸念される。
	×	乗用車販売店（経営者）	・現在の車の需給バランスが崩れている状況が年度内は続きそうなこと、地場産業の低迷が続くとみられることから、今後の景気は悪化傾向が続く。
	×	高級レストラン（スタッフ）	・前年はGo To Travelキャンペーンによって人の往来が増え、来客数も好調に推移したが、今年は緊急事態宣言が解除されたとしても、何らかの規制が行われるとみられることから、景気がすぐに回復するとは考えにくい。また、Go To Travelキャンペーンについても、制度内容の変更やワクチン接種済み者への特典付与など、未確定事項も多いことから、効果が不透明である。
	×	スナック（経営者）	・緊急事態宣言が解除されたとしても、景気がすぐに回復するとは考えられない。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの第5波が収束したとしても、第6波が必ず訪れると国民はみていることから、今後の景気は悪くなる。新型コロナウイルスの影響で業績を伸ばしている企業もみられるが、業績が悪化している企業の影響がいずれ業種全体に波及することになるため、国内の景況感を押し下げることになる。
	×	美容室（経営者）	・経済を回そうとすると新規感染者数が増え、感染を抑えようとすると経済が止まってしまう負のスパイラルが今後しばらく続く。
企業 動向 関連  (北海道)		-	-
		通信業（営業担当）	・ワクチン接種率の向上と新規感染者数の着実な減少によって、新型コロナウイルスの一定の終息を織り込んだ経済的な動きが活発化していることから、この先の景気は現状よりも改善することになる。
		金融業（従業員）	・道内の新型コロナウイルス新規感染者数は漸減し、緊急事態宣言の解除が見通せる水準まできている。これに伴って人の動きも活発化していることから、先行きの道内景気はコロナ禍の終息と合わせて回復することになる。そのため、今後の道内景気はやや良くなる。
		司法書士	・9月一杯で緊急事態宣言が解除され、宣言中の制約がある程度緩和されるようだが、依然として感染を心配する状況が続くことから、人の行動が新型コロナウイルス発生以前に戻ることはない。今後については国民へのワクチン接種が重要な要素となり、年末まで感染が拡大しなければ、景気も回復することになる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・緊急事態宣言が解除されたことから、今後、経済活動が本格化すると期待している。ただし、新たな新型コロナウイルス変異株がまん延する可能性は否定できない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・緊急事態宣言解除後に、設備投資意欲が向上することを期待している。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・冬にかけて仕事量が増えるの見込んでいるとの話をよく聞くため、今後の景気はやや良くなる。ただ、実際に企業の活動が盛況になるのは年度末頃とみている。
		食料品製造業（従業員）	・この先も、現在とほぼ変わらない売上しか見込めていないことから、今後も景気は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・これから工事の最盛期を迎えることになるが、例年のように人手が不足している。特に運転手が足りない。また、石油、木材、鉄関係の資材価格が高止まりしている。緊急事態宣言が解除されることで、街中の景気とマインドが早々に持ち直すことを期待している。
		建設業（従業員）	・今年度の民間による案件が激減していることから、年度後半に向けて景気が上向くことは考えにくい。
		建設業（役員）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種が進んだとしても、年内一杯は行動制限緩和に伴う経済活動の急回復を期待することは難しい。そのため、今年度の事業計画達成を見通せない状況は変わらない。
		輸送業（支店長）	・緊急事態宣言の解除後は緩やかに景況感が回復するとみられるが、例年冬場は売上が落ち込む傾向にあるため、プラスとマイナスが相殺し、当社全体の景況感は変わらない。
		司法書士	・首都圏などでの緊急事態宣言の発出により、旅行関連を中心に景況感が大きく落ち込んでいるとみられたが、お盆時期や9月の大型連休などの周辺観光地での人出をみる限り、団体旅行こそ少ないものの、仲間内や家族単位での旅行者を多く見掛けるなど、余り自粛しているように感じられない。景気は良くもないが、極端に悪くもない状況が続いていることから、今後もこうした状況は変わらない。
		食料品製造業（従業員）	・商品価格の改定から1年が経過しても、販売量の減少が続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・緊急事態宣言が解除されたが、今後すぐにシステム投資が活発になるとは考えられないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)		求人情報誌製作会社（編集者）	・この先の景況感が大きく変化しそうだ。これから年末にかけて、これまで控えられていた需要がはき出されることを期待している。緊急事態宣言の解除に伴って、飲食店や宿泊などにも動きが出てきている。新型コロナウイルスの影響を大きく受けた業界が立ち直れば、景気回復は早いかもしれない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・緊急事態宣言の解除に伴って人流が活性化することが見込まれることから、飲食などを中心に景気回復に向けた期待感が強まることになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・9月一杯で緊急事態宣言が解除される見通しのため、業種を問わず人材募集のニーズが高まることになる。ただし、消費者の生活様式が変わってきていることから、コロナ禍前の水準に戻るまでにはそれなりの期間が必要になる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・緊急事態宣言が解除されることで、経済活動が活性化するとみられるため、今後の景気はやや良くなる。
		人材派遣会社（社員）	・今後については、コロナ禍の影響が回復に転じるのを見極める時期となる。回復に向かうのであれば企業活動にも動きが出てくることになり、若干景気が上向きになることが期待できる。
		職業安定所（職員）	・緊急事態宣言が解除される見通しであるが、これから冬に向けて観光が下火になる時期であるため、業績が悪化する企業も出てくるのではないかと懸念している。景気が上向きになるイメージを余り持てないため、今後の景気は大きくは変わらない。
		職業安定所（職員）	・当地における新規求人数は前年から7.5%の増加となり、新規求職者数は前年から11.7%の増加となったが、新型コロナウイルス以前の前々年と比較すると、新規求人数は20.4%の減少、新規求職者数は3.3%の減少となっている。また、8月の有効求人倍率は0.83倍であり、前月から0.02ポイントの低下となっていることから、当面は現在の水準のまま推移することが見込まれる。一方、新型コロナウイルスの影響が長期化するなか、需要が低迷する一部の業種において不安定な動きが継続しており、尚予断を許さない状況にある。
		職業安定所（職員）	・当地における新型コロナウイルス新規感染者数は多くないものの、雇用調整助成金の申請が増えてきているなど、依然として影響がみられることから、今後も景気は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職担当）	・新型コロナウイルスの第6波を念頭に置いている業界が多いとみられることから、冬季の感染状況がはっきりするまで景気は変わらない。
		*	*
	x	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (東北)		衣料品専門店（店長）	・前年は秋からのGo Toキャンペーンなどで経済活動が一気に盛り上がり、11月末くらいまでそこそこ良かった。ここ数か月続く経済の落ち込みをみると、人々の心理状況が再び経済活動を盛り上げる方向に向かっているのではないかと予測され、前年のそこそこ良かった状態まで回復してくるのではと期待している。
		観光型旅館（スタッフ）	・新規感染者数の大幅な減少により、緊急事態宣言は9月末で全面解除される。また、ワクチン接種も進んでいるので、景気は良くなる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少が予想される。
		商店街（代表者）	・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が解除されるため、人流増加が予想される。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・消費マインドは、現在のワクチン接種状況や経済対策に加え、総選挙もあり、大変不透明である。しかし、気持ち的には良くなっていくのではないかとみている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきて、客との対面がしやすくなると、商品を薦めやすくなり、売上につながりやすくなる。
		百貨店（売場主任）	・ワクチン効果も見え始めており、今後の景気刺激策への期待もある。まだ予断を許さないが、回復に向かうものとみている。
		百貨店（営業担当）	・感染状況によるものの、ワクチン接種は確実に進んでおり活動への安心感が生まれていることと、政府の経済支援による下支えにより、購買動向への期待が持てる。
		百貨店（買付担当）	・ようやくワクチン接種が加速し、幅広い年代で接種が可能になった。11月には2回目がほぼ打ち終わるとみられ、ウィズコロナ生活も新しいステージに移っていくと考える。自粛中心の生活スタイルから、行動範囲や購買動向等に変化が出ることを期待したい。
		百貨店（経営者）	・緊急事態宣言の解除後は少しずつ来客数も増えてきているが、宣言前の流れには戻っていない。来月からは客の動員施策を前年以上に連打し、消費喚起に結び付けていく。期待する流れまではしばらく時間が掛かりそうである。
		スーパー（経営者）	・ワクチン接種が進み、かかっても重症化しにくいことで気分的に緩くなり、年末に向けて景気は上向いてくると予想している。
		コンビニ（経営者）	・買上点数や単価は横ばい状態で推移しているので、来月からの規制解除又は緩和で繁華街に人が戻れば、当店の立地上、多少なりとも景気は上向くのではないかとみている。
		コンビニ（経営者）	・ワクチン接種が進んでいることと新規感染者数の減少に伴い、まん延防止等重点措置も解除されるため、人の動きが活発になるとみている。
		コンビニ（店長）	・緊急事態宣言も全国的に完全に解除になるということで、人流も増え、飲食店街や土日の客足も大分戻ってくることが予想される。今より悪くなることはない。期待している。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスによる行動制限が緩和されて落ち着いてくれば、動き出す気分になり外出時の洋服の購買意欲につながるとみている。
	衣料品専門店（経営者）	・ワクチン接種の進行が今までより早くなることによって、徐々に景気回復していくと予測する。	
	衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着き、ウィズコロナなど新たな取組が打ち出されれば、少しずつ消費者の動きが戻ってきて回復につながるとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住関連専門店（経営者）	・ワクチン接種もかなり進んでおり、経済活動の制限も解除されるので、経済が活発化し景気も徐々に上向きになるとみている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・コロナ禍の緊急事態関連や地元の選挙も終わり、飲食店がやや持ち直すのではないかとみているが、各地で再開できない店がかなり出ると予想される。元に戻ることはないともみられるので、過大な期待はできない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・今月で宣言解除の方針とのことなので、少し来客数が回復するとみている。しかし、年明けには新規感染者数の増加で再び来客数が減っていくのだろう。あと1～2年はこの繰り返しではないだろうか。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・当地には緊急事態宣言もまん延防止等重点措置も出ていないが、真面目な気質の人々ばかりなので外には出ない人が多い。来月に全て解除になったとしても恐らくは今までどおりの生活を続けるとみられるが、ほんの少しでも人流が戻り経済活性化の兆しでもあればと期待している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・9月後半より販売量に持ち直しの兆しがある。ワクチン接種率の向上と規制緩和によって行楽などが増加することが予想される。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・ワクチン接種の進展やまん延防止等重点措置の解除などにより、消費者の動きが活発になるとみている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ワクチン接種が進み、感染拡大のリスクが減ることによって、消費購買意欲も前向きになってくることが予想される。多少のリバウンド消費にも期待している。
		一般レストラン（経営者）	・願望に近いが、ワクチン接種が効果を出し始めているということ、感染が収まってくるということで、今よりは少し客が来てくれるのではないかと期待している。ただ、リバウンドがくればまたそれもどうなるかという心配もある。
		一般レストラン（経営者）	・まん延防止等重点措置の適用が9月末で終わる。現在休業しているの、10～12月はやや良くなるとみている。ただ、コロナ禍以前のような状況に戻るにはまだまだかなり時間が掛かるとみている。
		一般レストラン（経営者）	・来月から通常営業ができるということに関しては良くなる。しかし、当店は会社関係の客が多く、会社からは余り出るなどいわれているようなので、なかなか飲食につながらないのではないかとみている。第6波の危険性もあり、客がすんなり外に出て飲食できるようになるには、まだまだ厳しい状況が続くとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・県をまたいでの旅行が活発になりそうなので、多少の集客は望めるとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・冬になり再び新規感染者数が増えない限りは、国や自治体の施策が始まり、経済活動が活発化するのではないかとみている。
		観光型旅館（経営者）	・ワクチン接種、緊急事態宣言の解除、新規感染者数の減少と条件は好転してきたので、これからの行楽シーズンに期待したいところである。第6波の懸念もあり大きく好転とはいえないが、今よりは良くなるとみている。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少傾向にあることやワクチン接種が進んだことで、客の意識も緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除による移動の規制解除を想定した期待感を持つようになり、予約状況も個人旅行を中心に緩やかな回復傾向がみられる。
		旅行代理店（従業員）	・ワクチン接種が進み、Go To キャンペーン事業又は県民割が復活すればやや良くなるとみている。
		旅行代理店（従業員）	・時間を要するとみられるGo To Travel キャンペーンや県単位での地域観光事業支援を再開すること、行動規制が徐々に緩和されていくことを願いたい。
		タクシー運転手	・最近、市内において観光客を多く目にする。今月末をもってまん延防止等重点措置が解除されることから、旅行を我慢していた関東及び関西方面の人たちが、大手を振って観光に来るとみている。よって、景気は徐々に良くなっていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言の繰り返しで自粛生活が定着したためか、自宅でのWi-Fi利用者が徐々に増えてきている。テレビをインターネットに接続して利用している人も増えてきているので、年末に向けて通信サービスの契約が増加していくと期待している。
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置も解除され、ワクチン接種率も上がっていることから、人が動きやすくなる。
		テーマパーク（職員）	・緊急事態宣言解除や県民割などにより、来客数の増加に期待ができる。
		観光名所（職員）	・振り客も微増から1けた上がったような増加率になっている。また、一般業者扱いの団体客も予約が埋まりつつあり、かなり増加の傾向にある。このままでいけば、ここ3か月よりも更に景気が回復するのではないかとみている。
		美容室（経営者）	・当県の新規感染者数の減少に伴い、来客数のマイナスは変わらないがマイナス幅が小さくなるような兆候がみられる。まん延防止等重点措置の終了やワクチン接種率の向上により、僅かなりとも戻ってくるとみている。前年並みに近いところまでいってほしいと願っている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・緊急事態宣言の解除により人々の気持ちは前向きの明るい気持ちに転換することを期待している。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの影響は小さくなるが景気の回復は一部にとどまるとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今のところワクチン接種が進んでいるが、新型コロナウイルス変異株により感染が再拡大したら、今の状態とほとんど変わらないくらい悪い状態が続くのではないかと考えている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・県内の需要は今とそう変わらないとみている。県外から人が来れば需要もその分増えるので、交流がなければこの先も余り変わらない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数がようやく減少傾向となり、ワクチン接種も再開し進んでいるが、今の状況がすぐに良い方向に向くとは考えにくい。
		スーパー（経営者）	・10月はワクチン接種も更に進み感染者数も減少し、社会活動、経済活動等制限解除も徐々に進む。経済対策等も検討されているようなので、第6波が発生しなければ、企業や事業所の活動も正常に戻ると期待したい。ただ、国内経済の対策効果には期待しているが、海外との取引の正常化には時間を要するようなので、景気の浮揚にも消費拡大にももうしばらく時間が掛かるとみている。
		スーパー（店長）	・相変わらず来客数の減少が続いており、それに伴い売上も落ちている。この状態はまだまだ続きそうである。
		スーパー（店長）	・ワクチン接種率の向上に合わせて、行動制限の緩和も出てきている。今後再び新型コロナウイルス新規感染者数が増加するのか、このまま安定するのかによって受ける影響も変わるが、新型コロナウイルスの状況は予測が付かないので、現状と変わらないと考える。
		スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスはまだまだ収束しそうでないので、緊急事態宣言が解除されたとしても、年内は今のままで続きそうである。食品小売業界に関しては、前年からある程度高い水準で推移している。
		スーパー（営業担当）	・まん延防止等重点措置が解除され客の行動が多少活発になるかもしれないが、コロナ禍における収入減少の影響で経済は厳しく、買物は更に慎重になる。衝動買いはなく、今後も現状からの変化はないとみている。
		コンビニ（経営者）	・このまま新型コロナウイルス新規感染者数が減っていき、ふだんの生活に戻っていけば人の流れも戻ってくるとみており、景気が少しずつ良くなっていく可能性もある。しかし、今のところはなかなか人の流れが戻ってこないもので、しばらくは現在と変わらない状況が続くのではないかとみている。
		コンビニ（経営者）	・ワクチンの接種率が8割程度まで進み、そこから数か月過ぎるまでは景気の回復は期待できないとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・秋の行楽需要は新型コロナウイルス収束が不透明で見込めない。年末商戦も前年同様の動きになるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・今後の新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、県外移動や旅行等を大きく促進していかないと、景気の改善は進まないとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・ワクチン接種が順調に進み、早急に緊急事態宣言が解除されて元の生活に戻れる日を期待している。人出の回復を願っている。
		衣料品専門店（総務担当）	・新型コロナウイルス収束のめどが立たないうちは回復は見込めない。
		家電量販店（店長）	・前年同様、新型コロナウイルスの感染拡大の危険性があり、上向き可能性は低い。
		家電量販店（従業員）	・現状、購入に向かうようなイベントがなく、年末に向けて買い控えの傾向が予測される。
		乗用車販売店（従業員）	・半導体の不足により新車の販売がなかなか伸びない。今後も半導体不足は解消しそうにない。
		乗用車販売店（従業員）	・国外で生産している部品が通常どおり生産されても、現状、新車の納期遅れが生じているので、数か月で回復する見込みは薄い。
		乗用車販売店（従業員）	・車両販売会社としては余り明るい材料はない。新型コロナウイルスや半導体問題はまだまだ解決しそうにない。新車の販売台数は現状維持も厳しい。その他でカバーするとしてもトータルで見ると現状維持になるとみている。
		乗用車販売店（店長）	・しばらくのあいだ生産調整が改善される見込みはないため、収益的にも我慢が続くとみられる。
		住関連専門店（経営者）	・個別注文家具なので予定を組まないと生産、納品できない。もう12月までは確定しており、予定どおり進んでいる。コロナ禍で打合せ等においてテレワークやデジタルトランスフォーメーションへの取組が必要になってくると考えている。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・ワクチンの接種が進んでおらず、外出自粛傾向は当面続くとみている。
		高級レストラン（経営者）	・ワクチン接種も進んでいるので、多少良くなるとみている。
		高級レストラン（スタッフ）	・自民党総裁選が終わり次第、また緊急事態宣言が出され、人の動きは少なくなることが予想される。観光業、ホテル等にとっては、より一層厳しくなる状況である。12月まで続けば、来年はこの業界から離れる人が多くなる。
		高級レストラン（支配人）	・県独自の緊急事態宣言が出てから来客数は一気に減った。その後も客足は戻ってこない。あとはGo To Eatキャンペーンのチケットの利用が見込めるが、恐らく12月のテイクアウト品に回るのではないかと予想している。
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言は解除になるが、冬に感染の拡大が心配される。それがなければ多少は良くなるとみているが先行きは不透明である。自民党政権が継続するか否か、政治が不安定になることが予測されるため3か月後も変わらないとみている。
		通信会社（営業担当）	・大きく変化する材料に乏しく、このまま継続するとみている。
		通信会社（営業担当）	・景気が上向き気配を感じられない。
		遊園地（経営者）	・感染の下火とワクチン接種の進展に期待しているが、消費マインドがどれくらい回復してくれるかである。
		競艇場（職員）	・今が過去最低の状態なのでこれ以上落ち込むことは考えにくい。しかし、イベント等で来場促進を行っていないことから売上が上がることも考えにくく、現状維持が精一杯とみている。
		住宅販売会社（経営者）	・相変わらず一般物件の受注は好調だが、木造住宅の受注は低迷している。ただし、大小不動産売買の動きは好調である。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	・ワクチン接種が進んでから来場者数も上向きになっているが、新型コロナウイルスの感染者がリバウンドした場合は、再度来場者数は減少するため、現段階では変わらないことを予想している。
		商店街（代表者）	・9月は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用もあったため最悪の状態であった。この先いろいろな形で影響が出て急激に回復に向かうような感じはなく、消費が戻ってくるのは随分先になる。先の見通しが余りたない状態である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・年末年始商戦までに新型コロナウイルス感染の終息は期待できず、飲食業関連中心に業況はますます厳しくなる見込みである。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・实体经济は、事実として少なからず停滞している。それを金融政策や補助金の交付などによって下支えしているという印象を受ける。いずれ、この状態が崩れるときが来るのではないかと心配している。
		スーパー（店長）	・世の中への新型コロナウイルスの影響が少なくなれば、飲食店への客の出入りが増え、スーパー業界に影響が出る可能性がある。
		スーパー（営業担当）	・秋のイベントの自粛傾向、青果物の価格不安定の影響、水産物の漁獲量の変化といったことによる販売方法の変更にも苦慮するのではないかと不安がある。
		コンビニ（経営者）	・最低賃金の引上げで、人件費が上がり、ますます厳しくなる。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこ増税により、たばこ購入頻度が低下する可能性があり、買い合わせが多い飲料の売上低下も予測される。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの感染が収まり、景気が回復するとみている。季節的な商品は、暑さ寒さはあるがおおむね買換え需要などで平年並みに推移すると予想している。
		タクシー運転手	・ワクチン接種の効果もあって高齢者は多少動き出しているが、40～50代の人の動きはまだまだ悪い。今後ワクチン接種の更なる効果が出てくることを期待している。
		設計事務所（経営者）	・最低制限価格や調査基準価格を想定した金額での応札割合が増えている。そのような応札状況が続くと、これまで1件受注して賄っていた費用を確保するために、2件以上の物件を受注しないと達成できない状況が生まれる。震災復興工事の需要もなくなり、新型コロナウイルスの改善に多くの費用が回されている現状を考えると、公共工事への投資は更に減少する。じわじわと景気が後退していくとみられる。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器については商品の納品遅れは数か月続くとみている。リフォームについても納品遅れにより工期が延びるとみられる。
	×	スーパー（経営者）	・新型コロナウイルス第6波が出始める頃である。また、商品の値上げも相次ぎ、その部分での価格競争が厳しくなる。
	×	コンビニ（経営者）	・県独自の緊急事態宣言は解除されたが客が戻ってきていない。これから寒くなるので、上向くことは難しいとみている。
	×	コンビニ（経営者）	・売上が下がり続けて、最低賃金が上がり、除雪代の支払が始まる。どうやって生活していけばいいのか分からない。
	×	一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言が解除されるので、地元のホテルでは予約の動きが出始めているようである。しかし、人が動けば新型コロナウイルス新規感染者数が少なからず増え、年末辺りは悲惨な状況になるのではないかと予想している。
	×	通信会社（営業担当）	・景気が上向くのは来年度以降とみている。緊急事態宣言が解除され、Go Toキャンペーン関連等、早めの景気向上施策に期待したい。
企業 動向 関連  (東北)		建設業（企画担当）	・景気の上振れ要因、下振れ要因共に新型コロナウイルスの感染者数、死亡者数によるとみている。ワクチン接種の進展により、明らかに感染者数、死亡者数が減少している。加えて、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が政府方針で解除になるので、上振れすると考えている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・町内の温泉街では宿泊申込みや問合せがきている。よって、緊急事態宣言が解除された後は客の増加が見込まれる。
		食料品製造業（営業担当）	・来月からは徐々に行動の制限が解除されるということで、観光客も徐々に増えてくるのではないかと期待している。
		金属製品製造業（経営者）	・年末商戦にかけて、受注量が更に増えることが予想される。
		建設業（従業員）	・契約手続中の公共工事など、一定の受注契約が見込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（経営者）	・ようやく最近良くなる兆しが若干みえてきた。ワクチン接種が進んできたことが要因の1つだとみている。今後緊急事態宣言等の制限解除により経済活動が動き出せば物流量も増えてくるとみているが、主要製造業取引先は新型コロナウイルスの感染拡大以前から減産を実施しており、新型コロナウイルス感染が収まっても回復は余り期待できない状況である。
		通信業（営業担当）	・新機種の発売及び緊急事態宣言が明けることで、客の購買意欲が高まっている。
		金融業（広報担当）	・ワクチン接種も一巡し、これからは秋の自然観光資源と共に一次産品流通が盛り上がる時期を迎えることもあり、諸経済活動に活気が戻るものと期待している。
		広告代理店（経営者）	・今が底の底だと考えている。新型コロナウイルスの飲み薬も開発されれば、広報活動も活発になるとみている。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルス新規感染者数が一定レベルまで減少すれば、経済が動き出す。
		公認会計士	・ワクチン接種が進み感染が落ち着いてくれば、政府の振興策にもよるが、飲食、小売、サービス業などで業績の回復が見込まれる。建設関係の一部落ち込みはあるが、全体としては景気が上向くとみている。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・当社の売上が前月、今月と前年比で110%強になっていることから、全体的にやや良くなってきたようであり、今後にも期待が持てる。取引先の状況も食品の売上は意外と安定しており、やや多くなっているという話を聞く。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・10月より県内の飲食店の営業時短要請、酒類の提供停止要請などの制限が全面解除される。
		農林水産業（従業者）	・ぶどう、なしの販売単価が1～2割程度高かったので、天候に恵まれたりんごにも期待が持てる。
		食料品製造業（営業担当）	・今年に入ってから状況に変化はなく、まだまだ改善が見込めない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・冬の新型コロナウイルスの再流行が懸念される。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・緊急事態宣言やまん延防止等が解除されても、人々の行動様式が即座にコロナ前までのように回復するとは思えない。日常を取り戻すには相応の時間を要する。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・半導体製品の需給バランスが徐々に元に戻ってきており、この後も通常の状態が継続すると考えられる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・取引先において既設設備に対する修繕費削減を継続している。
		建設業（従業者）	・ワクチン接種が進むまでは大きな変化はないとみている。
		通信業（営業担当）	・客のニーズに合わせて、リモートワークに沿ったプランを提案することに注力していく。
		広告業協会（役員）	・ワクチン接種は進んでいるが第6波の予想もあり、先行きの不透明感が強い。企業の販促活動が数か月のうちに活発になるとは考えにくい。
		広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの第6波の懸念などがあり、見通しが立たない。
		司法書士	・例年並みの状況で推移している。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・受注案件及び受注量は微増傾向にあるが、原材料、部品等仕入れの一部入手遅れや価格の上昇から、納期調整及び製造原価増加への対応に迫られている。
		農林水産業（従業者）	・今後も、新型コロナウイルスの影響等により、米の過剰在庫は解消されないとみている。
		窯業・土石製品製造業（役員）	・官民の需要が低迷しており、下期も上向く要因が見当たらない。
		コピーサービス業（従業者）	・半導体の品薄解消のめどが立っていないことに加え、ここに来て仕入先からの値上げ要請がまた増えてきている。現状では良くなる材料が見当たらない。
	×	食料品製造業（経営者）	・ワクチン接種が進んではいるが、観光や出張が増えるのはまだ先だとみている。いつまで我慢すればいいのか。
雇用関連		人材派遣会社（社員）	・東北進出企業の大口案件が動きつつある。また、有料職業紹介事業も成果がコンスタントに出てきており、3か月先も明るい見通しである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東北)		人材派遣会社(社員)	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が9月30日で解除されるため、飲食業でも10月の予約が入ってきている。アミューズメントや旅行の予約などでも各団体の動きが出てきている。各物流会社でも物の動く準備としてフォークリフトや倉庫の人員を補充し始めている。ここに来てあらゆる業種からの求人の問合せが増えてきているため、景気の回復を見込んでいる。
		人材派遣会社(社員)	・自動車業界及び周辺産業など、一部の業界での先行きが不明瞭な点はあるが、ITや生産設備、半導体周りを中心に需要が高まっている業界もある。当面は全ての業界が一気に悪くなるという見通しはなく、市況感に応じて客の需要を適切に把握し、そちらに合わせた行動をすることで支援人数を増やせる見込みである。
		人材派遣会社(社員)	・ワクチンの接種状況が進み、10月からは宣言も解除となる。サービス業中心に復調するとみている。
		人材派遣会社(社員)	・ワクチン接種が進んでおり、全国的に感染者数も減少傾向にあるので、若干回復傾向に向かっているとみている。
		新聞社[求人広告] (担当者)	・9月末で緊急事態宣言などが解除されても、経済活動が本格的に動き出すことはなく、様子見しながらの動きになり、徐々に改善していくとみている。今後、新型コロナウイルスの新規感染者数の急拡大などがなければ、年明け以降大幅に改善するとみている。
		新聞社[求人広告] (担当者)	・県独自の緊急事態宣言も解除となり、県の旅行支援が再開する。関連業界も含めた経済活性化につながるとみている。
		職業安定所(職員)	・飲食店など人流に左右される業種は、ワクチン効果による人流回復によって年末にかけて少し上向き、求人も増えるのではないかとみている。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減るにつれて人流も回復傾向になってきている。年末までに飲食、観光に客が戻っていくことが期待できる。
		学校[専門学校]	・第6波が懸念されるが、新型コロナウイルス新規感染者数の減少、緊急事態宣言等解除に合わせ、総裁選挙による一時的な経済の活性化が期待される。しかし、新内閣の動向によりそれが期待できないことも十分に考えられる。
		人材派遣会社(社員)	・現在のコロナ禍においては求人数、求職者数の動きを含めて、採用が多くなるなどの期待はできない。ワクチン接種も大分進んでいるが、どのような影響があるのかについては何ともいえない。
		人材派遣会社(社員)	・新型コロナウイルスの感染が一時的に収束している。リバウンドがなければよいと考えている。
		新聞社[求人広告] (担当者)	・コロナ禍の影響はまだ続くと予想する。
		職業安定所(職員)	・少子高齢化による労働力人口の減少の影響もあるものの、新型コロナウイルスによる影響が少なく人手不足を訴える企業から多数の求人が提出されており、有効求人倍率が2倍を超える状況が続いている。
		アウトソーシング企業 (社員)	・新型コロナウイルスの終息がみえないなかで、人減らしが多く起こっているようである。
		職業安定所(職員)	・前年と今年の8月の有効求人数と新規求人数を比較すると、有効求人数は約400人増加しているが、新規求人数は約400人減少している。自動車メーカーが減産体制に入ったため、自動車部品製造工場でライン停止などの影響が出てきており、今後の推移が懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北関東)		コンビニ（経営者）	・11月にイベント予定があり、予約もたくさん入っているので、良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、緊急事態宣言解除となれば、人は少しずつ動く。常連客に話を聞くと、外出を相当我慢しているようである。また、ワクチンパスポート等の導入で、忘年会などでもできるようになることを期待したい。
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・10月から緊急事態宣言が解除され、与党の新総裁も決まり、皆が前に進む方向性になると思うので、人流は良くなる。
		都市型ホテル（総支配人）	・今が底だとみている。緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の解除が決定し、国や県の政策が行われていくはずなので、間違いなく現状よりは良くなる。しかし、早急に効果が現れると楽観視してはいない。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数減少が続き、幼稚園、学校等の行事は、時間を短縮しながら実施する予定が入ってきている。
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルス感染者数の増減に左右される可能性はあるものの、ワクチン接種率の更なる上昇により、感染者数や重症者数も一定のレベルに抑えられていくと推察している。
		百貨店（店長）	・緊急事態宣言が解除となり、上向くことが期待できる。
		スーパー（商品部担当）	・9月の大型連休の人の動き方や、新型コロナウイルスワクチンパスポート的な経済活動の後押しが、多少でも景気回復に貢献するのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・Go To EatやGo To Travelキャンペーンが、今後再開する可能性があるため期待している。
		コンビニ（経営者）	・年末年始向けの高単価商材が出てくるほか、予約商材やイベント等もあるため、良くなる。
		コンビニ（経営者）	・10月から緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスのワクチン接種率の上昇等から、客の心理は外へと向かっていく。そういった面では良くなっていくと思うが、3か月後となると、感染拡大第6波も考えなくてはならないと危惧している。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進んだことにより、元の生活に戻る人が多く、売上等にも期待を持っている。しかし、最低賃金の変更に伴う時給変更で、人件費の増加が大きく、経費的に苦しくなりそうである。零細企業の経営からすると大変厳しいものがある。
		衣料品専門店（店長）	・緊急事態宣言が解除されて人流が再び活性化されれば、消費が伸びる可能性はあるだろうが、新型コロナウイルスの感染拡大第6波のおそれがあるために、予断を許さない。
		衣料品専門店（販売担当）	・今後の見通しというか出口戦略、具体的な政策が全くないので、皆が疑心暗鬼で、外に出られない状況のままだと思う。新型コロナウイルスのワクチン接種がある程度進めば、客が出てくる可能性もあるので、今までよりは1人でも多くの客が来てくれることを願って、希望的観測を含めて、やや良くなるという判断である。
		家電量販店（店長）	・人の動きが出てくれば、売上は増えてくる。
	自動車備品販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、今までは閉塞感が先行していた。今後、政治のせいばかりとはいえないが、政治も良いかじ取りで前向きになれば、かなり回復に向かうのではないかと。そういった政治に対する期待感が、我々の内面にあるのではないかと。	
	住関連専門店（仕入担当）	・段階的にせよ、今後行動制限が緩和される見込みのため、今より悪くなることはない。	
	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・緊急事態宣言解除の方向に向かえば、徐々に客足は戻ると予想している。新型コロナウイルスのワクチン接種も進み、年末に向けて人も回復するのではないかと。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言解除になれば、少しは良くなるのではないかと望みをかけている。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・ワクチン接種の進展や緊急事態宣言の解除等により、最悪の状況は脱していくと期待したい。しかし、新型コロナウイルスの影響の長期化で、今の就業や生活のスタイルが定着し、単純に新型コロナウイルス発生前に戻ることはないとみており、定着したスタイルにフィットした取組が不可欠になる。
		都市型ホテル（支配人）	・新型コロナウイルスのワクチン接種を済ませた人が増えているので、少しずつ回復傾向になる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・緊急事態宣言の解除や新型コロナウイルスのワクチン接種率の上昇に伴い、県独自の旅行キャンペーンも始まると報道されており、ある程度の回復が見込まれる。しかし、会食を伴う集まりは、いまだ反応が鈍く、忘年会需要の見通しは立てにくい。宿泊はビジネス利用が8割なので、県境移動がオープンになれば、追い風になるのではないかと。
		旅行代理店（経営者）	・緊急事態宣言解除による当県独自の旅行補助金事業が開始される予定のため、やや良くなる。
		旅行代理店（所長）	・10月から緊急事態宣言が全国一律で解除されることで、これまで控えられていた団体や個人の旅行需要は上向くと期待している。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大第6波や冬季に向けてインフルエンザの流行も懸念されており、心配である。
		旅行代理店（従業員）	・団体旅行が動き始めている。しかし、客との約款がかなり客側に有利なため、関係機関との契約を改善しないと直前取消の場合に大きな赤字となる。
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言解除による景気回復はあるものの、前年や2年前までの回復は見込めない。
		通信会社（総務担当）	・20～50代の新型コロナウイルスのワクチン接種も進んでおり、緊急事態宣言解除とあわせて、来客は増える見込みである。
		テーマパーク（職員）	・緊急事態宣言解除で学生団体の来園者が見込まれるほか、紅葉シーズンを迎え、個人客の増加が期待できる。
		美容室（経営者）	・既に日本の株式市場は、世代交代、政治の新体制による変化を期待して上昇している。
		百貨店（営業担当）	・来月以降は緊急事態宣言も解除される見込みだが、新型コロナウイルスのワクチン接種率や冬に向けての感染再拡大の懸念等、依然として先の見通しは不透明である。向こう数か月は現状維持と予想される。
		コンビニ（店長）	・緊急事態宣言は解除されるようだが、この先に、下がってしまった売上が増えていくとは思えない。
		衣料品専門店（統括）	・最近は今々今までにないような注文が入る。通常の買物とは違うので、早く祭礼等が通常に戻るよう期待したい。
		乗用車販売店（経営者）	・当社のような自動車販売、整備業は、車検制度により極端な売上減はない。ただし、新車販売では受注しても納期が数か月先になってしまう。特に、中型トラック等は6か月以上が当たり前で、そのうちには資金繰りにも影響が出てくるのではないかとと思うくらいである。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型コロナウイルスが落ち着かないと、景気は上向かない。商店街は火の消えたような状態で、緊急事態宣言が解除されたからといって、すぐに客が戻るわけではないので、徐々に良くなっていくとは思いますが、すぐに良くなることはない。
		住関連専門店（店長）	・緊急事態宣言は10月で解除になるが、すぐには景気回復は見込めない。新型コロナウイルスの感染者が再び増加すれば、またいつ緊急事態宣言が発出されるかわからない。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	・小売を営んでいる者としては、精神的な面で、客が買物の楽しさを忘れてしまい、これを解くには時間が掛かると思っている。また、自動車業界では、商材不足が表面に出てきているが、アジアで生産がコントロールできない状態が続くそうなので、大きな問題になってきている。
		タクシー（経営者）	・全体的に人の動きが悪いので、この先も良くないとみている。
		通信会社（局長）	・新型コロナウイルス次第という状況は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競輪場（職員）	・新型コロナウイルスのワクチン接種者が増え、感染者数が減少していることから、緊急事態宣言解除後の景気の回復に期待したい。ただし、解除後に客足が戻るのか、感染拡大が繰り返されるのかは不透明であり、当面の間は、現状が続くのではないかと。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・良くなると思いたいが、ここまで冷え込んだ景気は簡単に回復するとは期待できない。体力のない我々中小企業は維持するのが精一杯である。
		設計事務所（所長）	・緊急事態宣言が解除されても、11月以降再び感染拡大を懸念する声もある。新型コロナウイルスのワクチン接種が進んではいるものの、しばらくは景気上昇は見込めない。
		設計事務所（所長）	・緊急事態宣言解除によって新型コロナウイルスの感染対策をしながら、徐々に行動をするべきなので、この2～3か月は様子見となるのではないかと。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・リフォームや建て替え等の大規模な依頼や相談は、ほぼない。現状は、必要最低限の修繕程度にとどまっていることからみても、この先もしばらくは変わらない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・季節柄、閑散期となるため、売上は落ちる。
		乗用車販売店（販売担当）	・半導体不足で、客が車の購入を決めても納車ができないためにキャンセルが相次いでいる。2～3か月先に良くなる要因もないので、まだしばらくはこの状態が続く。
		その他専門店〔燃料〕（従業員）	・受注と受注残が減少しており、厳しい状況が続いている。
		通信会社（経営者）	・半導体不足や新型コロナウイルスの影響によるベトナム等、東南アジアの製造工場の生産ストップで、商材入荷の見通しが立たないということで、大変厳しい状況である。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	・9月末で緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が全面解除される。観光業に従事している当社としては明るい話題である。しかし、周辺の店主や問屋の営業の話では、全面解除という言葉で人々の活動が活発になり、10～11月に再び新型コロナウイルスが感染拡大し、年末年始に再度緊急事態宣言が発出され、また厳しい年末年始となるのではないかとという見方である。政府や自治体には、早急に制限緩和の具体的方針を出してもらおうと同時に、飲食店等の業者に対策をゆだねるのではなく、利用する一般市民への啓もう活動を積極的に行ってもらいたい。事業者の対策を利用者が守らない現状もあることを理解してほしい。
	×	家電量販店（店員）	・前年の特別定額給付金のようなものでもない限り、消費行動は促進されない。
	×	都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルス感染防止策が経済の動きを止めている。自粛要請はするが、その間の売上減や資金繰りの悪化に対しては自己責任となっている。宿泊、飲食業界のみならず、仕入れ業者や酒類販売業者等への影響も大きい。
	×	タクシー（役員）	・国の新型コロナウイルス対策が余りにもレベルが低いことが悪くなる原因である。
企業 動向 関連 (北関東)		-	-
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・緊急事態宣言が解除されて、今まで家にいた人たちが外に出るようになれば、少しは売上が増える。
		社会保険労務士	・取引先の社長達は2回の新型コロナウイルスワクチン接種が済んでいるからか、今より先のことは明るい話をする人が多い。
		化学工業（経営者）	・引き合いはあるものの、受注まで至らないことが多い。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響も受けず、現状維持である。
		金属製品製造業（経営者）	・従業員が新型コロナウイルスワクチン接種後に、副反応で2～3日休んだので、仕事に支障が出て困る。
		金属製品製造業（経営者）	・客から、発注額は変わらないといわれている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・国内主要自動車メーカーの組立ライン稼働が戻るかどうか全てである。11月には戻る計画も出ているが、不透明感が強く、楽観的にはなれない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先の受注量等は6～8月と良かったが、今月はやや落ちてきている。10月辺りからは若干回復する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
x		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・しばらくは、新型コロナウイルスの影響が残ると考える。
		輸送業（営業担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種も進み、人出も増える見込みなので、特に、レジャー、バーベキュー、園芸用品等の物量は増える予測である。また、冬物家電等が動き出して、冬物寝具等の物量も増える予定なので、前年並みの物量は確保できそうである。
		不動産業（管理担当）	・新規案件もあるものの、テナント撤退による賃料や維持管理作業の減少もあるため、トータルでは変わらない。
		広告代理店（営業担当）	・良くなる兆候は何もない。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルス禍の締め付け政策の緩和を期待した生活行動の活発化が期待できるものの、依然として先行き不透明感が強く、地域経済は緊急事態宣言の終結と国のアフターコロナの明確な政策次第となっている。
		司法書士	・余り変わらずにいくのではないかと。例年、仕事は今頃から12月末に向かって比較的忙しくなるので、今年はどうなるのかと思っている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・特段の変化はみられない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・日に日に部材の入りが悪くなっていて、2月に注文した部材がまだ入ってこない。もう、どうにもならない状況だが、これからもっとひどくなる予測も出ているので、当社にとっては悲劇的な状況が目前に迫っている。
		建設業（総務担当）	・発注ペースが悪過ぎて、良くなる兆しはない。
		建設業（開発担当）	・今期の公共工事は前年比12%減と厳しい。前年は令和元年に発生した自然災害の復旧工事があったのでその影響である。今後を考えた場合、新型コロナウイルス禍で、国、地方共に財源が厳しいため、公共工場の厳しい状況は続く。当社も前期比10%減の受注と、厳しい状況である。
雇用 関連 (北関東)		-	-
		人材派遣会社（経営者）	・衣料品は秋冬物に変わる衣替えの月でもあり、動きが始めていると肌で感じている。住宅関連部門も募集等の内容によつては動き出す傾向となる。公共事業関連では県から上下水道工事等の発注もあるので土木は募集の動きがある。製造は食料品高騰の影響が微妙で、分からない。今後に期待したい。
		人材派遣会社（社員）	・当社取引先は宿泊施設関係が多いが、そちらの予約状況も改善してきて、かなり宿泊者数も増え、稼働率も上がってきている。10月1日から緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が解除されるので、稼働率が上昇するというか、戻りつつあることに期待が持てそうである。
		職業安定所（職員）	・休業要請で休業している事業所では新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいるため、緊急事態宣言解除後は経済活動が盛んになると見込んでいる。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・新型コロナウイルス対策が進んでワクチン接種率も上がり、不安感が拭えてきている。新たなWithコロナに向かっていくのではないかと。ただし、感染拡大第6波への不安もあるため、景気回復には懐疑的な感もうかがえる。
		人材派遣会社（社員）	・半導体不足が解消されず、輸送機器関連企業からの受注増は見込めない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数、有効求人数共に増加傾向にある。新型コロナウイルスの感染状況が今後どうなるか不安なため、求人も正社員以外の募集が多くなっている。このような状況から、先行きは不透明であり、今後の動きを注視していく必要がある。
		人材派遣会社（管理担当）	・大手自動車メーカーの生産調整のため、自動車部品製造派遣が減少する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	*	*

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (南関東)		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種状況はプラスに働く。諸外国の事例から、間違いなくどこかで第6波が来ると思われるが、人々が正しく恐れる方向に向かっているように感じられる。マスクをして、大人数での会食や不特定多数での接触を避ける。これを保ちながら、でき得る限り日常を取り戻していく。そのような感じを街中を出歩く多くの人から見てとれる。今でも街の人出はすごく多いので、ワクチン接種が進むと、もっと多くの人々が安全と思われる当地域のような街から動き出してくるようになる（東京都）。
		その他専門店〔雑貨〕 （営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向と、ワクチン接種の進展状況に鑑みて、秋から年末にかけて県をまたぐ人の動きがようやく戻ってくる（東京都）。
		高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染拡大防止のための各種要請が緩和される予定である。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種等、感染対策が進み、緊急事態宣言も解除され、新型コロナウイルス発生以前の状況にかなり近づく。10月から全店舗で営業するので、急速度で回復してくれないと困る（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・当社の営業体制も確実に新型コロナウイルス感染拡大後に対応した形に整備が進み、事業的には回復に向かっていく。その進捗とともに、新型コロナウイルス感染拡大後としての利益が取れるようになってきている（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・緊急事態宣言が明けると、人流が間違いなく増加する。稼働が上がることを願うしかない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・緊急事態宣言の解除により、ビジネスとレジャーの動きも活発になる。また、Go To Travelキャンペーンが再開されると、ホテル業としては単価もしっかりと取れ、売上につながる（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・9月末で緊急事態宣言が解除される。Go To 2.0への期待もある（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、緊急事態宣言解除後は需要が増える（東京都）。
		旅行代理店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数も減ってきているし、今月末で緊急事態宣言等も解除される見通しとなっている。また、Go To Travelキャンペーンが再開されるかもしれないという情報もあり、国内個人、法人又は修学旅行、年末の旅行シーズンに入るので、より一層の販売が期待され、良くなる（東京都）。
		一般小売店〔家電〕 （経理担当）	・緊急事態宣言が解除されれば、来客数も増えてくる。
		一般小売店〔家具〕 （経営者）	・新型コロナウイルスが9月一杯で何とか収まってくれば、客も増えてくるのではないかと。これからは多少良くなるような気がする（東京都）。
		一般小売店〔祭用品〕 （経営者）	・緊急事態宣言が解除され、人流ができ、滞っていた事業が少しでも再開され、新たな需要が生まれることに期待している。
		一般小売店〔文房具〕 （経営者）	・緊急事態宣言の解除及び新型コロナウイルスのワクチン接種も進んでいることから、今後は人出が増加傾向になることが予想される。それに比例して、来客数や売上も増加する（東京都）。
		一般小売店〔眼鏡〕 （経営者）	・今のまま新型コロナウイルス感染者数が減少していけば、恐らく10月1日以降は緊急事態宣言が解除となり、幾分、人の流れが回復する。
	一般小売店〔書店〕 （営業担当）	・新型コロナウイルスの収束に伴い、例年の年度末向けの受注増加が見込まれる（東京都）。	
	百貨店（売場主任）	・全ては新型コロナウイルスの感染状況によるが、ワクチン接種証明書などの活用や行動規制の緩和が行われれば、おせち、お歳暮等、年末商戦に向けて消費の高まりを期待したい（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・半年ぶりに緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が発出されていない状況となり、消費マインドの回復を期待したいが、新型コロナウイルス感染が抑えられたままでいられるかは不透明である。
		百貨店（総務担当）	・10月以降の緊急事態宣言の解除とともに、客の消費行動が活性化すると期待せざるを得ない。感覚的には現状が底に近く、これ以上の悪化はないので、今よりは良くなるのではないかと、という消極的な理由によるところが大いにある。今後の景気対策も重要ではあるが、新型コロナウイルス第6波が来た場合にはこの限りではなく、心配な面もある（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルス陽性者数がピークアウトしてきていること、2回目のワクチン接種率が55%を超えてきていること、9月末で緊急事態宣言の解除が見込まれることから、10月以降は外出する機会が少しずつ増え、個人消費の改善が見込まれる（東京都）。
		百貨店（広報担当）	・新型コロナウイルス感染再拡大のリスクはあるものの、ワクチン接種の進展などもあり、消費マインドは緩やかに回復していくと予想される（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・今月末で緊急事態宣言が解除されることは歓迎するが、これから年末にかけて一番大事な商戦を迎えるに当たり、いつまた緊急事態宣言が発出されるか不安である（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・対象客層の新型コロナウイルスのワクチン接種率が高まることで、買物に行くことに対するハードルが下がる（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・緊急事態宣言が解除され、10月から営業時間も新型コロナウイルス発生以前に戻る。既に年末年始需要の兆しもあり、客からの問合せが多くなっている。また、新型コロナウイルス禍を経て、11月以降、新たな売り方へのシフトもスタートするなど、変化に対応する体制も整えている（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向となり、9月末での緊急事態宣言解除が見えてきたこと、ワクチン接種が進展していることから、急激な回復は難しいものの、少しずつ良くなる。外出機会の増加により、アパレルや洋品雑貨への波及効果もあることから、期待している。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、年末年始に向けたお出かけ需要が復活の兆しを見せれば、外出着や贈答品の需要も回復傾向になる（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進むにつれ、今まで若い人が多かったが、40～50代の客も来店するようになっていく（東京都）。
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況次第のため不確定要素が強いが、今までと異なり、多少ワクチン効果が期待できるかもしれないと予測している（東京都）。
		百貨店（店長）	・緊急事態宣言の解除により10月は景気回復に向かうと思われるが、新型コロナウイルス第6波が冬に来るとの予測もある。
		百貨店（財務担当）	・新型コロナウイルス感染者数の減少、ワクチン接種の進展及び緊急事態宣言の解除等により、段階的に改善すると想定している（東京都）。
		百貨店（企画宣伝担当）	・週によっては客足が戻りつつあるので、緊急事態宣言解除後はそうした動きが加速するものと期待している。
		百貨店（管理担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進展し、感染者数も減少傾向にある（東京都）。
		スーパー（販売担当）	・9月末で緊急事態宣言が解除される見通しとなっている。緊急事態宣言中は営業時間を短縮していたが、時短営業がなくなるようであれば、売上も伸びていく（東京都）。
		スーパー（経営者）	・食料品は秋に売上が伸びる。
		スーパー（総務担当）	・10月1日から緊急事態宣言が解除されるということ、また、新型コロナウイルスのワクチン接種率も上がってきて、新規感染者数も減少していることから、客の動きが活発になる。それに伴って買上、購買意欲も上がってくると思われるので、そこに期待して勝負し、売上につなげていきたい。
		スーパー（総務担当）	・皆が外出して、お金を使い始める。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言が解除されれば多少期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・今月末で緊急事態宣言が全面解除されるということなので、物販や飲食店の客は増え、売上が伸びる。1年半こうした生活をしているので、すぐにとということではなく、徐々に増えてくる。ただし、また新型コロナウイルス感染が再拡大してくると、同じようなことが起きるのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言の解除により、外出が増え、消費が喚起されることを期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・緊急事態宣言明けで来客数が戻ってくれば、売上も回復するので期待したい（東京都）。
		コンビニ（商品開発担当）	・緊急事態宣言の解除、さらに、新型コロナウイルスのワクチン接種が進むことにより、購買行動が積極的になることを期待したい（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	・緊急事態宣言が全て解除されることにより、外出着が売れる。
		衣料品専門店（店長）	・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等が解除されるため、客の流入増加を見込める（東京都）。
		衣料品専門店（統括）	・緊急事態宣言が解除された上でのビジネス活動、プライダルの再開、娯楽の需要等に期待している。
		衣料品専門店（役員）	・気温の低下とともに、9月末で緊急事態宣言が解除され、外出機会が増えることを期待したい。
		家電量販店（店員）	・年末年始は需要が伸びる。
		家電量販店（店員）	・緊急事態宣言を受け、自粛の流れから、暖房器具等の季節商材の動き出しが例年より早くなると予想する。テレビを中心とするAV機器も、地上デジタル放送開始時に購入した客の買換え需要が引き続きあるので、好調の流れが続く。パソコンも新OSに伴う買換えがあるとみている。
		家電量販店（経営企画担当）	・9月末を期日とする緊急事態宣言が解除されると予想する。一気に新型コロナウイルス発生以前に戻るわけではないが、客の行動心理に大きな改善が見通せる状況となっていけば、おのずと我々の業績に大きく寄与する（東京都）。
		乗用車販売店（販売担当）	・9月30日をもって緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が解除されるため、企業は相当に期待している。いろいろな移動が認められるようになれば、景気は今後良くなる。車関係は、展示会や、移動でETC、高速道路が利用されることで、いろいろな利益が上がる企業も多くあるので、今後については景気が良くなるのではないかと（東京都）。
		乗用車販売店（総務担当）	・半導体不足の影響が解消してくると予想し、景気は上向き。
		乗用車販売店（店長）	・新型コロナウイルスが落ち着いたとはいえないが、販売量は横ばい若しくは上向きになる。
		乗用車販売店（営業担当）	・新車の納期が落ち着いてくる（東京都）。
		任関連専門店（営業担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進展、自粛疲れ等もあり、消費意欲は拡大に向かう（東京都）。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進展するので、感染者数が少し落ち着き、客の来店が増えると良い。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・ようやく緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種が行き渡る見込みもあることから、年末に向かって行動範囲が広がり、需要も増えてくる（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、緊急事態宣言も解除されれば、来客数も増える（東京都）。
		高級レストラン（役員）	・新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向にあり、このままいけば緊急事態宣言の解除も考えられる。解除によって営業時間延長、酒類販売解禁に至れば、来客数、客単価、売上の回復が期待できる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染対策の緊急事態宣言が解除され、通常営業に戻れば、今までより少しは良くなる。ケータリングも、宣言解除後は少しは入ってくるとみている。どうなるか分からないが、今までよりは良くなることを期待している。
		一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言が9月一杯で解除されると思うので、2～3か月後に新型コロナウイルスの感染第6波が来ない限り、景気は良くなっていく。これは新型コロナウイルス感染者数や、国及び県の方針によってまるっきり変わる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・10月1日から緊急事態宣言が解除され、若干規制は残るにしても、お酒の提供が解禁になり、複数での会食もできるようになることを考えると、暮れに掛けて若干売上が伸びてくる。予約も既に何件が入っている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・9月で緊急事態宣言が解除され、来月になると20時までお酒を提供できるようになるので、その影響で売上が伸びてくるのは確実である（東京都）。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・緊急事態宣言が解除されそうな雰囲気なので、まともに営業できるようになれば、人が動き、流れが変わってくる（東京都）。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・総理大臣が変わることへの期待感は大きく、前向きに進む。新型コロナウイルス対策が大きな鍵になることは間違いない。デンマークのような成功例を、日本でもできるような政策をしてほしい。誰しも景気が良くなってほしい気持ちは同じで、何が正解かは誰にも分からない。しかし、国のトップがリーダーシップを発揮して、トライアンドエラーで明るい未来を描けるような政策を行ってほしい（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・9月一杯で緊急事態宣言が解除され、酒類の提供と営業時間等への規制が緩和されれば、今よりは良くなってくる。新型コロナウイルスの新規感染者数や、ワクチン接種の進展次第だが、第6波が来るのではないかとも言われており、非常に不安定な状況のなかで10月を迎える。新政権にはその辺の対応を迅速にお願いしたい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・緊急事態宣言解除の方向で検討しているが、酒類提供の規制緩和が進めば、新型コロナウイルス感染対策を講じた上で、来客数が増えて販売量も上向きになる。1月くらいまでの3か月間は感染が落ち着いていることに期待したい。
		旅行代理店（従業員）	・9月までは新型コロナウイルス第5波の影響でほぼ案件がなかったが、10月からは催行案件が出てくるので、少しは良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・緊急事態宣言の解除後に期待している（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、感染者数が減少してきているので、国内旅行には少し明るい兆しが見える。一方で、海外旅行はワクチンパスポートと帰国後の自主隔離の緩和次第である（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染者数が減少し、緊急事態宣言も解除される予定であることから、世の中に明るい兆しが見えてきており、10月～年末にかけての景気は、若干ではあるが回復しそうな予感がする。
		タクシー運転手	・週後半になって、新型コロナウイルス対策として発出されている緊急事態宣言の解除を判断するニュースが流れたので、人流も増えてくるとみている（東京都）。
		タクシー運転手	・恐らく来月から緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルス感染者数もそれほど増えないと思うので、期待を込めてやや良くなる。新型コロナウイルス発生以前のような完全復活とはいかないが、今よりは良くなる（東京都）。
		タクシー（団体役員）	・緊急事態宣言が10月から解除されれば、多少は良くなると期待を込めている。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種もかなり行き届いて、感染が収束に向かい、客も少しずつ消費に向かうとみている（東京都）。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルス感染拡大の動向が不透明ではあるものの、ワクチン接種が進み、様々な制限が緩和されることが期待できるので、客の動向も少しずつ改善する（東京都）。
		通信会社（社員）	・イベント事業もやる前提で計画が立てられているようで、前々年ほどまでではないが、戻ってくると感じている（東京都）。
		通信会社（社員）	・緊急事態宣言の解除と季節的な要素を考えると、申込数は前年を上回るとみている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言が解除され、法人の異動や大学への通学等が増えてくれば徐々に回復する。
		通信会社（局長）	・10月以降、緊急事態宣言が解除され、当社規定の訪問営業が解禁となるため、グロスの伸長が期待できる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（経営企画担当）	・このまま新型コロナウイルス感染拡大が落ち着き、緊急事態宣言が解除された状態が継続すれば、やや良くなる（東京都）。
		通信会社（総務担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進展や、感染者数減少によるマインド転換から、訪問営業機会等が回復することを期待している（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・9月末での東京都の緊急事態宣言解除により、景況感が回復することを期待している（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・年末に向けて新型コロナウイルスのワクチン接種も進展するだろうし、ここ最近の感染者数の減少を見る限り、少しずつではあるが平常化への道を進んでいる。
		パチンコ店（経営者）	・9月に入り、新型コロナウイルスの感染者数が劇的に減り、合わせてワクチン接種率が上がるなか、緊急事態宣言解除後の政府の景気浮揚対策が期待され始めている。
		競輪場（職員）	・新しい競輪を立ち上げて開催する。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・緊急事態宣言の解除が発表された（東京都）。
		その他レジャー施設 [総合]（広報担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、人出が増えるが、感染第6波が心配である（東京都）。
		その他レジャー施設 [複合文化施設]（財務担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進展により、来場者数が増加しつつある（東京都）。
		その他サービス[福祉 輸送]（経営者）	・9月末で緊急事態宣言が解除されれば、しばらくは消費行動が多くなると見込んでいる。3か月後くらいに、また新型コロナウイルス感染者数が増えて悪影響を及ぼさなければ、少しずつ需要が回復していくのではないかと（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・今後は戸建て需要が落ちてくると思うので、土地の仕入れも若干しやすくなると感じている。建築に関しては、今はウッドショックが影響しているが、少しずつ収まってくるとの情報も入っているため、少し良くなる。
		一般小売店[和菓子]（経営者）	・緊急事態宣言が解除になり、期待感はあるものの、またりパウンドで新型コロナウイルス感染第6波が来るのではないかとという不安もある。
		一般小売店[家電]（経理担当）	・緊急事態宣言が解除されても、観光や飲食とは違うので、すぐに変わると思えない。展示会や訪問活動はまだできないので、今は少し声が掛かったところに訪問する形を取っていかうと思っている。
		一般小売店[印章]（経営者）	・非常に厳しい状況のなか、緊急事態宣言が9月末に解除される。大きく影響があるのは飲食店だと思うが、営業時間は相変わらず20時までということで、思うようにはいかない。厳しい新型コロナウイルス禍のなかでは、緊急事態宣言が解除されても、まだまだ経済が立ち直っていないので、耐えるしかない。
		一般小売店[米穀]（経営者）	・やはり新型コロナウイルスの感染状況が不安定なので、大きな変化はなく、経済は慎重な動きになると予想される（東京都）。
		一般小売店[傘]（店長）	・落ち込んだ消費が早急に回復するとは思えず、見通しが立たない。
		一般小売店[生花]（店員）	・9月はお彼岸という大イベントがあったが、11月、12月もクリスマスや歳末商戦で、9月と同じような売上になるのではないかと（東京都）。
		一般小売店[文具]（販売企画担当）	・外商案件は伸びてはきているが、新型コロナウイルスの感染状況によって左右されることは多分にしてある。また、店頭部においては、近隣の金融機関の撤退により来客数が急激に伸び悩んだことで、支店の売上が急激に減少している。そうしたものを差し引くと、現状維持という形になるのではないかと。
		一般小売店[茶]（営業担当）	・緊急事態宣言が今月末で解除されてみないことには分からない。このまま継続にはならないことを祈るばかりである。当社としては人が動いてくれないことには販売数も伸びない（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が依然として大きい（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルス感染第5波は収束の気配が見えてきたものの、再拡大による第6波も懸念され、これから冬に向けてはインフルエンザウイルスの感染拡大もささやかれるなか、先行きが全く見通せない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・英国や米国のように、経済にかじを切らないと、大きくは変わらない（東京都）。
		百貨店（経営企画担当）	・緊急事態宣言解除後も新型コロナウイルス感染対策がなくなるわけではなく、当面の間は様子を見ながら徐々に対策を緩める動きになると予想している。人の動きがある程度見込めることから、徐々に回復傾向に向かう（東京都）。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大がこのまま収まってくると、多分売上は減ってくると思うが、何ともいえない。それ以外の要因としては、天候や、野菜の相場がやや高くなってきていることがあり、ある程度は物価が持ち直している。また、いろいろなものが値上がりしており、値上がり前の需要と、値上がり後の需要低迷、様々な部分があるので、総じて良くなるとはいえない。悪いなりに変わらない。
		スーパー（店長）	・緊急事態宣言の解除後も、しばらくの間は今の生活が続くものと思われるので、来客数や購買数に大きな変化はない。
		スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いており、経済全体も厳しいなかでは上向き要素もないので、同様の状態がしばらく続く（東京都）。
		スーパー（営業担当）	・今後しばらくは現状のまま変わらない。ただし、台風や降雨等、天候によって売上が左右されることもあるため、それが景気を左右する要因の一つになってくる（東京都）。
		スーパー（仕入担当）	・緊急事態宣言は解除される見込みだが、まだまだ人の動き自体は大きく変わらないと思われるので、巣籠り需要は続く。
		スーパー（販売担当）	・緊急事態宣言が解除されても、新型コロナウイルス感染第6波も想定されるため、外食などは余り増えないと考えられる。ボーナスも抑えられ、景気回復は見込めない。
		コンビニ（経営者）	・特にはないが、新型コロナウイルスの影響と、近隣に店が増えていることが原因である。
		コンビニ（経営者）	・首都圏の緊急事態宣言が解除され、飲食店でアルコールが提供されるようになると、当店の夜の来客数は少なくなると考えられる。また、逆に、新型コロナウイルス感染第6波が来て、全く客が来なくなることも考えられ、両方の不安があるので、余り良くなるとは思えない。
		衣料品専門店（経営者）	・変わらないと回答したが、分からないというのが本音である。まだまだ低迷が続いており、当店のような物販店は、緊急事態宣言が30日で解除されても、すぐに戻るかどうかは不透明なので、まだまだ厳しい状況が続くのではないかと。いまだに催事を開けていない状況なので、どこまで客が戻ってくるか分からない。
		衣料品専門店（従業員）	・新型コロナウイルスに対する不安で、景気はまだ戻らない。
		家電量販店（店長）	・与党総裁選の選挙結果により経済対策が採られ、良くなってほしいが、楽観視はできない。収入が減っている家庭の購買意欲の低下を懸念している。また、新型コロナウイルスのワクチン接種が進むことにより、旅行や飲食に消費が集中する（東京都）。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスによる販促策の自粛により、来客数の伸びが期待できない（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っている。販売は余り芳しくないが、今月は少しずつ良くなっているように感じる。
		乗用車販売店（経営者）	・緊急事態宣言が解除されても、新車の売上が急に増加するとは思えない。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・どう見てもこれから先、景気が良くなるような感じがしない。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・売上につながる接客数は多いが、接客の絶対数が少ないため、しばらくの間は現状と変わらない（東京都）。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・新政府の対応に期待しているが、こればかりは分からない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。ワクチン接種が進むのは好材料だが、それ以外の対策が進んでいるのかが甚だ疑問である。
		高級レストラン（営業担当）	・各要請が解除されても、急激な回復は期待できない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・夜の飲食規制解除のタイミングが不透明で、解除後を見据えた仕入れ、仕込みなどの営業準備が難しい（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・まだ先行きは見通せない。新型コロナウイルス感染者数は減っても、減る原因、増える原因が不明なため、飲食店への制限は常に厳しく、政府の見解、対応が不明瞭である。したがって、経営状況がなかなか安定しない（東京都）。
		都市型ホテル（支配人）	・売上が創業以来で最低となっており、これ以上悪くなりようがない。事業継続の危機に陥っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・まだしばらくは新型コロナウイルスに対する警戒が続く。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルス禍での外出自粛が続いている。営業時間等も解除されてくるとは思うが、皆それぞれ不安を感じているので、我々旅行業までは、なかなか景気の良さを実感できるようにはならない。
		タクシー運転手	・今は新型コロナウイルス最優先で対策し、我々の考え方も変えなければいけないのかもしれないが、個人では力が及ばない。はっきりとした進路を示して、新型コロナウイルス最優先で対策してほしい。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進展により、新たな設備投資に対する心理にも変化が出てくると思うが、感染者数のリバウンドも警戒されるなかでは、本格的な回復には時間が掛かる。
		通信会社（管理担当）	・緊急事態宣言の解除により営業活動が正常に戻り、回復することを期待している。
		通信会社（管理担当）	・イエナ消費における時間が、新型コロナウイルスの感染状況の改善と共に薄れることを懸念している。一方、テレワークだけではなく、教育環境のインターネット回線について、国の補助や民間企業の参入などが後押しされれば、業界の活性化になる。
		通信会社（営業担当）	・良くなると思える材料がない。
		通信会社（営業担当）	・当社では当面の間、訪問型営業は自粛すると思うので、売上等は変わらない（東京都）。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・数か月間悪いままで、良くなる要素が見当たらない。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・先行きは、新型コロナウイルスとの共存で日常に戻っているとみている。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・前々年比で、問合せ件数が回復してきていない。
		設計事務所（経営者）	・新しい案件の話は、今のところ出てきていない。
		設計事務所（所長）	・政権が変わり、どうなるか分からない。また、新型コロナウイルスの影響もあり、全く見当がつかない。このままの状況が続く（東京都）。
		設計事務所（職員）	・民間の動きの停滞から、どちらかと言えば悪くなる傾向なのかもしれないが、新型コロナウイルスの落ち着き次第というところもある（東京都）。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスが収束しない限り、景気は良くなる見込みはない。早くワクチン接種が進展することと、治療薬ができることを期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・例年、年末や年度末に向かって景気が良くなる傾向があるので、今年もやや良い状況が続くのではないかとみている。住宅ローン控除やグリーン住宅ポイントといった税制や政策の優遇対象の期間は終わってしまうが、それほど影響はないと考えている。
		住宅販売会社（従業員）	・先をはっきり見通せない。
		住宅販売会社（従業員）	・先行きに対する不安から、客の購買意欲が上がるとも思えず、特に状況に変化はないとみている。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・大型案件など注目されるような見通しはないので、低位安定の現状が続く（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・良くなる要素がない。国が景気対策を早急に打ってほしい。県、市経由でなく、直接補助する政策をお願いしたい。
		商店街（代表者）	・現在、補助金をもらって休業している店がかなりある。緊急事態宣言による規制全てが解除され、10月から商売を再開し、特に飲食店ではお酒を出せるようになるが、中には営業再開を諦めている人もいると思うので、そのまま商売を辞めてしまうのではないかと懸念がある。シャッターを下ろしたままの店がかなり増えているので、非常に心配している。
		一般小売店〔家電〕 （経営者）	・これ以上悪くならないでほしいという希望的観測である。とにかく、もう会社自体が回らなくなるような、こちらが仕事を辞めることを考えなくてはいけないのかという気持ちにもなっている（東京都）。
		一般小売店〔酒類〕 （経営者）	・客との会話のなかで、厳しい状況が続いているような話を聞くので、先行きもそのような状況が続くと感じている。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が大分落ち着いてきているので、10月辺りに緊急事態宣言が解除されることが見込まれる。それにより、家庭内での飲食は減少するのではないかと。
		スーパー（店長）	・変わらないと回答したいところだが、今年に入って初めて売上目標が未達で推移している。今までは、売上予算は何か100%を超えていたのだが、初めて売上が落ちている。また、以前は、売上達成率の未達だったが、今月は売上、粗利共に未達となっているので、3か月後の動向も、やはり厳しい状況が続くのではないかと。客に新型コロナウイルス疲れが出てきており、安くても買わず、買いためもしなくなっている。ステイホームといってもなかなか我慢できないのではないかと（東京都）。
		スーパー（ネット宅配担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種者への対応にもよるが、外食や旅行などへのリベンジ消費が増えれば、食品スーパーは厳しくなる。
		コンビニ（経営者）	・販売量が少しずつ減っている（東京都）。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、多少は改善すると期待していたが、感染力の強い変異株の発生や、ワクチン接種を済ませていても万全ではないという不安感から、行動を控える傾向がみられる。
		家電量販店（店長）	・今年一杯、景気回復は見込めない。
		乗用車販売店（営業担当）	・決算の山場が過ぎるので期待できない。
		住関連専門店（統括）	・外出自粛が解除になっても、すぐに売上や来客数等が戻る可能性は非常に低い。
		タクシー運転手	・いつになったら利用者が戻ってくるのやら、全く予想が付かない。最近、マスクをしない30代～40代の客が増えている。また、ワクチンを打ったら大丈夫と勘違いしている高齢者もいる。夜の飲み屋街に活気が戻ってくるのを待つばかりである。
		タクシー運転手	・世の中的には景気がやや良くなるかもしれないが、タクシー業界においては、決して新型コロナウイルス発生以前のような状態にならない。昼夜の利用が元に戻らないままでは、将来的には厳しい（東京都）。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染者数が減少し、緊急事態宣言が解除されそうだが、まだ景気は良くならない（東京都）。
		通信会社（経理担当）	・緊急事態宣言が解除されるため、巣籠り需要が減る可能性がある。VODや固定電話の通話料、電気代等の売上が減ることが予想される。
		美容室（経営者）	・早く新型コロナウイルス騒ぎが収束してほしい。
		設計事務所（経営者）	・やっと新型コロナウイルス感染対策の規制が緩和されようとしているが、これで緩和してしまうと、もっと悪くなったときにどうなってしまうのか。もう少し足元を見て、しっかりとした考え方の下で行わなくてはいけないのではないかと。いずれにしても、新しい営業を踏まえて頑張りたい。所員もそのような気持ちで、これからどのように変わっていくかを楽しみにしている。
		設計事務所（経営者）	・新型コロナウイルスが収束し、民間発注が安定すれば過当競争も落ち着くと思うが、なかなかその兆しは見えない。
		設計事務所（所長）	・仕事量が非常に少なくなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	・新型コロナウイルスの収束がいつになるか、現在のところは分からないので、2～3か月先にどのような状況になるのかは答えられない。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・冬に新型コロナウイルスの第6波が来るといわれているからである。
	×	コンビニ（経営者）	・深夜時間帯の来客数減少はそのまま続きそうである。売上回復の見込みが立たず、さらに、最低賃金の上昇による時給アップで全く利益が出ないため、閉店、廃業も視野に入ってきている。
	×	乗用車販売店（店長）	・半導体不足の解消が見込めないで、良くなると考えられる指標が見つからない。
	×	乗用車販売店（渉外担当）	・自動車の減産が販売面に大きく作用する。
	×	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルスの感染リスクと雇用に対する不安が払拭されないと、改善は厳しい（東京都）。
	×	一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言が解除されても、急に客が戻ってくるとは思えないので、解除後、政府や自治体等がどのように飲食店をフォローしてくれるのか、非常に不安というか疑問に思っている。
	×	一般レストラン（経営者）	・国内においては、与党の総裁選、その後に総選挙となった場合、消費が減速するのは必至である。加えて、緊急事態宣言が中途半端な形で解除、つまり飲食店における時短営業又は酒類提供禁止の条件付で解除された場合は、期待する回復はなかなか難しい。海外については、米国のテーバリング方針の明確化、中国のこれまで成長を続けてきた資本の弱体化傾向が強まり、それが世界経済に良くない影響を及ぼす。当然ながら日本経済もこの2つの経済大国の影響を受けざるを得ない状況に追い込まれる。
	×	ゴルフ場（従業員）	・本来、人流が増えれば景気も良くなるものだが、人流を増やすための各種キャンペーンは、新型コロナウイルスの感染拡大につながってしまう。この悪循環を止めるには、特效薬の開発しかないのではないかと。
	×	ゴルフ場（経理担当）	・緊急事態宣言下の9月中旬以降は新型コロナウイルス感染者数が減少傾向にある一方、連休は人流抑制どころか大幅に増加しており、感染者数のリバウンドの懸念が強く残るなかで緊急事態宣言の一斉解除を検討するなど、総選挙を意識した楽観的な施策により次なる第6波の到来は必至である。新型コロナウイルスの感染経路として、微粒子による空気感染に近い状況が指摘されているなかにおいて、延々と飲食店に特化している対策の合理性には疑問がある。科学的知見から合理的な対策を打ち出さない限り、いつまでたっても何の反省も学習もないままに緊急事態宣言の発出と解除を繰り返すのみであり、新型コロナウイルス封じ込めによる景気回復を論じる余地は皆無である。
×	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・生徒数が減り続けており、学校の短縮授業によって一度帰宅した生徒が、また出てくるのが面倒くさいという声もある。減少が続いているので、景気が良くなるとは思えない。	
企業 動向 関連  (南関東)		食料品製造業（経営者）	・緊急事態宣言がいきなり解除されるということで、既に注文も入っており、大いに期待している（東京都）。
		建設業（従業員）	・例年になく受注が集中しており、手一杯になっている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・新型コロナウイルスが落ち着いてきて、経済も回り始めてきている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・例年どおりで予想すれば、受注量が増える（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・もろもろの規制が緩和されることで動きが良くなる。年末に向けた引き合いも動き出しているので、期待している。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルス禍の先行きが明るくなってきたということで、多少景気は良くなるというか、元に戻っていくように思えるので、希望的観測を含めて良くなる。
		金属製品製造業（経営者）	・国内では新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着く傾向にあり、部品供給不足の懸念はあるものの、景気回復に期待が持てる。
		金属製品製造業（経営者）	・取引先も少し動き出したようなので、従業員にも協力を仰ぎ、生産を上げるように頑張っていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・毎年、秋から冬にかけて雪寒仕様車が増産されるため、通常の仕事量に雪寒車が追加となり増産傾向である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・半導体不足などによる受注量の減少について、取引先から事前に説明があったものの、この先回復に向かうのかは不透明である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新しい首相が決まり、経済活動が多少は活発になるのではないかと（東京都）。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・自動車業界の今の減産は車が売れないからではなく、部品供給不足によるものである。自動車メーカーはサプライチェーンを回復させるべく動いているので、徐々に回復するのではないかと。
		輸送業（経営者）	・試験問題の配送が復活してくれば、良くなってくる（東京都）。
		通信業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染者数が抑えられ、緊急事態宣言が解除されれば、良くなる（東京都）。
		金融業（従業員）	・建設業では、公共工事や大規模プロジェクト等を安定して受注している企業は、新型コロナウイルス禍の中でもおおむね例年どおりの売上を計上できているようである。しかし、建材の価格高騰で利幅が圧迫されているという声もあり、樂觀できない状況が続いている（東京都）。
		金融業（従業員）	・新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向になり、経済活動の回復が見込まれているため、景気は良くなる。
		金融業（役員）	・今後、緊急事態宣言の解除、又は新型コロナウイルスの収束が図れた時期に、消費者のマインドも含めやや景気が上向きになる。
		不動産業（従業員）	・新型コロナウイルス感染者数が減ってきており、緊急事態宣言が解除される見込みである（東京都）。
		広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルスが収束に向かっている（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	・与党の総裁選、その後に総選挙があり、新型コロナウイルスのフェーズが変化すると予測などから、多少経済が活性化する（東京都）。
		税理士	・新型コロナウイルスの第6波があるとするなら、それまでの期間は飲食、旅行、その他娯楽など経済活動が動く。次の波が来なければ幸いだ、来るのが前提であっても、それまでは景気は回復する。
		経営コンサルタント	・半導体不足で自動車生産などが部分的に止まっており、関連中小企業は苦しいが、半導体製造装置メーカーは大変忙しく、関連部品メーカーが大増産になっている。近々自動車関連メーカーに半導体が届くようになれば、製造業の多くが動き出す（東京都）。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・しばらく今の流れは続きそうである。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・新型コロナウイルスが収束すれば、世の中全体が明るくなり、好況になる（東京都）。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・緊急事態宣言が終了するため、回復することを期待している。
		食料品製造業（経営者）	・今回の緊急事態宣言の解除により、新型コロナウイルス感染者数がまた増えてしまう可能性もあり、安易に良くなるとは思えない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況も少しずつ収まってきて、いろいろな規制が緩和され、秋の総選挙が終われば、また動き始めるとの希望を持ち、良くなるのを待って頑張るしかない。
		化学工業（従業員）	・現状は、原材料の値上げの話ばかりである。この状況では2～3か月先に良くなるとは思えない。
		化学工業（総務担当）	・新型コロナウイルス禍での緊急事態宣言が解除され、個人消費や企業の販売促進活動が前々年並みに回復してくれば、身の回りの景気も上向きなので期待している。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で止まっていた海外工場の生産ラインが本格稼働すれば利益が回復するが、まだ確たる情報はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		精密機械器具製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響により、前年は大きな打撃を受けたが、底からは脱し、半導体業界は3か月先まで受注があるため、先が見えている。ただし、他の業界は原材料高、人件費高騰、生産調整と、どちらに転んでもおかしくない局面ではあるので、変わらない。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・変わらないというのは、もうこれ以上悪くなりようがないという意味である。悪い状態がこのままずっと続くのかと思うと、大変な思いがする。業界が回復するには時間が掛かると思うので、頑張れるかどうか分かれ目である。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・新型コロナウイルス疲れにより来店周期が長期化している。補助金などもなくなっている（東京都）。
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルスがある程度収まり、政権が変わり、経済対策が実行されて、少しずつ良くなると思うが、時間が掛かる。今年一杯はこのままの状態ではないか。
		建設業（経営者）	・設備投資がどの程度動き出すかがまだ分からない。資材関係が値上がりしており、予算が合わない案件も出始めている。
		輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染者数が減少に向かい、景気の好転による年末特需に期待したいところだが、変化はないものとみている（東京都）。
		輸送業（経営者）	・半導体不足、海運の乱れの解消には時間が掛かる（東京都）。
		輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量が低迷している。輸出量は今後もない。この現状は続く予想である。
		通信業（広報担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、新政権による経済対策への期待があるものの、再流行への懸念もあり、不透明な状況がしばらく続く見込みである（東京都）。
		金融業（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染者数がこのまま減少していけば、景気が多少上向き業種もあるが、既に厳しくなっている業種もある。どれだけ持ちこたえられるかが今後の景気回復に影響する（東京都）。
		不動産業（総務担当）	・アフターコロナを見据えた動きが見えてこないのので、当面は現状維持の状態が続く（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・年内は、前年の同時期並みにイベント催事がないので、売上が厳しい。元々は人が集まったイベント催事だが、多少はオンラインで実施できないか、検討を始めている。それでも年度内は厳しい。
		税理士	・米中の景気によるところが大きい。中国は不動産大手の巨額負債によりどんな影響が出るのかということがある。新型コロナウイルス禍のなかで、どのような展開になるか読めない（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		経営コンサルタント	・緊急事態宣言解除による一時的な回復は期待できるが、2～3か月先に新型コロナウイルスの感染再拡大も懸念されるため、景気の回復は厳しい。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・取引先工場等も稼働率を上昇させる努力をしているようだが、廃業の連絡も数件もらっており、まだまだ売上減少の状態が続くものと予想される。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染者数は減少傾向にあり明るい兆しがみられるが、感染再拡大の可能性もあり、先行きが不透明なため、広告や宣伝などの業界では、当面明るい見通しは立たない（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・1階に路面店を持っているが、徐々に来店客が少なくなっていると感じている。新型コロナウイルスの影響で、観光や行楽で出かけることはあるかもしれないが、個人の来店客が特に少なくなっていて、インターネット注文の方は変わらずか、店頭客に比べれば少し多い状況である。個人客が非常に少なくなってきた、法人もやや下り坂なので、少し悪くなりそうな見通しである（東京都）。
		建設業（営業担当）	・建築資材の高騰が続いており、今後も上昇傾向と予想されている。その影響で、客の発注意欲にも影響が出ている。
		不動産業（経営者）	・売却を扱っている客にも、大手不動産各社からの丁寧なダイレクトメールが入り、大手に頼みたいとのことで連絡があった。最終的には売主の意思なので、どうにもならない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	建設業（経営者）	・いつと比べるかにもよるが、長期的には少子高齢化なので悪くなる。
	x	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・最低賃金の上昇と人手不足があいまって、既存現場の募集単価が上がり、収支が悪くなる。値上げができないと赤字現場が増えてくる（東京都）。
雇用 関連  (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	・求人数は右肩上がり、今後も人手不足が続く見込みである（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・年末に向けて求人数が増え、人材不足が進むと考えられる。
		人材派遣会社（社員）	・受注件数、新規での長期派遣契約数共に年計表ベースで2けたの増加となっており、堅調な推移を示している（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・同業他社との情報交換において、売上が伸びているとの共有がある。ただし、派遣事業を伸ばすデリバリー型を突き進むパターンと、課題解決型に分かれていく（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・緊急事態宣言解除による飲食、旅行関連を中心とした求人への回復が期待できる。解除への期待から、既に複数企業から増員依頼も受けている。
		人材派遣会社（経理担当）	・新型コロナウイルス禍で求人数が減少しているため、派遣社員からの契約終了意向の減少がそのまま続くと思われる。そのため、派遣就業者数はここ数か月同様に微増傾向のまま推移する（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・日本の製造業の底力による回復に期待感がある。電気自動車の開発が進んでいる。
		人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種率も上がってきており、緊急事態宣言も解除されるため、減少傾向であった観光産業や航空産業の雇用に少しずつ変化が出てくるのではないかと。
		求人情報誌制作会社（営業）	・このまま新型コロナウイルスの感染者数が低い値で推移していけば、景気も少しずつ良くなっていくのではないかと。ただし、感染第6波などまだまだ油断できないところがあるので、消費の動きは感染者数に左右されてしまうところがある。
		求人情報誌制作会社（広報担当）	・今月末で緊急事態宣言が解除されるので、景気が上向いてくるのではないかと（東京都）。
		職業安定所（職員）	・前年同時期及び前月と比較して、今月の求人数はやや増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	・緊急事態宣言の解除を見据えた求人増が見込まれる。同様に求職者のマインドが上向き、求職活動再開とセットになることで、労働市場の活性化が見込まれる（東京都）。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、徐々に消費も増えている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの感染状況が改善してきているので、短期的には景気が回復すると思うが、中長期的には良い状態と悪い状態を繰り返していく（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・主力の人材派遣や人材紹介の受注数が横ばい傾向のため、好転する見通しが立っていない（東京都）。
	職業安定所（職員）	・新規求人数が17か月ぶりに前年値を上回り、有効求人数も4か月ぶりに増加に転じている。前年比は7か月連続して改善傾向にあるが、マイナスの状態に変わりはなく、大きな変化はみられない。	
	民間職業紹介機関（経営者）	・新政権の景気でこ入れ策の発表待ちではないかと。学生の就職活動は例年どおりで、盛り上がりには欠けている。年内は変化がないのではないかと（東京都）。	
	民間職業紹介機関（経営者）	・求人状況を見ると全般的に技術系の求人が依然として多い（東京都）。	
	職業安定所（職員）	・現時点で新型コロナウイルス感染者数は減少傾向にあるが、緊急事態宣言が解除されても、ワクチン接種の効果で感染縮小の流れが固定化しない限りは行動抑制が避けられず、経済復活の見通しは厳しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	求人情報誌製作会社 (所長)	・飲食関係は上がるかもしれないが、他業種はかなり苦しい。

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (甲信越)		スナック（経営者）	・9月も最終週に入り少し上向いてきたので、このまま回復してもらいたい。
		ゴルフ場（経営者）	・与党総裁選の政策論争では、各候補とも経済成長志向になりつつあるので、今後の景気の良化を期待している。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・墓じまいが増えれば、墓の中のお骨を永代供養墓に移すことが増えてくる。今後、この流れはますます増えてくる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種促進で、年末には人流の制限緩和ができることを期待している。
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいるので、少しずつ元の生活に戻れるのではないかと。ただし、現状では2～3か月先を予想することは困難である。
		スーパー（経営者）	・政府の行動制限が解除されれば、景気も良くなる。新型コロナウイルスのワクチン接種も進んでいるので、景気は良くなる。
		スーパー（副店長）	・新型コロナウイルスのワクチン接種もさらに進んで、緊急事態宣言等も少しずつ緩和され、経済が少しずつ回復してほしいという願いもこめて、やや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言解除や新型コロナウイルスの今後の見通しから、やや良くなるのではないかと。
		高級レストラン（経営者）	・まだ、新型コロナウイルスの感染拡大第6波の危惧もあるため、早々に忘年会の見送りを決めた会社も見受けられ、回復は大きくないとみている。
		一般レストラン（経営者）	・様々な制限解除で、瞬間的に人の動きは増える。ただし、3か月先まで続くかは分からない。
		一般レストラン（経営者）	・来月から行動制限が緩和され、動きが出るのではないかと。現在実施している「近郊者のみ店内飲食可能」の当店独自の規制も外す予定である。当市の発行店だけで使えるプレミアム付きクーポン（3000円で5000円分の消費ができる）の発売を機に、増販を期待している。クーポン利用の特典商材を作って客にアピールしたい。県の「安心のお店」として、11月30日まで同様のクーポンの扱いがある。
		観光型旅館（経営者）	・ようやく新型コロナウイルス禍における行動制限緩和の議論が始まり、11月ごろから回復傾向に向かう。その前に、10月上～中旬に感染拡大第5波の影響による小さな底を打ってから、緩やかに回復を迎えたとみている。
		都市型ホテル（支配人）	・来月から首都圏の緊急事態宣言が解除になれば、宿泊を伴う出張や旅行が増える。
		都市型ホテル（スタッフ）	・県独自の時短要請の解除により、年末の予約受注が若干伸びてきている。また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等解除の報道により、首都圏からの問合せも増加傾向にある。今が非常に悪いので確実に良くなるものの、大きな選挙がある時は客の動きが悪くなる傾向にあるので、大幅に良くなるとはまだ言い難い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今月は宿泊、宴会、レストラン部門共に、この半年間のなかで一番悪く、前年同月に比べても悪かった。客足が非常に落ちたが、これ以上悪くなるとは思っていない。当県の時短要請解除や9月末で首都圏の緊急事態宣言が解除されることにより、客足が伸びて各消費マインドも上がってくる。
	旅行代理店（副支店長）	・希望を含めて、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除、県をまたぐ移動自粛の緩和、新型コロナウイルスのワクチン接種率が向上すれば、旅行需要は好転し、良い方向に向かう。	
	タクシー運転手	・10月からはアルコールも解禁になって、夜の人出が増えてくると思うので、また売上は上がってくると期待している。	
	観光名所（職員）	・旅行の自粛も既に限界に来ているのではないかと。緊急事態宣言の解除や新型コロナウイルスのワクチン接種が進んできたこともあり、県をまたぐ移動も徐々に回復するのではないかと。再度の感染拡大が起きないことを願うばかりである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		遊園地（職員）	・新型コロナウイルスの感染対策を徹底し、万全な受入体制を整えるとともに、積極的な集客施策の実施や情報発信を行うことで、多くの客の来園を期待する。
		その他サービス〔貸切バス〕（経営者）	・新型コロナウイルスが収束方向になれば、一般客のバス利用も多くなる可能性がある。
		商店街（代表者）	・想定する範囲以上に悪くなると、大変なことになる。何とか現状のまま変わらずにこの冬を越したいと思っている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・消費意欲が冷え込んでいるなかで、様々な物の値上げ情報が入ってきている。この情報が購入意欲を引き出せるのか、買い控えになるのかは不透明である。個々の仕掛けでは限界があり、売上増につなげていくには厳しい状況が続く。
		一般小売店〔薬〕（経営者）	・新型コロナウイルスの終息まで、この状態が続く。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスが段々収束傾向にはなってきている。良くなるか悪くなるか、先行きは分からない。総選挙もあるので、政権が変わってどういう風になるかで、景気も左右されるかと思っている。
		スーパー（店長）	・緊急事態宣言の解除も見込まれるが、新型コロナウイルスの感染拡大第6波も懸念されるので、12月には再び宣言が発出されるのではないかとと思っている。
		コンビニ（経営者）	・これから寒い時期に向かっていくので、どうしても来客数が落ちることと、10月からたばこの値上げがあるので、9月が良かった反動で10月の売上は落ちることから、やや厳しくなる。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、外出する人が増えている。ただし、学生等の若い層の来客はまだ戻って来ていないので、変わらない状況がまだしばらくは続くのではないかと。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの根本的な改善がないため、変わらない。
		コンビニ（店長）	・今月は気温にかなり振り回された状態だった。数か月後も、特段変わらないのではないかと。
		衣料品専門店（経営者）	・まるで先が見えない。
		家電量販店（店長）	・政府の景気刺激策がない。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の供給遅れは長引くと思われる。物不足による消費の落ち込みは避けられない。
		スナック（経営者）	・当県もやっと時短営業が終わり、少しは客が戻ると思うが、厳しい状況が続いている。新型コロナウイルスのワクチン接種が終わっても、感染する人が結構いるので、今後も先が見えない状況で厳しい。
		通信会社（経営者）	・新築着工戸数が徐々に増えてきているので、新規加入増に期待したい。一層の景気回復が望まれる。
		通信会社（社員）	・新型コロナウイルス自体は終息傾向にあるが、消費者の行動意識は余り変化がない。安定した結果は残せてはいるものの、イベント等を絡めた爆発的な上昇は、まだ先になりそうである。
		設計事務所（経営者）	・受注量は減ってきているが、回復する材料はない。
		住宅販売会社（経営者）	・当地の別荘需要は総じて安定しているが、ウッドショックの影響で別荘の新築にブレーキがかかる懸念はある。
		商店街（代表者）	・新しい日常が、現在のような状態のこととすれば、旧来のやり方を全て変えなければならない。
		スーパー（経営者）	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の地域指定が解除され、外食ヘシフトが進みそうである。
		自動車備品販売店（従業員）	・新車の減産等の影響で納車が減っている。本来なら新車需要に関連してタイヤや車載電装品等も売れるのだが、それらについても厳しい状況となりそうである。
	×	コンビニ（経営者）	・夏でも売上が悪くなったので、冬場になると一層売上は悪くなる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスがまん延している限り、駄目である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	その他専門店〔酒〕 (店長)	・10月から緊急事態宣言が解除されるが、一時的に良くなったとしても、2年前の水準にはなかなか戻らないと思っている。新型コロナウイルスは、ワクチン接種をしても感染をするので、感染拡大第6波が年末に起きるかもしれない。何よりも私たちを取り巻くアルコールの状況が非常に厳しいことが鮮明になっているので、今よりもっと厳しい状況が続くのではないかと。持ちこたえられない飲食店も出てくるかもしれない。
	×	スナック(経営者)	・毎回同じだが、将来の景気は見通せない。ちまたでは、総選挙や中国問題等、いろいろあるが、我々のような零細企業は本当に困っている。
	×	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕(経営者)	・全国的に新型コロナウイルスの感染者数は減少傾向にあり、緊急事態宣言等が解除されれば、良い方向へ向かうかもしれない。ただし、再び感染拡大を繰り返す可能性も残っているため、慎重にならざるを得ないことを考えると、すぐに回復するとは考えにくい。
企業 動向 関連 (甲信越)		金属製品製造業(総務 担当)	・半導体不足の影響で、良くなる。
		食料品製造業(製造担 当)	・ホテル等の来客数が増えて、注文も増えてくるので、やや良くなる。
		食料品製造業(営業統 括)	・10月から全国で緊急事態宣言が解除されるので、酒類の動きも徐々に活発になる。また、11月には新酒の発売も控えており、景気は徐々に回復してくるのではないかと。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・受注見込みだけをみれば生産は回復するように見えるが、不透明な状況は変わらない。
		その他製造業〔宝石・ 貴金属〕(経営者)	・9月に入ってから、新型コロナウイルス感染者が急激に減少している。また、連休の車の移動や観光地への人出の増加等、Withコロナ時代へ向けた経済の転換傾向を見ると、冬にかけて消費が回復するのではないかと。
		金融業(調査担当)	・製造業の景況感は改善が続く見通しであるほか、観光関連でも全国の緊急事態宣言が解除されることで、需要の持ち直しが期待される。
		金融業(経営企画担 当)	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進んできており、観光業にも少し明るい兆しが見えてきたようである。
		新聞販売店〔広告〕 (総務担当)	・新型コロナウイルス感染者数も減少傾向で、緊急事態宣言も解除される見通しである。予断を許さないが、現状よりは好転すると予想している。
		食料品製造業(総務担 当)	・緊急事態宣言が仮に解除されても、急激な景気回復とはならないと考える。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	・例年ある季節商材の受注は見込めるが、新型コロナウイルスの警戒レベルが下がっても、ワークショップの予約等は予想が立たない。幾らか動きが出てきている感はある。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・電子部品の入荷に伴って良くなると思うが、相変わらず入荷のめどは良くない。
		電気機械器具製造業 (営業担当)	・現在の受注状況からみて、余り変化はない。
		建設業(経営者)	・新型コロナウイルスのワクチン接種も進み、感染者の減少もみられ、一時よりは明るい方向に向かっている。新築に期待をしている。
		×	出版・印刷・同関連産 業(経営者)
	×	出版・印刷・同関連産 業(営業担当)	・この先2か月ほど大きな受注がない。例年ならイベント等がある時期だが、ほとんど中止のため受注がないので、少し先行きが心配である。
雇用 関連 (甲信越)		職業安定所(職員)	・人の動きが活発になってきている。休日の道路は混み、ショッピングセンターや県内の観光地に活気が戻ってきている。
		人材派遣会社(営業担 当)	・貯蓄等の蓄えが底をつき、貧富の差が広がるため、消費には回らないだろう。
		求人情報誌製作会社 (経営者)	・秋に向けて大型イベント等も数多く中止となっており、イベント関連業種は更に厳しい状況が続く。
		職業安定所(職員)	・今のところ、求人数の増加が見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（経営者）	・新型コロナウイルス感染者数の減少に、やや明るさが見え始めているものの、次の感染拡大第6波を懸念して、アルバイト、パート社員採用にシフトする企業が顕著になってきている。
	x	-	-

## 6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東海)		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染は収束するよう見受けられる。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・新型コロナウイルスは、全くゼロとはならないが、いずれは収束に向かっていくため、方向的には上向きであると思う。
		百貨店（経理担当）	・ワクチン接種の進展に加えて、新内閣から打ち出される大型需要喚起策が奏功し、観光・外食・ホテル・航空・鉄道などの人流関連消費が大きく上向くと考えられる。
		コンビニ（店長）	・緊急事態宣言の解除により、人の動きが活発になる。
		コンビニ（商品企画担当）	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の全面解除に伴う新型コロナウイルスの感染再拡大は懸念されるものの、ワクチン接種完了の拡大に伴い経済活動が上昇傾向にあることから、景気回復を予測する。
		乗用車販売店（従業員）	・全体的な流れとしては良くなる方向である。販売量も上向きと感じられ、全体の動きも良くなってきている印象を受ける。
		その他専門店〔雑貨〕（店長）	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置も解除され、徐々に外出モードになってくると予想する。商業施設の集客力も改善すると思われる。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いて、営業ができるようになると思う。
		旅行代理店（経営者）	・9月一杯で緊急事態宣言も解除され、10～12月と消費が拡大することを期待して、景気は良くなると思う。
		商店街（代表者）	・コロナ禍においても、行動制限が緩和されることによって展示会が開催できるようになり、販売促進機会が増えると考えている。
		商店街（代表者）	・緊急事態宣言の解除で新規感染者数、死者数の増加は容易に予想されるが、解除となることで人流が増加し、飲食店を筆頭に物販もにぎわうことになると思われる。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況により緊急事態宣言も解除され、多少は上向いてくると思う。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・新型コロナウイルス第6波次第だと思うが、正直よく分からない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・緊急事態宣言の解除でボトムからの復旧が多少はある。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・現在よりも年度末に向けた予算消化が活発になる。
		百貨店（総務担当）	・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が解除され、徐々にではあるが客足が戻ってくることに期待したい。これから冬物、お歳暮、おせち、クリスマスや年末年始と百貨店にとっては最繁忙期であり、新内閣の経済対策にも期待しながら、積極的な対策を実施していき、売上に結び付けたい。
		百貨店（企画担当）	・まん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言の発出だけでなく、日々の新規感染者数の推移が来客数に反比例する傾向となっている。9月前半から中盤にかけては県内の新規感染者数が大幅に増加し、来客数の減少も顕著であったが、20日以降は徐々に新規感染者数が減るに従って来客数は増加に転じ、店舗売上も拡大しつつある。月末で緊急事態宣言が解除されて、前年のような冬場の感染拡大がなければ、消費は緩やかに上昇していくと思われる。
	百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により、若干ではあるが通常の生活に戻ると思われる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・ワクチン接種率が上がってきており、緊急事態宣言が解除されれば客のマインドも変わり、実店舗に来店する客も増えてくると予想される。
		百貨店（業績管理担当）	・新型コロナウイルスの感染が収束してきており、少しずつ客の出足が回復してきている。
		百貨店（計画担当）	・現状よりは新規感染者数の減少によって改善に向かうと思われるが、これまでの客の様子を見ると、完全に消費が戻るには時間が掛かると思われる。
		スーパー（経営者）	・緊急事態宣言が解除され、徐々に回復するよう期待している。
		スーパー（経営者）	・緊急事態宣言の解除で、皆今後は売上が良くなると期待している。
		スーパー（販売担当）	・来客数は平日より土日が多いが、緊急事態宣言が解除されるともっと平日も来客があると思うため良くなる。
		スーパー（支店長）	・総理大臣も代わり、期待したいところである。緊急事態宣言も間もなく解かれ、消費者の自粛も若干は緩和されることで、購買意欲の上昇も期待できるのではと思われる。まだまだ新型コロナウイルスとの戦いは続くが、ウィズコロナをより一層意識して、日々努力していきたい。
		スーパー（総務）	・ワクチン接種完了が11月を目標に進んでいることと、経済対策を国が打ち出したことで、景気はやや良くなると思う。
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルスの感染再拡大の懸念はあるが、生活必需品の需要は見込める。10月の値上げがどれだけ影響するかわだが、小売業者が価格対応をするので、それほどでもなさそうである。企業の工夫が左右しそうである。
		コンビニ（店長）	・緊急事態宣言が解除されるので、外出も増え、しばらくは購買意欲が高まるのではないかと期待している。
		コンビニ（企画担当）	・新規感染者数の急激な減少と緊急事態宣言の解除により、人の動きが活発になることが予想される。ワクチン接種率が高くなることによる安心感もあり、駅を利用する人が増加する。
		コンビニ（エリア担当）	・ワクチン接種が進み新型コロナウイルスの重症者数が減り、人流が回復してくる。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が一時的に減り、行楽シーズンから年末に向けて、人の動きが活発化しそうである。一般通常客に加え、週末の行楽関連の客も増加しそうである。
		コンビニ（店員）	・クリスマスに向けて、販売量・客単価が期待できる。
		コンビニ（本部管理担当）	・10月に向け、緊急事態宣言の解除、政権政党の総裁選、衆議院選挙とイベントがめじる押して、世間の機運が上がると考えている。
		衣料品専門店（売場担当）	・これまで規制されていた行動が徐々にではあるが緩和されることで、消費の拡大にもつながり、結果的に景気が上向きになると考えられる。
		衣料品専門店（売場担当）	・リモートワークから職場への出勤のため、スーツの需要がかなり増えてくる。また、寒くなってクールビズからスーツ着用へ変わってくるため、期待したい。
		家電量販店（営業担当）	・緊急事態宣言の解除により、経済には一時的に動きが出てくるのではないかとと思う。
		乗用車販売店（営業担当）	・ワクチン接種が進んで国が行動制限を緩和し、経済活動を優先していけば、今よりは良くなると思う。
		乗用車販売店（経営者）	・県をまたぐ移動や旅行などが増えてくると車両の活躍する場も増えてきて、相乗的に動きが活発になってくると思われる。
		乗用車販売店（従業員）	・緊急事態宣言が解除され、客の店頭への積極的な誘致活動が行われ、店頭に活気が戻ることを期待したい。また、世界的な半導体不足により客の希望する車両の納期が遅れているマイナス要因があるものの、市場に活気が戻ることを期待したい。
		乗用車販売店（営業担当）	・一気に新規感染者数が減り、ワクチン接種も進んできたなかで、客の雰囲気は良くなっているように見える。高級品が売れているという報道からも、自粛で自然にできた貯蓄を使われることを期待しているが、生産遅延は続いており商品の入荷が遅れたままなので、入荷状況次第である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住関連専門店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いて客が投資をした り、住宅についても、先が見える形になればリフォームや新 築を前向きに考えていくという声が出ている。しばらく様子 見という状況である。
		その他専門店〔貴金 属〕（経営者）	・飲食店が再開することで人流が戻ってくれば、商店街の活 性化が見込める。
		高級レストラン（経営 企画）	・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の解除で、まだ規制 はあるものの、営業時間の延長や酒類提供停止要請の緩和に より、来客数の増加が見込まれる。政府の政策を期待する一 方で、年末年始の新規感染者数の再増加が心配であり、集客 向上とともに従業員の確保なども懸念される。
		一般レストラン（ス タッフ）	・この9月が新型コロナウイルス関係の底だと思っており、 以降は上向きが期待できると考えている。
		一般レストラン（従業 員）	・10月には緊急事態宣言が解除されて、営業時間の制限もな くアルコールも提供できるようになる。全ては10月からに期 待したい。
		バー（経営者）	・新型コロナウイルスの沈静化と総理大臣の交代により、景 気はやや良くなる。
		その他飲食〔仕出し〕 （経営者）	・ワクチン接種もほぼ行き渡りようになり、新型コロナウイ ルスの治療薬も承認されるようになれば、生活様式が変わっ ても、消費は落ち着いて伸びていく。
		その他飲食〔ワイン輸 入〕（経営企画担当）	・9月下旬になり緊急事態宣言の解除が話題になると、客と の商談のペースも上がっている。
		観光型ホテル（経営 者）	・9月末で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除され る可能性が高いが、そうなると今の最悪の状態を脱し、気候 的にも良い時季になるため、来客数、宿泊者数が増えること が十分予想され、景気はやや良くなると思う。
		都市型ホテル（従業 員）	・予約数から景気はやや良くなる判断した。
		都市型ホテル（営業担 当）	・緊急事態宣言が明けて、ビジネス出張や飲食需要が良く なってくると予想している。
		都市型ホテル（総支配 人）	・ワクチン接種の進展を受け、出張や大人数での会食を政府 が解禁すれば、大手企業が動くので期待できる。また、G o T oキャンペーンの再開も好転材料であり、今後の政府の方 針に期待する。一方、事業再構築などの補助金により製造業 が先行して忙しくなってきたのを受けて、人件費、光熱費、 その他費用の上昇が懸念材料である。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルスにおける緊急事態宣言解除による需要 喚起が期待される。
		旅行代理店（営業担 当）	・新総理の観光業への支援施策を大いに期待する。団体旅行 が早く復活する気配は感じられるので、第6波が来る前に大 キャンペーンを打ってほしい。
		旅行代理店（営業担 当）	・需要喚起の施策等により、個人旅行の取扱は一時的に増え ると思われる。団体旅行は、来春頃から検討するという客が 多い。
		タクシー運転手	・当県でも第5波による若い人の新規感染者数が拡大してい たが、10～20代の人個人医の前で長蛇の列を作っているの を最近よく見掛ける。当県も休日や夜間でもワクチン接種が 受けられる会場を設けているため、見通しは少し明るくなっ ている。総裁選が終わると、イベント、旅行や飲食店の営業 時短要請も少し緩和されるのではないかと期待している。
		通信会社（企画担当）	・緊急事態宣言が解除され、直接的な影響はないものの、心 理的な効果で人が動き出し、社会全体が活発化してくると思 う。
		通信会社（サービス担 当）	・今までの停滞が解消されれば、今よりもまた申込みが増え ると思われる。
		レジャーランド（職 員）	・ワクチン接種の推進と第5波の収束により、来場者数は回 復に向かうと予測するが、前年のG o T oキャンペーンの 効果までには至らないと考えている。行動制限の緩和につい ては、運営面、公平性などの観点から、詳細が明確になるま では来場予測には織り込めない。
		テーマパーク職員（総 務担当）	・ワクチン接種率が向上してきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（支配人）	・ 2～3か月先の入場者予約数は順調である。レストラン売上は、コロナ禍により大きな期待はできないが、ゴルフ場の入場者数は、今後ある程度期待できると思う。
		その他レジャー施設 [鉄道会社]（職員）	・ コロナ禍の政府対応が、段階的に制限を解除する方向に向いているようである。
		その他レジャー[スポーツレジャー紙] （広告担当）	・ 自粛による経済活動の停滞から、ある程度は脱却できそうな雰囲気がある。
		その他サービス[介護サービス]（職員）	・ ワクチン接種が進み、世間でも実証実験などが始まるということで、経済活動も再び動き始めると期待したい。
		住宅販売会社（従業員）	・ ワクチン接種もかなり進展しており、10月からは家族客が外出する月になると考える。12月は、年末年始の連休には緊急事態宣言がまた出ると予想すると、客の動きも購入意欲も高い月になると予想する。例年は秋枯れの時期というが、現状維持以上になると予想する。
		商店街（代表者）	・ 新規感染者数がこのところ減少しており、客の動きも戻りつつあるが、個人の財布のひもは本当に固く、なかなか思うようには消費してくれない。しばらくその傾向が続くと考える。
		商店街（代表者）	・ ワクチン接種の進展などで人出が戻ってくることを期待したいが、再度、新たな新型コロナウイルス変異株による新規感染者数の増加の可能性もあるので、景気がそれほど簡単に良くなるとは考えにくい。
		商店街（代表者）	・ 自粛が定着してしまって動かないというのが最近の傾向である。1年前の方が、まだ大分良かった。
		商店街（代表者）	・ 気がよんでいる。
		一般小売店[酒類] （経営者）	・ 前年12月から1度も店を開けられない店もあり、そのうちの何店かからは具体的に廃業を相談される。今後、第6波ともいわれており、閉店する店がどんどん増えてくるとされる。
		一般小売店[生花] （経営者）	・ 緊急事態宣言は解除されても、この状況からなかなか抜け出せない。
		一般小売店[贈答品] （経営者）	・ 新型コロナウイルスの影響で企業活動は停滞して様子見をしており、イベントは中止又は中止に近い無観客での開催などで記念品などの購買が増えない。したがって、今の状態がそのまま続くと考えられる。
		一般小売店[果物] （店員）	・ 3か月ほどでは変わらない。
		百貨店（売場主任）	・ 今の時期に百貨店に来る客は、商品を見に来るのではなく行くところがないから散歩がてらに来る人が多いと思う。閉店間際に1人でふらっと来て、声掛けしても何も答えずただ商品を見て帰っていく人が多い。これから新型コロナウイルスの感染が収束したとしても、皆旅行の方に金がいってしまい、商品販売の売上は厳しい状況が続くと思う。
		百貨店（販売促進担当）	・ 結局、新規感染者数の増減で政府や自治体の通達が変わるだけで、それによって来客数が多少上下するのみである。ほかに景気が良くなる要因がなく、ブレイクスルー感染の増加でワクチンの効果も疑問視されており、当面この状況が続くと予測する。
		百貨店（販売担当）	・ 緊急事態宣言が明け、ワクチン接種が進めば希望は持てるが、好転する気配は薄い。新型コロナウイルスに左右される状況は変わらない。
		百貨店（販売担当）	・ 7月後半以降は、余りにも悪い状況が続いている。回復の見通しに手応えがない。
		スーパー（店長）	・ ワクチン接種が進めば、外に出るようになる。外食を含め少しずつ回復してくると思うが、輸入品の値上がりから家庭には影響が出る可能性がある。
		スーパー（店長）	・ 県内で毎日100名を超える新規感染者が出ており、減少しつつあるといっても第5波以前より感染者数が多い。完全に終息しない限り、2～3か月後には第6波が来て同じ状況が繰り返されると思う。
		スーパー（店員）	・ 緊急事態宣言が解除され、徐々に飲食店などの再開で仕入れによる売上が見込めるだろうが、まだ新型コロナウイルスの感染状況に振り回されるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（営業企画）	・ワクチン接種の状況にもよるが、多少の上げ下げはあっても、しばらくは現状の消費傾向が続くと思われる。
		スーパー（販売担当）	・ワクチン接種が進展しても、今の状況からは変わらないと思う。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況次第で多少の増減はあるものの、低迷状態が続くと思う。
		コンビニ（店長）	・緊急事態宣言が解除されても飲食店などに対する時短要請は続き、本格的な回復はまだもう少し先のようなのである。
		コンビニ（店長）	・まず、来客数減少の状態は底を打った感がある。後は緊急事態宣言の解除によるプラスがある。マイナス面としては、たばこの駆け込み需要の反動で1～2か月は必ず販売減少になることと、新型コロナウイルス感染拡大の第6波の兆候が現れた場合の再自粛である。
		コンビニ（商品開発担当）	・新型コロナウイルスの影響が見通せない。また、大手自動車メーカー関連への半導体不足による影響も不安要素として残る。
		衣料品専門店（店長）	・収入が減り、余分な物は極力買わない購買行動になってきている。ワクチン接種の進行によって経済活動が回復していくと思われるが、すぐに大きな変化があるとは思えない。
		家電量販店（店員）	・原料費の高騰で製品価格が上がりそうだ。今後もさえない状況が続くだろう。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・新型コロナウイルス対策の自粛により、高齢者の来店が少なく感じる。引き籠りというニューノーマルに、皆が慣れてしまっているのかもしれない。
		乗用車販売店（経営者）	・しばらくこの状況は続くと思込まれる。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況に左右されるが、自動車販売については来店客も多く、やや好調を維持できると思われる。
		乗用車販売店（経営者）	・このところの新規感染者数の減少や緊急事態宣言の解除が決まったことを考えると期待感はあるが、2～3か月でどうこういえるほどの変化は出ないであろう。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の納期は3か月以上でメーカーからも明確な納期回答が得られないため、ここ数か月は良い状況になるとはいえず、販売の方は現状維持が精一杯と思える。新車の納期に時間が掛かるので中古車の引き合いは多いが、オークション相場が高騰しており仕入れもままならない状況で、成約数も下がり始めている。
		その他専門店〔書籍〕（店員）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきて、今まで我慢していた分がレジャー等に流れることも危惧されるため、書店としては厳しいと思う。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・緊急事態宣言下では、売上高は前年比マイナス7.4%、前々年比マイナス16.7%である。来客数は前年比マイナス6.4%、前々年比マイナス23.0%である。
		一般レストラン（経営者）	・10月以降は緊急事態宣言が解除となるが、すぐには好転しないと思う。現状を維持し、知恵を出して乗り切っていきたい。
		一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言は9月末で解除となると思うが、その後もまだ新型コロナウイルスに対する不安等があり、外食への支出は少ないと思う。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの終息は無理だろうが、いずれいろいろな感染防止対策が解除されれば、少しずつ客が出てくると思う。ただ、一遍には無理なので、徐々に待つしかない。
		一般レストラン（従業員）	・外食業は皆警戒している。
		観光型ホテル（支配人）	・たとえワクチンの接種率が上がったとしても、恐らく緊急事態宣言が解除された後には前回のように県独自で何らかの要請等が発出されると思われる。年末年始の忘・新年会という表現も使えず、それに換わる表現を使って商品造成をしていかないと、このままでは会社自体の存続が危ぶまれてしまう。
		都市型ホテル（経営者）	・緊急事態宣言の解除次第である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・緊急事態宣言が全面解除される見通しのなかで、11月には、また新規感染者数が増えて緊急事態宣言が出るのではというニュース報道もあり、不安が一杯である。現在は、秋の紅葉シーズン、冬の味覚や年末年始と国内旅行限定の販売なので、是非、一部の限定国の海外旅行では帰国後の隔離措置を緩和してほしい。緩和されない限り今と変わらないと思う。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、様々な分野の生活スタイルが変化し始めている。モノの所有よりもコト消費、なかでもゆとりを重視する生活様式が普及していく表れとして、高級腕時計にみられる消費の2極化やメリハリのある消費行動が、ますます進んでいくと考えられる。
		旅行代理店（経営者）	・希望的には上向いてほしいが、どのタイミングで上向くのか分からない。
		タクシー運転手	・緊急事態宣言の解除でどうなるか分からない。
		通信会社（営業担当）	・小規模事業者の客を訪問しているが、以前より雰囲気が悪く商談に結び付かない。しばらくはこの状況が続くと思う。
		観光名所（案内係）	・内閣の交代や天候不順はあるが、新型コロナウイルス感染症は少し先が見えてきたと思うため、新内閣のこれからの出方次第である。
		美容室（経営者）	・全体的にイベントや外出などへの規制がなくなる限り、もう少し今の状態が続く。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が大分収束してきているが、完全に終息するまで来客数は余り変わらないと思う。
		美容室（経営者）	・どんな職種でも新型コロナウイルスの影響で来客数が減っているため、景気は変わらないと思う。
		設計事務所（職員）	・新型コロナウイルスがこのような感染状況のため、景気はそれほど変わらないと思う。
		住宅販売会社（従業員）	・当分横ばい状態が続くと思われる。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・引き続き住宅の新築工事、リフォーム工事や工場の改装工事などを受注している。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・緊急事態宣言が明けてどこまで回復できるか未知数である。また、閑散期も重なるので期待薄である。
		スーパー（ブロック長）	・新型コロナウイルスの感染状況は、また悪くなることを繰り返すと思う。秋の行楽から年末年始の帰省などで必ず第6波が来ることが予想される。
		スーパー（商品開発担当）	・緊急事態宣言が解除されると、やや外出需要は上がり、内食傾向が緩まる可能性が考えられる。そのため、内食・中食がメイン販売の業態は、売上でやや苦戦すると考える。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収束しても、年配客は健康状態が段々と悪くなり外出の機会がますます少なくなるため、来店は減ると思う。
		乗用車販売店（従業員）	・車の販売台数が減少している上に車の生産も滞っており、ただでさえ遅い納期が更に遅くなっている。納期の遅延が、車両販売にも影響している。
		乗用車販売店（販売担当）	・半導体不足の影響がかなり出てきている。部品が入ってこない、車の生産が遅れている、半導体を使用した部品のオプションがなくなっているなど、かなりいろいろ影響が出てきている。
		旅行代理店（従業員）	・販売量の減少が予想される。
		通信会社（営業担当）	・現状の納期遅れが続くと思う。
		テーマパーク（職員）	・第6波が来なければいいが、見通しが立たない。
		パチンコ店（経営者）	・コロナ禍により客の動きが減少したまま固定されている。
		理美容室（経営者）	・客との話では、段々と物価が上がるが給料は上がらないとのことなので、景気は悪くなっていくと思う。
		美顔美容室（経営者）	・8～9月で大体の客がキャンペーン商品を購入済みのため、景気はやや悪くなる。
		設計事務所（経営者）	・現時点での種まき案件がほとんどない。
		住宅販売会社（従業員）	・ウッドショックが尾を引いているようで、木材の卸売業は値を下げない。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・客とりモートで打合せをするが、まだまだ環境が整っていないため、ほんの一部の客である。総理大臣も代わり、デジタル庁に世の中のデジタル化を期待している。経済はまだまだ厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	乗用車販売店（従業員）	・今製造業は本当にモノが作れなくなっており、そのモノを売る我々も、生産が間に合わないので売れない。かなり大きな不況がくるのではないかと非常に心配している。
	x	理容室（経営者）	・これからもまだまだ新型コロナウイルスは危険であり、世界を騒がせる。
企業 動向 関連  (東海)		化学工業（総務秘書）	・緊急事態宣言が解除されるため、鬱積した不満を解消する消費や、それによる景気の高揚を感じられると思う。新規感染者数はまた増えるかもしれないが、飲食店での飲酒規制をしなければ、景気への影響は小さい。
		食料品製造業（経営企画担当）	・緊急事態宣言の解除から、消費の盛り上がり期待したい。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が大幅進み、新規感染者数も全国的に減少傾向にあり、特に11～12月は農産物や青果物等の特需が見込まれるため、現状より景気はやや良くなる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・衆議院選挙後の新内閣での新たな景気対策に期待したい。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・緊急事態宣言の解除による飲食店の規制緩和で、良くなると期待したい。
		輸送業（従業員）	・荷主は、新型コロナウイルスにより落ち込んだ分を回復すべく、期待を込めて荷量の回復を掲げている。我々もそこに期待して、対応したい。
		輸送業（従業員）	・緊急事態宣言の解除、政権政党の総交代や衆議院選挙の直前ともなり、様々な緊急経済対策が行われると見込む。
		通信業（総務担当）	・9月30日で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除され、人流が増える。
		金融業（従業員）	・緊急事態宣言の解除の決定、またワクチン接種が進んでいることにより、景気は回復するのではないかと考える。
		不動産業（経営者）	・今後は新型コロナウイルスの新規感染者数が減少していくと思われ、外出する人が徐々に増加すると予想している。売上は徐々に回復していき、前年を上回ると思われる。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・緊急事態宣言の解除が大前提だが、解除されれば折込広告が増えたと見込む。9月中旬くらいから、旅行関係のチラシも徐々に入るようになってきた。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・新型コロナウイルスにより中止となっていたイベントも、来月より再開される見通しで、需要が予想される。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・先々はまだ不透明であるが、後で気が付いてからでは遅いので全て前向きに対処したい。そのためにも開発を前進させる。ただし、海外からの激震が来るような気がしている。
		化学工業（営業担当）	・引き続き半導体向け電材薬液の需要が好調である。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・受注数に対応しきれない製品があり、まだしばらくは現在の好調さが続きそうである。
		金属製品製造業（経営者）	・引き合いも低調で、引き続き販売量が低い状況で推移すると考える。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量の見込みは変わらない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・円高でないことが救いだが、設備自体の納期も原材料不足や輸送網が機能しないことにより長くなっており、改善する要素がない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・直近での改善は見込まれない。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・来月も同様に、1か月の3分の2くらいが休みである。
	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・自動車の完成車メーカーが東南アジアのコロナ禍で部品調達をできない影響が当面続くと考え。悪いまましばらく推移すると思う。	
	建設業（経営者）	・新総裁が誰になるかで大分変わってくると思われるため、まだ分からない。	
	輸送業（経営者）	・消費増加につながるような話題は、各業種の客からは聞かえてこない。	
	輸送業（エリア担当）	・発着荷物の量は前年より増えた状態を維持している。店舗向けの納品は、新型コロナウイルス次第で大幅回復になるかもしれない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（エリア担当）	・12月は1年で一番荷物が動く時期であるが、上半期末の荷物量にはさほど目立った動きがないことを考えると、新型コロナウイルスの影響も当然あるが、年末も荷物量は増えず、景気は回復してこない。景況感は盛り上がりすぎていないと予想される。
		輸送業（エリア担当）	・既にピークに達しており、新型コロナウイルスの感染状況も変わらないと判断する。
		金融業（従業員）	・これからどのように景気が動いていくのか、皆余り方向性がみえていない状況である。東京オリンピックが終わり、また、選挙が終わる時期となり、生産という意味でいくと良くもないが悪くもなく、どちらの方向に動いていくのか見当が付かないというイメージの人が多い。
		金融業（企画担当）	・緊急事態宣言の解除も展望されており、コロナ禍ではあるが人々の行動の変化も予想される。実際に感染防止をして食事をする人も増えてきており、雰囲気は変わりつつあるものの、景気回復にはもう少し時間が必要とみられる。
		不動産業（開発担当）	・新型コロナウイルスの影響が全ては露呈していない経済状態と感じているので、政府の施策次第で上にも下にもいく状況に感じている。
		広告代理店（制作担当）	・特に若者のワクチン接種が遅れているため、年末のイベント等の企画も足踏み状態になっている。
		行政書士	・現状維持である。
		会計事務所（職員）	・緊急事態宣言が解除となることで飲食店は持ち直すだろうが、大手自動車メーカー関連の製造業は、後1～2か月は売上が半減する見込みである。双方を勘案して変わらないとした。
		食料品製造業（営業担当）	・度重なる緊急事態宣言発出の影響が大きく、受注量の減少が収まらない。コロナ禍が完全に収束しないと何度目の解除後も新規感染者数の増加から緊急事態宣言発出の繰り返しである。コロナ禍が完全に収束するまでは、各業態、取引先も安定的にはならないため、景気回復は見込めない。
		金属製品製造業（従業員）	・受注環境が良くないなかで、原材料の価格高騰が収益にまともに響いてくる時期になる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・素材、鋼材が4～5割アップの状況になり、10月から値上げを実施したため、現状価格でも厳しいなか、この値上がり分を単価に反映できない。受注の減少につながると思われる。
		建設業（役員）	・大手自動車メーカーの減産に伴う1次・2次下請会社への影響があるのではないかと。特にこの地域では影響が大きい。
		通信業（法人営業担当）	・コロナ禍で、人の習慣だけでなく商習慣まで変わってきている。経済活動を新たに構築するには、時間が必要と感じる。
		通信業（法人営業担当）	・株価のような状況とはとても思えない。緊急事態宣言は解除とはいえ、新型コロナウイルスの感染は収束とは言い難い。景気回復は誰もが望むことだが、どうしたら生き残れるのかを全業種で働く人たち全員で真剣に考えていかなければ、思いの外、コロナ禍は深い傷となっている。コロナ禍を乗り越えるには、いまだ道半ばというより、道に入ったばかりかもしれない。
		不動産業（経営者）	・先行きが見通せないなかで、様子見のまま足踏み状態になりそうである。
		会計事務所（職員）	・緊急事態宣言は9月末で解除となるが、コロナ禍で国内の景気の停滞が長引き、世界各国と比較して経済復興が遅れているため、相次ぐ原材料などの値上がりに対応できず、企業は自然と薄利となり、しばらく不景気から脱出できないと予想される。
	x	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・今時点でも新型コロナウイルスの感染が収束していない状況である。いつ収束するか分からない状況のなかで景気が上向きになるわけがない。今後はもっと景気が冷え込んでいくのではないかと考える。
	x	鉄鋼業（経営者）	・製鋼メーカーの一方的な値上げは、大手客向けとの間で大きな価格差があり、不適切な価格設定なのではないか。関係機関にも取り上げてもらいたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	公認会計士	・普通に考えて、コロナ禍で経済が止まっている状況で、これが改善するためには相当の時間を要すると思われる。中小企業の低生産性、後継者難、大企業の優越的な地位による利益搾取等は、短期的には改善しない。
雇用 関連  (東海)		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除となる。
		人材派遣会社(企画統括)	・ワクチン接種が進むなか、緊急事態宣言の解除が見込まれる状況となり、景気回復の兆しを感じられる。
		人材派遣会社(営業担当)	・年始から年度初めに向けて、人材採用を見込む企業が増えたと考える。
		人材派遣会社(営業担当)	・緊急事態宣言の解除後に向けて、10月以降の求人数が増加している。
		新聞社[求人広告](営業担当)	・ワクチン接種の効果か、新型コロナウイルスの感染状況は改善されている。10月からの緊急事態宣言の解除もあり、少し前向きな状況になるのではないかと考える。
		新聞社[求人広告](営業担当)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていけば、現状よりは良くなると思いたい。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が9月末で解除される見込みであることや、ワクチン接種が進み、以前よりも経済活動が活発化するのではと思われる。
		職業安定所(職員)	・緊急事態宣言の解除により、経済活動が活発化することが期待できる。
		職業安定所(職員)	・緊急事態宣言も明けて経済活動が上向きになれば、景気向上につながる。
		人材派遣業(営業担当)	・10月以降、緊急事態宣言が解除されるとリバウンドを心配する企業も多く、早期回復へは至らないと感じる。
		人材派遣会社(社員)	・緊急事態宣言が解除されても、しばらくは良くならない。
		人材派遣会社(営業担当)	・総裁選や衆議院選挙の結果により先行き不透明である。
		アウトソーシング企業(エリア担当)	・新型コロナウイルスの感染は収束傾向にあるが、自動車関連業種においては、海外からの部品調達の遅れや半導体不足により生産調整が行われ、完全な回復にはいまだ遠い状況である。
		職業安定所(所長)	・部品の供給不足による大手企業の製造ライン一時停止や減産の影響により、協力企業や何らかの関連を持つ企業の事業運営、雇用への影響が懸念され、厳しい状況はしばらく続くと考えられる。
		職業安定所(次長)	・産業別新規求人数を前年同月と比較すると、基幹産業である製造業を始めほとんどの産業で増加しているものの、先行きの不透明感は一層強まり、宿泊業、飲食サービス業は減少に転じており、先行きは厳しい状況である。今後、緊急事態宣言の解除に期待をする声はあるが、引き続き新型コロナウイルス変異株の感染拡大を注視していく必要がある。
		民間職業紹介機関(窓口担当)	・コロナ禍の影響より、ワクチン接種の進展によって社会活動が活発化しても、第6波への懸念などから大きく改善される見通しがつきにくい。
	民間職業紹介機関(営業担当)	・ボーナス支給後の転職や4月以降の転職を目指して、活動を開始する人が増加する見込みである。	
	学校[専門学校](就職担当)	・前年までは既卒者の離職組へのキャリア支援として紹介していた中途採用募集を行う事業者のなかで、採用計画が4月採用のみに変更となった例が数件発生している。企業における充足度や採用抑制傾向の表れではと懸念している。	
	人材派遣会社(営業担当)	・派遣の引き合いが増えていたのは半期の切り替わりの時期だからと予想され、同じペースで2~3か月後も引き合いがある可能性は低いと考える。	
	職業安定所(職員)	・半導体等の供給不足による影響により、自動車製造業や関連機械製造業においては一定期間求人の申込みが減少することが予想される。一方、ワクチン接種の効果や緊急事態宣言による人流減少で新規感染者数の減少が進んでいけば、経済活動の再開により、徐々にではあるが景気が回復していく可能性もある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北陸)		コンビニ（営業）	・緊急事態宣言が解除され、消費動向が上向いてきそうである。さらに、たばこの値上げに伴って駆け込み需要となりそうである。
		一般レストラン（統括）	・北陸3県では、10月1日のまん延防止等重点措置の解除に合わせ、早々にGo To Eatキャンペーンの食事券の再販売や県民割引の再開などを企画している。また、11～12月のカニを始めとする冬の海の幸シーズンに合わせて、行政はもちろん、鉄道など民間企業も北陸観光への誘客企画を計画している。
		観光型旅館（スタッフ）	・9月30日で緊急事態宣言、まん延防止等重点措置等が解除されるため、予約の増加を期待したい。
		都市型ホテル（役員）	・10月以降、週末や休日を中心に予約数が増加している。まん延防止等重点措置の解除、地域の宿泊キャンペーンの再開等により、宿泊予約の回復を見込んでいる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを見せてくれば、人出も増え、にぎやかさが幾分か出てくるとみている。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・今月は前月と同様の状態で、デイリー等での販売が進み、多少ギフト商材なども出てきている。また、まん延防止等重点措置が解除になるので、更に動きが出てきてくれることを期待し、やや良くなると考える。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・ワクチンを接種した人が増えたことによって、経済活動の正常化が進むと考える。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルス感染症の終息がみえ始めており、徐々に来客数が回復してくると考える。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・ワクチン接種の人数が増え、新型コロナウイルス対策が今よりも更に改善され、景気が回復すると考える。
		百貨店（売場主任）	・直近では新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向とワクチン接種が人口の50%を超えたにもかかわらず、来客数のベクトルの向きは変わっていない。緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除され、政府主導によるGo Toキャンペーン関連の施策の再開が唯一の希望である。
		百貨店（販売促進担当）	・ワクチン接種が高齢者を中心に行き渡り、国内の近場への旅行や冠婚葬祭などの行事に関連した買物が増えると思われている。今まで不振だったアパレルが復調すると期待している。
		百貨店（販売担当）	・感染状況に左右されるが、11～12月にかけて旅行や出張、年末年始の帰省が増加するとみている。近隣エリアへの外出や1～2泊程度の旅行の増加に伴い、衣料品や雑貨など周辺アイテムの活発化を見込んでいる。数年間購入がなく、金銭的に余裕のある客が多いため、一気に動くかもしれない。国の新型コロナウイルス対策と経済強化の後押しがあれば更に向上し、春頃の回復に向けてやや期待を込めて準備している。しかし、各製造メーカーは新型コロナウイルスの影響による消化率を考慮し、非常に生産数が少なく、商材不足の可能性が高い。消費の機会損失につながりかねないため、商品確保が激化するかもしれない。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてくる。
		コンビニ（店舗管理）	・首都圏の緊急事態宣言が解除され、自粛傾向も緩和ムードになる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ワクチン接種率の向上、新規感染者数の減少、緊急事態宣言の解除などが重なり、自粛緩和に伴って行動範囲が拡大されれば、消費も回復してくるとみているが、既に第6波への警戒の話もある。現状よりは状況が改善すると思うが、すぐに回復するとは捉えていない。一方で、相当な解除期間と経済対策などが打たれる状況になれば、回復が早まるのではと期待している。
	高級レストラン（スタッフ）	・現在が最低の集客状況で、これより悪くなることはないと思われているが、新型コロナウイルスの情勢次第であり、3か月後を予想することは難しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（店長）	・夜の来客数はまだまだ少ないが、昼の客は少しずつではあるが増えてくるとみている。
		観光型旅館（経営者）	・ワクチン接種が進んでいることや緊急事態宣言の解除により、人は動き出すとみている。
		タクシー運転手	・ほとんどの人がワクチンの2回接種を済ませ、新規感染者数が減っている。今後は感染は拡大せず、少しずつ収まってくるとみている。そうなれば経済も良い方向に向かうと考える。
		タクシー運転手	・まん延防止等重点措置の解除と、当地の感染警戒レベルが下がったことから、タクシー利用客が多少増えると期待している。
		通信会社（職員）	・ワクチン接種の特典等により、人の動きが回復する兆しがみえてきている。
		通信会社（役員）	・緊急事態宣言の解除、ワクチン接種率の向上により、新型コロナウイルス感染症による制限や制約が緩和されるとみられ、消費活動や経済活動が徐々に回復すると考える。
		テーマパーク（役員）	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の解除が見込まれ、感染の拡大傾向も落ち着くなかで、人の移動や人流の制限がやや緩和される。さらに、旅行需要の回復に向けたキャンペーンも開始されるとの期待があり、やや回復傾向に向かうと考える。
		競輪場（職員）	・緊急事態宣言の解除に伴い、全国の臨時場外車券売場での発売が可能となることから、売上増加が見込まれる。
		その他レジャー施設 [スポーツクラブ] （総支配人）	・県の感染状況が改善され、現役世代のワクチン接種も進むことで安心感が出て、体験や入会につながってくれることを期待している。第6波にならないことを祈るしかない。
		美容室（経営者）	・各種の消費喚起キャンペーンが再開され、消費が少しずつ活発になる。
		住宅販売会社（営業）	・ワクチン接種がこのまま進めば不安が軽減され、これまで抑圧されてきた感情が、購買意欲に直結するような雰囲気客から感じている。
		商店街（代表者）	・緊急事態宣言の解除など明るい話題が出てきたが、プレイクスルー感染もあり、まだまだ人出が戻るには時間が掛かりそうである。
		商店街（代表者）	・10月はマラソンを始め、様々な行政主催のイベントが予定されているが、急に県外観光客が増えるとはみていない。11月にはカニの解禁で飲食店を中心ににぎわいが戻ると考えるが、クリスマス前に新規感染者数が増え始め、基準が変わらない限り、また緊急事態宣言が発出されるだろう。観光客が本格的に戻るのは早くて来年の桜シーズンになるとみている。
		スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着くまでは、景気は良くならない。
		スーパー（仕入担当）	・内食傾向から外食傾向へのシフトが加速するとみている。
		コンビニ（店長）	・人の流れが増えてきているが、購入する商品の点数や単価が低く、金をたくさん使うという買物の仕方が少ないようである。客単価は前年と比べて数%減少している。不要不急の外出を控え、コンビニで買物を済ませようとしていた時期は来客数こそ少なかったが、1人当たりの単価は高かった。現在は全体での景気は余り変わっていないし、今後も同じような状況がしばらく続くのではないかとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まったわけではないことから、まだ来店をちゅうちょする客が見受けられる。
		衣料品専門店（経営者）	・今まで新型コロナウイルスによる感染拡大のピークを何度も経験しているため、早急に自粛等を緩めないとみている。回復にはまだまだ時間が掛かると考える。
		家電量販店（店長）	・スポーツなど大きなイベントもなく、映像関連商品の売行きは落ち込みそうである。
		家電量販店（本部）	・次の感染状況を考えると、景気の回復は難しい。
		乗用車販売店（役員）	・受注は引き続き好調に推移しているが、自動車の減産の影響で配車の見通しが不透明であるため、来年3月の決算期に向けてどのくらい売上に結び付くか読めない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・これまでもそうだったように、今までになかった最悪な状態で長い期間がたつとそれに慣れてしまう。さらに、その状態よりも悪くなると最悪だと思うのに、また慣れてしまう。そんな悪循環のなかで麻ひしている状態が少し怖い。
		スナック(経営者)	・新型コロナウイルス次第であるが、このまま感染が収まっていく状態が続けば、動きが出てくるのではないかとみている。
		都市型ホテル(スタッフ)	・修学旅行や旅行会社の企画の予約は入っているが、新型コロナウイルスによる感染拡大の状況次第のため、キャンセルにならず催行されるかどうかによると考える。
		旅行代理店(従業員)	・新型コロナウイルスの第6波も想定すると、楽観的な予測は立てられない。
		通信会社(営業担当)	・新機種が発売されて問合せは多いが、前年の販売量と比べると大きな変化がみられない。
		通信会社(役員)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きつつあり、消費マインドが好転しつつあるので、放送、通信サービス共に前年同期と同様の契約者数を見込んでいる。
		住宅販売会社(従業員)	・新型コロナウイルスやウッドショックが落ち着かない限り、景気回復は見込めない。
		家電量販店(店長)	・競合の新規出店による影響はあるが、主要商品の単価が前年に比して下がっている。
		乗用車販売店(経営者)	・メーカーから減産の連絡があり、ここ2~3か月は新車の入荷が不安定になるので業界全体がやや悪くなるとみている。
		自動車備品販売店(役員)	・政権の変化により新型コロナウイルス対策、経済対策が講じられると考えるが、変化を感じるには相当の時間が掛かるとみている。明るい兆しもなく、逆にますます悪化すると考える。
		住関連専門店(役員)	・ワクチン接種の進展と感染状況によるが、旅行や食事など、消費は外向きになると考える。
		住宅販売会社(従業員)	・住宅ローン控除の特例による有利性を営業トークに使っていたので、その反動は少なからず起こってくるとみている。
		x	乗用車販売店(従業員)
企業 動向 関連  (北陸)		建設業(経営者)	・新型コロナウイルスの感染が収束に向かい、第6波は回避できるとみており、心理的に全てがプラス方向に向かうと考える。
		繊維工業(総括)	・全体としては回復基調である。ただし、自動車用途が半導体不足の影響により先行き不透明となっていることや、東南アジアでの新型コロナウイルス変異株の感染拡大によるサプライチェーン分断の影響を懸念している。
		一般機械器具製造業 (総務担当)	・事業再構築補助金等の補助金により、引き続き設備投資のための機械購入が増えている。
		精密機械器具製造業 (役員)	・ワクチン接種率の向上に伴う緊急事態宣言の解除や新政権の施策に対し、期待感を含めて現状よりは良くなる方向に市場が動くと考え。
		輸送業(管理会計担当)	・緊急事態宣言が解除され、制限緩和による人流増加に伴い、企業間物流の活発化が見込める。
		金融業(融資担当)	・ワクチン接種が進み、緊急事態宣言の解除もあり、街中に人が増えて経済活動も活発化してきている。政策効果とあいまって、景気が改善することに期待している。
		金融業(融資担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の急拡大により観光、飲食及び関連産業の需要は低下したが、10月以降は全国で緊急事態宣言等が全面解除されることやワクチン接種の進展により徐々に回復に向かうとみている。新政権の経済対策にも期待する。
		司法書士	・個人住宅の新築や土地建物の購入は堅調である。
		プラスチック製品製造業 (企画担当)	・新型コロナウイルスの感染や半導体不足が短期的に解消することは難しいとみられ、今しばらく本格的な回復には至らないと考える。
		一般機械器具製造業 (経理担当)	・オートバイ関係の受注は引き続き好調に推移しており、材料調達の確保と人員体制の再整備が求められる状況である。一方で自動車関係は、新型コロナウイルスによる影響に加え、半導体不足の影響が予想以上に根深く、来年まで影響が続くとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（役員）	・原材料費が上昇傾向にあるなか、この先利益確保が厳しくなることが予想され、今後の受注動向にも大きく影響を受けるとみている。
		通信業（営業）	・企業、事業所、個人事業主向けに対する補助金を手厚くすることで、緊急事態宣言の有無に左右されず投資等を活性化させる対策を採らない限りは、景気回復は見込めない。
		不動産業（経営者）	・現在、法人客は少し不景気のような様子である。個人客は新型コロナウイルスにより将来のことがはっきりしないと、しばらく買い控えをしているという話が幾つも出てきている。
		広告代理店（経営者）	・第6波への懸念があり、少し様子を見る必要がある。
		税理士（所長）	・製造業は厳しいが、ワクチンの浸透で観光業はこれから2～3か月先は復調の兆しがみられる。消費者のリベンジ消費もあることや、マイナスになる業種とプラスになる業種が今度は逆転してくることから、全体としては変わらない見通しである。
		食料品製造業（経営企画）	・受注量や販売量は当面維持できそうだが、原材料や燃料などのコストアップにより採算性の悪化がみえ始めている。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の分の注文の入り具合をみていると、やや悪くなると考える。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)		人材派遣会社（社員）	・コロナ禍に落ち着きが見られ、期変わりのタイミングでもあり、多少なりとも良くなると考える。
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・ワクチン接種が進み、感染者数も減少傾向にあることから、少しずつではあるが経済活動が活発になると考える。
		職業安定所（職員）	・まん延防止等重点措置の解除後は、新規に求人を出したいという事業所が増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	・飲食業が一時的であれ、今後復活する時期であるが、2～3か月先の年末年始にどれだけ感染拡大を抑えられるかで、来年も大体決まるとみている。前年の傾向から今は新型コロナウイルスの端境期なので何とか回復期になると考える。
		職業安定所（職員）	・ワクチン接種が進んだことによる期待感がある。
		人材派遣会社（役員）	・派遣登録者数が伸びない。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・大きな雇用の話が出てこない。
		新聞社〔求人広告〕 （営業）	・新型コロナウイルスへの恐怖感がなくなればとか、特效薬ができればといった希望の話が多い。
		民間職業紹介機関（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数がやや減少の兆しがあるので、経済活動もようやく上向きになることを期待するが、時間が掛かるかもしれない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人数について、状況が変わる要素や気配が見受けられない。
		-	-
	x	-	-

## 8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)		百貨店（サービス担当）	・緊急事態宣言が解除の見込みであるため、購買意欲が大きく上向き、売上の増加が期待できる。また、新ショップの導入や地階の食料品フロアのリニューアル改装により、新しい商材も展開されることで、より安定した売上の確保が期待できる。
		百貨店（外商担当）	・緊急事態宣言下であるが、週末の近隣商業施設の入出は明らかに増えている。緊急事態宣言が解除となれば、当店の人も一気に回復すると予想される。
		一般レストラン（経営者）	・このまま緊急事態宣言が出なければ、来客数は伸びる。ゴールドステッカーも取得し、酒類が提供できるため、新型コロナウイルスの感染対策に気を付けて営業していきたい。
		都市型ホテル（フロント）	・緊急事態宣言の解除で、一気にレジャーの需要が増えると予想される。スポーツなどの団体客による問合せも増えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競輪場（職員）	・年末年始の時期となり、通常であれば良くなってくるが、新型コロナウイルスの感染状況や政局、物価の上昇による影響もあり、正直なところ分からない。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・緊急事態宣言の解除に合わせて、休業していた飲食店からの注文が再開している。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・緊急事態宣言の解除により、取引先が営業再開となるため、現状よりも景気は回復すると予想されるが、コロナ禍以前の水準には戻らない。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・緊急事態宣言もようやく解除されることになり、制限はあるものの、経済活動が上向き期待は大きい。見積りなどの依頼も増えてきている。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・9月末で緊急事態宣言が解除されることが決定し、これから行楽シーズンに入るため、外出の機会が増える。服飾品店としては、これから景気が回復に向かうと予想される。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・10月1日からは緊急事態宣言も解除され、若干期待できそうである。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	・客の心理としては、新型コロナウイルスへの恐怖感はまだあるが、ワクチンの接種により、少し動き回ってもよいという気持ちが出てきている。来客数が戻りつつあり、買物も少し楽しんでもらえるようになっている。
		百貨店（売場主任）	・9月の大型連休の人出からすると、緊急事態宣言の解除で一気に人の動きが活発化するため、来客数の増加による売上の拡大が見込まれる。
		百貨店（売場主任）	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの感染者数も落ち着いてくれば、本格的な景気回復が期待できる。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、やや良くなるものの、感染が再拡大した場合は、景気は悪化傾向に向かう可能性が高い。
		百貨店（商品担当）	・与党の総裁選や衆議院選挙によって景気が刺激され、ある程度の回復が見込まれる。また、緊急事態宣言の解除や、ワクチン接種の進展も追い風となり、1年半続いた経済の停滞は、活性化の方向に変化すると予想される。ただし、足元の企業業績は大変厳しく、冬のボーナス支給は低調となる見込みのため、一気に復活する期待は薄い。
		百貨店（販促担当）	・コロナ禍によって外出の自粛が続き、消費マインドも低下しているが、年度末には気分を一新し、開放感を求める傾向が強まると予想される。基本的には自宅が中心となり、食品の購入に加えて、ワイン用グラスの新調など、ちょっとした志向の高まりも期待される。年始に向けた動きもあり、提案次第では買換え需要も期待できる。
		百貨店（外商担当）	・11月末までには、ワクチンが希望者に完全に行き渡る予定であるほか、治療薬も年内に完成する可能性があるため、今よりも新型コロナウイルスの感染は落ち着き、消費マインドも上昇すると予想される。
		百貨店（マネージャー）	・全体的には緊急事態宣言の解除で人流が増え、リベンジ消費が各分野で出てくるが、業界によって回復のスピードは異なると予想される。今後は、新たな価値観での購買意欲に対応したビジネスモデルが、大きなチャンスを生みそうである。
		百貨店（店長）	・11月以降の経済活動の再開により、人流が増えることから、商品もようやく動く予想される。旅行や宴会など、年末年始に向けての消費の増加には、かなり期待している。
		百貨店（売場マネージャー）	・ワクチン接種が進むほか、一時的にでもペントアップ需要が見込まれると予想している。
		百貨店（売場マネージャー）	・ワクチン接種率の上昇のほか、9月20日頃から新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向となったことで、来客数は増加している。また、緊急事態宣言も9月30日で解除となり、当分は人流が増加することから、売上の増加が期待できる。
		百貨店（服飾品担当）	・ワクチン接種率の上昇に伴い、来客数は増えており、客の消費マインドも上昇が続くと予想される。ただし、新型コロナウイルス発生前の動きに戻るのには半分で、残りの半分は、新しい生活様式をそのまま続けると考えられる。リアル売場の役割がショールーム化すると予測され、今後は買物体験の価値をいかに提供できるかが問われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業推進担当）	・4月以来の行動制限の緩和により、外出関連のマインドの向上が加速する。
		百貨店（マネージャー）	・単純に新型コロナウイルスの感染状況次第となる。現在の予測では、10～11月は感染が落ち着き、12月に感染第6波の大きな波がくるといった見方が多い。それに伴い、12月にはまた今月のような状況に戻ると予想されるが、社会全体でのウイルスへの慣れもあり、10～11月は直近よりも人の動きは活発となる。さらに、政局の安定で株価の上昇も予想されることから、当面は若干ながら景気の回復が期待される。
		百貨店（マネージャー）	・緊急事態宣言の解除や、ワクチンの2回接種者の増加による行動制限の緩和などで、人流が戻ってくるため、経済活動が再び活発化すると予想している。
		スーパー（店長）	・緊急事態宣言の解除後は、飲食店を中心に、確実に消費は上向く。
		スーパー（店長）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種も進むなか、今後は政府の経済活性化策も出てくる。消費者はこれまで動きを抑制してきたが、旅行や行楽、イベントなどで一気に外出機会が増え、消費の拡大につながる。
		スーパー（経理担当）	・緊急事態宣言が解除され、外食や旅行需要は高まるが、内食需要に大きな変化はないと予想される。対外的な活動が活発になることで、これまで抑えられてきた消費意欲が高まり、消費全体が上向き効果が出ると予想される。
		コンビニ（経営者）	・9月末に緊急事態宣言が終了する予定で、ワクチン接種率も70%に達する予定である。テレワークも少なくなり、現状よりもビジネス街の人流も25%ほど増えるため、販売の増加につながる。
		コンビニ（経営者）	・10月からは、飲食店での酒類提供が復活することを期待している。
		コンビニ（店員）	・近隣の会社でのリモートワークなどが少なくなれば、少し来客数が増える。
		コンビニ（店員）	・観光客や外出する人が増えることで、また以前のような集客に少しずつ戻る気がする。周りの飲食店も再開し始めれば、地域の活気も出てくるため、ついで買いの増加などにも期待したい。
		衣料品専門店（経営者）	・緊急事態宣言の解除による景気回復を期待したい。
		衣料品専門店（販売担当）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種も進むことで、徐々に景気も回復する。
		家電量販店（店員）	・緊急事態宣言の解除による影響で、客足が少し戻るのはないかと期待している。
		家電量販店（企画担当）	・政府からは、2回のワクチン接種者を中心とした行動制限の緩和の方針が示されており、秋物商材を含め、年末に向けての需要が増えそうである。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・年末に向けて規制が緩和されれば、状況は良くなる。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・緊急事態宣言の解除で、外出の機会が増える。今までのストレスから、商品の購入につながることを期待している。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・緊急事態宣言の解除により、徐々に回復傾向が進むと予想される。ただし、生活必需品については大幅な改善が見込めない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・今月末で緊急事態宣言が解除され、行動制限も緩和された場合は、現在よりもやや良くなると予想される。
		その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・緊急事態宣言の解除によって、客の行動制限が緩み、消費の増加につながる。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・制服などを一新する客が増えてきているため、売上は増加する。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染第6波への懸念はあるものの、ワクチン接種済み人口の増加で、重症化リスクが軽減されつつあるなど、ウイルスと共存可能な環境が次第に整ってくる。
		高級レストラン（スタッフ）	・緊急事態宣言が解除となり、客足や客単価が徐々に戻ることを期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（企画）	・ワクチン接種の進行や、地域の観光支援事業、Go To キャンペーンの再開により、利用者数の増加が見込まれる。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増える恐れはあるが、飲食店が若干でも動き出すと、少しずつ景気が回復し、経済が動く大きな要因になることは間違いない。
		一般レストラン（店員）	・緊急事態宣言が解除されれば、外食する人が増える。アルコールが提供できれば、もっと良い方向に向かう。
		一般レストラン（企画）	・緊急事態宣言の解除により、営業時間が延長し、アルコールの販売も解禁されることで、現状よりも改善すると予想される。また、ワクチン接種の推進などによる経済活動の活性化にも期待している。
		観光型ホテル（経営者）	・10月1日からは、レストランや宴会場では午後8時半までのアルコール提供が可能となるため、来客数の増加につながると期待している。
		観光型ホテル（客室担当）	・ワクチン接種率が上がっているため、先行きは少し良くなる。
		観光型旅館（経営者）	・12月の予約の動きは、今月よりも良い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・緊急事態宣言中は会議が中心の予約となり、宴会はほぼゼロである。宴会は先の予約が入っているものの、自粛となる可能性は大きい。一方、宿泊は緊急事態宣言が延長となるたびにキャンセルとなっていたが、新型コロナウイルスの新規感染者数が少なくなるにつれて取り戻している。レストランは、緊急事態宣言中は平日のディナーを休止しているが、10月以降は徐々にスローペースであるものの、予約が入ってきている。
		都市型ホテル（管理担当）	・緊急事態宣言が解除となれば、人の移動も活発化してくる。
		都市型ホテル（販売促進担当）	・緊急事態宣言の解除で、どこまで上向くのかは分からないが、良くなることは間違いない。大阪では独自の施策が実施されそうであるが、まん延防止等重点措置の適用時よりも、人の動きは良くなると予想される。4月から休業していたレストランも、ディナー営業を再開する予定である。
		都市型ホテル（総務担当）	・ワクチン接種が進んでいるほか、新型コロナウイルスの感染に対する治療方法も多様化している。
		都市型ホテル（管理担当）	・緊急事態宣言の解除が発表され、客室については先の予約にも動きが出てきている。宴会でも様子見が続いていた仮予約が決定となっているほか、ビールの提供も可能となるため、レストランにも希望が持てる。
		都市型ホテル（客室担当）	・緊急事態宣言の延長が続くという状況からは好転する。新型コロナウイルスの感染予防策を講じながら、秋の観光シーズンでの来客数の回復を期待している。
		旅行代理店（店長）	・新型コロナウイルスの感染第6波が到来すれば分からないが、それまでは緊急事態宣言の解除により、やや良くなると予想される。
		旅行代理店（役員）	・県民割のほか、Go To Travelキャンペーンの再開も予想される。
		旅行代理店（支店長）	・10月1日によりやく緊急事態宣言が解除され、政府からの支援策も具体的に展開されると期待している。客も、Go To Travelキャンペーンのような支援策が具体的に出てくれば、旅行に行きたいという人も多く、在宅疲れを発散するような動きにつながることが予想される。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少で、人出が増えている。特に、土日や連休は旅行者も増えているため、今後に期待している。
		タクシー運転手	・今後上向くことが期待される。
		タクシー運転手	・10月1日からの緊急事態宣言の解除により、帰宅時でのタクシーの利用が増えることで、少し景気は良くなる見通しである。
		通信会社（経営者）	・緊急事態宣言の解除が期待される。
		通信会社（社員）	・ワクチン接種率も上昇しており、今までの混んとした状況での、ネットサービスの需要増加という傾向が変わりつつある。社会情勢の改善に伴い、申込件数が増加することを期待している。
		通信会社（企画担当）	・ワクチンの接種や治療薬の開発、緊急事態宣言の解除により、景気が回復するタイミングを迎える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（経理担当）	・希望者へのワクチン接種が完了に近づいていることで、様々な点で制限緩和の動きが広がっている。一方、緊急事態宣言の回数が増えるたびに、それを守る人が減ってきている。ワクチン接種が終われば大丈夫という考えの人もいるため、たとえ緊急事態宣言が再び発出されても、人流が今よりも減ることはないと予想される。
		ゴルフ場（支配人）	・9月末で緊急事態宣言が解除されれば、来場者数もますます増えると予想される。
		その他レジャー施設 〔複合商業施設〕（職員）	・ワクチン接種率の上昇が安心感につながるほか、経済対策による支援も期待できる。
		その他レジャー施設 〔イベントホール〕（職員）	・緊急事態宣言の解除による、経済の活発化に期待している。
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・10月からは緊急事態宣言が解除となるほか、ワクチン接種も進むため、外出意欲の向上が期待できる。
		美容室（店員）	・緊急事態宣言の解除が見込まれるため、結婚式のゲストによる予約が入ってきている。また、自宅待機を続けていた高齢の客による、問合せや予約も入りつつある。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・今が底だと感じる。ワクチン接種が進むことで、景気は今よりも回復すると予想される。
		住宅販売会社（経営者）	・緊急事態宣言の解除に伴い、徐々に日常の動きが戻ってくると予想される。
		住宅販売会社（総務担当）	・緊急事態宣言の解除に伴い、通常の生活に戻ることが期待される。それによる販売量の増加も予想している。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に関する報道が増え、客の心理が良い方向に変化することで、当社からの訪問者への制約もなくなり、予定が組みやすくなることを期待したい。
		商店街（代表者）	・緊急事態宣言が解除されても、高齢者は外出を控えており、大きな変化はないと予想される。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・9月末をもって緊急事態宣言が全面解除されるが、これで一気に緩みが出ると、新型コロナウイルスの感染第6波につながるかねない。今までの経験をもとに考えると、同じことの繰り返しになる。一方、個々の客と話をしていると、なかなかお金や気持ちの面でゆとりがなく、年配になるほど動きがない。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・今月で緊急事態宣言が解除されるが、その後の対応がどうなるか分からない。物の価格がかなり上がっているため、今は物が売れる状況ではない。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・気候が良くなり、緊急事態宣言が解除されても、年末近くに新型コロナウイルスの感染が再び拡大することを考えれば、この先も不安である。
		百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの感染第5波は落ち着きが見られるものの、新型コロナウイルス変異株の感染拡大や、第6波の発生の可能性もあり、予断が許されない状況にある。仮に感染が落ち着いたとしても、特にファッション関連は商品の製造を抑えており、従来の商品に代わるヒットアイテムもないため、以前の売上に戻ることは難しい状況にある。
		百貨店（企画担当）	・現時点では、来客数に比例して売上も少し回復しているが、消費者の動きが以前とは変化したように感じる。コロナ禍前の状態には、完全には戻らないと予想している。
		百貨店（販売推進担当）	・新型コロナウイルスの感染第6波が発生するとの予想がある。3回目のワクチン接種や経口薬の実用化、指定感染症の分類引下げなどが行われるまでは、警戒心から来客数が劇的に回復することはない。
		百貨店（特選品担当）	・9月末で緊急事態宣言が解除されるが、今後はワクチン接種も進み、良い方向に進んでほしい。ただし、新型コロナウイルス変異株の猛威や、感染第6波への懸念もあり、全く先が見えない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（宣伝担当）	・緊急事態宣言が延長となり、入店数や売上の不振が長期化したことで、取引先が生産調整や販売のオンラインへの移行、販売要員の減少などに動いている。客の生活様式も今の状態が定着しており、緊急事態宣言が解除になったとしても、急激な回復は見込めない。
		スーパー（経営者）	・年末に向けて、前年のように新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しなければ、来客数の増加は続くと予想される。企業の決算をみる限り、業績の回復が進んでおり、冬のボーナス支給額も増加が予想されるため、クリスマスや歳末商戦に期待したい。
		スーパー（店長）	・先行きの状況は変わらないか、やや悪くなる。緊急事態宣言が解除されて外食が増えれば、スーパーなどでの需要が減ると予想される。
		スーパー（店長）	・ワクチン接種による、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少は光明であるが、治療薬の利用が認可されるまでは予断が許されない。人の移動が活発化すれば、消費の回復が期待できるものの、これまでの企業業績の傷は大きいため、大きな期待はできない。
		スーパー（店員）	・今後天候が回復すれば、野菜の価格が下がり、客も増えてくる。ただし、また台風の影響が出れば、価格は高いままとなり、販売も伸びなくなる。
		スーパー（開発担当）	・まだ緊急事態宣言は解除されていないが、10月からは各部門で値上げが行われる。賃金も上がっておらず、景気が良くなる状況にはならない。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言はもう発出されないとしたいが、企業が在宅勤務にメリットを感じ、新たな勤務形態が定着した感もあるため、来客数は戻らないと予想される。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの感染は、収まると思えば、また増えるという動きを繰り返しているため、ワクチンや治療薬が確立される数年後までは、良い方向に向かうとは思えない。
		コンビニ（店員）	・今後寒くなり、新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増加すれば、人出は減少する。
		コンビニ（店員）	・先行き不透明な状況は、しばらく続くと予想される。
		衣料品専門店（店長）	・10月からは緊急事態宣言が解除され、全国的に人流が戻ることを期待しているが、年末にかけて新型コロナウイルスの感染の波が発生するとの予想がある。また、インフルエンザの流行への不安もあり、余り期待できない。全体としては、今以上にワクチンの接種が広がって人流が増えてくれば、景気の底上げにつながる。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・緊急事態宣言下で、来客数が少ない。コロナ禍がもう少し収束し、外出や買物客が増えることを期待している。
		家電量販店（経営者）	・コロナ禍が完全に落ち着く気配はなく、消費が喚起されるほど回復しないと予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・緊急事態宣言が解除になるため、かすかな期待はあるものの、今までの経験もあって楽観はしていない。
		乗用車販売店（経営者）	・ワクチン接種の拡大や、外出の自粛もあって、新型コロナウイルスの新規感染者数は減っているが、まだ経済活動が全面的に再開できるとはいえない。今後もしばらくは感染状況が良くなったり、悪くなったりで不安定な状況が続き、経済活動や景気も振り回されることになる。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・今後も株価の変動によって、消費意欲に影響が出る。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、緊急事態宣言も解除されれば、それなりに人出は増えると予想されるが、すぐには消費の増加につながらない。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・気候が良くなれば、人の動きも増えるものの、全体的な回復はコロナ禍が収束するまでは見込めない。
		観光型ホテル（経営者）	・今後の新型コロナウイルスの感染状況次第である。余りにも悪い状態が続いているため、1日も早い収束を祈っている。
		タクシー運転手	・夜間の人流は減少傾向のまま推移している。客の乗車機会の減少傾向は今後も続き、回復が見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（社員）	・緊急事態宣言の解除により、一時的には回復するものの、そもそも業況の悪化が新型コロナウイルスだけが原因かどうかは疑問である。
		テーマパーク（職員）	・緊急事態宣言の解除後に、秋の観光シーズンが本格化するが、本当に観光や娯楽を楽しむ雰囲気が醸成されるのかが、大いに疑問である。ワクチンが行き渡った後、社会がどのような状況に変わっているか、まだ予測が付かない。
		観光名所（企画担当）	・緊急事態宣言が解除となる見込みで、新型コロナウイルスの感染者数も減少している。飲食業や旅行業界への支援があれば良くなるが、現状ではまだ先が見通せない。
		遊園地（経営者）	・緊急事態宣言が今月末で解除となり、経済活動が早期に活発になることを願いつつも、新型コロナウイルスの感染がこのまま落ち着くとは思えず、明るい見通しを持つまでには至らない。
		競艇場（職員）	・緊急事態宣言の発出による、外出の自粛やステイホームの影響で、電話投票やインターネット投票の売上好調が続いている。しばらくは現状維持で推移しそうであるが、コロナ禍の状況により、どう変化するかは読みにくい状況である。
		その他レジャー施設 [ 球場 ]（経理担当）	・大阪府ではまだ緊急事態宣言が解除されておらず、プロ野球の公式戦での入場制限はあるが、地元チームの活躍によって活気のある試合が続いている。また、11月にはコンサートも3日間予定されているが、3か月後の状況は不透明であるため、全体としては現状と変わらないと予想している。
		住宅販売会社（経営者）	・まだしばらくは、住宅資材などの値上げが続くと予想される。
		その他住宅投資の動向を把握できる者 [ 不動産仲介 ]（経営者）	・不動産価格は下がると予想されるが、今のところは価格の下落にまでは至っていない。
		その他住宅 [ 展示場 ] （従業員）	・全体の来客数ではなく、各社の来場予約数を重視するなど、今までの住宅展示場の概念を覆す形に変わってきた。今後はイベントができずに集客が増えなくても、展示場への来場予約数はある程度確保できる見込みのため、各社の契約件数への影響は少ない。
		その他住宅 [ 情報誌 ] （編集者）	・経済環境には様々な側面があるが、株価を含む資産バブルの要素を背景に、富裕層が安定資産を求める動きが増え、それが景気を支えている面が大きい。
		スーパー（店長）	・緊急事態宣言の解除後も、生活防衛的な買物が続くと予想される。
		スーパー（企画担当）	・緊急事態宣言が解除となり、今までの外食の自粛モードも緩和されるため、家庭内での調理や食事に関するスーパーの売上にも影響が出る。旅行などの外出規制も緩和されるため、年末商材への影響も懸念される。
		スーパー（企画担当）	・来客数が減るなど、コロナ禍による巣籠り需要が前年よりも減少し始めている。特に、自転車の販売が前年比で50%と悪化している。
		スーパー（販売促進担当）	・景況感に大きな変化はないと予想されるが、緊急事態宣言が解除される場合、従来の外食から中食、内食へのシフトの反動が出てくる。新型コロナウイルス発生前の水準に戻ることはないが、外食が回復する一方、中食、内食は減少すると予想される。
		スーパー（社員）	・輸入品を中心に畜産部門の価格が高騰しており、買上数量が減っている。水産部門も価格が上昇傾向にあるため、当面は食品全体で売上の確保が難しくなりそうである。
		コンビニ（経営者）	・経営が悪化した状況で、新たな雇用はなかなか生まれない。そのなかで、最低賃金の上昇や、働く人に対する有給休暇などの優遇などが求められている。今は経営者側が雇用したいとは思えない状況であると感じる。
		コンビニ（店員）	・年金生活をしている高齢の客が多く、余り景気に左右されない傾向はあるが、秋からの一部商品の値上がりを気にする様子が見受けられる。
		家電量販店（店員）	・冬のボーナス支給額が確定するまでは、購買意欲の回復は難しい。与党の総裁選の結果も、景気回復の動きを左右しそうである。先行きが不透明な状態では、成約に結び付けるのも困難である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店員）	・商品のモデルチェンジにより、単価が全般的に高騰しているように感じる。経年劣化による買換え需要はあるが、以前よりも買い控えが増えたと感じている。同業他社を含め、最近は余り変化を感じなかったが、近隣のリサイクルショップは平日、土日に関係なく、幅広い年齢層の家族連れが増えたように感じている。今後は、購買先の分散化が更に進みそうである。
		家電量販店（人事担当）	・前年に増えた巣籠り需要の反動減が、当分は続くと思われられるため、前年を上回るような売上を確保するのは難しい。
		乗用車販売店（経営者）	・コロナ禍による所得の減少が、徐々に影響してくると予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・半導体の供給不足による生産の遅れで、新車が入ってこない。納車待ちの客からはキャンセルも発生しているため、売上は落ち込む。
		乗用車販売店（販売担当）	・冬に向けて、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くかどうか不安である。景気の回復は、冬が過ぎてからではないかと予想される。
		住関連専門店（店長）	・衆議院選挙などによる政局の変化や、世の中に落ち着きがない時期は、いつも売上が悪化する。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・10月から各種消費財の値上げも始まるため、景気は一時的に冷え込むと予想される。飲食や旅行関連の復活も、しばらくは不透明な状況である。
		美容室（店長）	・緊急事態宣言が解除されるが、客の心理はまだまだ冷え込んでおり、すぐに予約が増えるとは思えない。
	×	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・冬場になり、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えれば、来客数はかなり減ってくる。既に小売店での買物客はかなり減っており、今後どうなるのかが非常に不安である。
	×	一般小売店〔花〕（店長）	・コロナ禍はまだまだ落ち着かない。
	×	一般小売店〔花〕（店員）	・新型コロナウイルスの影響でイベントがなくなり、開催されても縮小傾向となるため、生花にまで予算を掛けられなくなっている。また、10月からは様々な商品の値上げがあるため、花の購買意欲が下がるほか、かねてからの節約意識もあり、売上は減少する。
	×	コンビニ（店長）	・最低賃金の改定により、企業側は今以上に厳選して採用するようになってきている。
	×	衣料品専門店（経営者）	・衆議院の総選挙や、地方選挙の影響を受ける。特にリモート選挙となる影響で、外出着の需要が減退すると予想される。
	×	衣料品専門店（経営者）	・お金がないほか、客も来ないといった理由から、商品を仕入れなくなっている。客も商品を購入しないことに慣れているため、今後良くなる見込みがない。
	×	乗用車販売店（販売担当）	・半導体不足の影響で、販売在庫のない状況が深刻化している。年内の販売台数に関しては、大きな増加は望めない。
	×	住関連専門店（店員）	・良くなる要素が全くない。
企業 動向 関連  (近畿)		木材木製品製造業（経営者）	・輸入相手国がロックダウンの状態にあり、前月と今月は入荷がなく、売上も在庫を売った分にとどまる。ロックダウンは10月末まで続く予定のため、今後も厳しい状態が続く。
		金属製品製造業（開発担当）	・受注が増えそうである。
		食料品製造業（営業担当）	・全国的にも緊急事態宣言が解除となるため、飲食店への人の流れが少しずつ多くなり、飲料水の売上も少し増えると予想される。
		繊維工業（団体職員）	・全国的に緊急事態宣言が解除されることで、商品の動きが出てくると予想される。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、緊急事態宣言も9月30日で解除される見通しである。ワクチン接種も進んでおり、経済を回していかなければならないため、期待も込めてやや良くなると予想している。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・10月から緊急事態宣言が全面解除されるため、それが継続すれば、今月よりも消費は多少活発になると予想される。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・ワクチンの接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が減ってきているため、緊急事態宣言が解除となれば、受注の増加が期待される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、緊急事態宣言が解除され、徐々に景気が上向くことを期待している。また、関西では16年ぶりの地元プロ野球チームの優勝効果にも期待している。
		輸送業（商品管理担当）	・緊急事態宣言が解除され、酒の販売量が増加するため、今後数か月は売上が伸びる。
		金融業（副支店長）	・ワクチンの接種率も上がってきており、個人消費の改善が予想される。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・あくまでも新型コロナウイルスの感染者数次第となるが、緊急事態宣言も解除される見込みであり、今まで我慢していた購買意欲の活発化が予想される。ただし、コロナ禍で打撃を受けた店舗などは、回復までにまだ時間が掛かる。
		広告代理店（営業担当）	・年末に向けて、出稿の動きは前年よりも回復の兆しがある。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・10月以降は、緊急事態宣言の解除に始まり、年明けにはワクチンだけではなく、経口薬などの治療薬も出てくる可能性も高まったことから、購買意欲が徐々に活発になると予想される。
		食料品製造業（従業員）	・緊急事態宣言は解除されるようだが、まん延防止等重点措置に変わっても、すぐに大きく変わることはない。また、製品の値上げもできないなか、原材料、資材の値上げは増えているため、経営の大きな負担となる。
		繊維工業（総務担当）	・回復に向けては、新型コロナウイルスの新たな感染拡大が起こらなければという条件が付く。ワクチン接種の効果に期待しており、何とか感染が再拡大しないことを願っている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・取引先からは、増産の情報は聞かれない。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・ワクチン接種が進み、景気も徐々に上向くと予想されるが、コスト削減の動きも強く、回復には時間を要する。
		化学工業（経営者）	・日々の受注の平均額は、横ばいから若干減少しているが、緊急事態宣言が解除されれば上向くのではないかと期待している。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・9月末に緊急事態宣言が解除されれば、営業活動が進めやすくなるが、実際の数字に反映されるのはその先となる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の投資計画は止まったままで、今後もこの状況は変わらないと予想される。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・飲食、旅行業界の規制解除による回復に期待できそうであるが、まだまだ国内全体の景気回復には時間が掛かりそうな見通しである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・前年よりも景気は回復しているが、ここへきて横ばいの動きとなりつつある。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・大型案件がなく、良くなる材料が見当たらない。
		建設業（経営者）	・緊急事態宣言は解除の見込みであるが、コロナ禍の収束がみえてこなければ、今の状況は変わらないと感じる。
		建設業（経営者）	・株価の推移と実体経済がかい離していると感じる。体力のある企業は設備投資を粛々と進めているが、コロナ禍の影響を受けている企業は、設備投資計画の凍結や延長を行っている。
		輸送業（営業担当）	・個人間での売買や、通販による荷物が前年比で2倍以上に増えたが、単価が安過ぎるため、利益の増加にはつながっていない。
		通信業（管理担当）	・まだまだ新型コロナウイルスの影響が続く。
		金融業（営業担当）	・まだまだコロナ禍の収束はみえてこない。
		広告代理店（営業担当）	・今年に入って、2年前の売上を下回る状態が続いている。
		司法書士	・緊急事態宣言が解除されるが、これから冬に向かうほか、解除による新型コロナウイルスの新規感染者数のリバウンドもあるため、全体としては変わらない。
		経営コンサルタント	・今月末で緊張事態宣言が解除される見込みであるが、多くの事業者、土地所有者は、また新型コロナウイルスの感染拡大が繰り返されると予想しており、資金の回らない状況が続く。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・まだまだ新型コロナウイルスの影響が続くと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・コロナ禍の収束時期はみえず、設備投資の予算がどれだけ計上されるのかも不透明である。
		繊維工業（総務担当）	・問屋による集客や催事の回数が増えていない。2月までの催事は参加が決まっているが、販売量は予測不能となっている。経費は掛かるが、売上が読めない状況である。
		化学工業（企画担当）	・食品の原料価格の高騰が収まる気配はなく、販売価格への転嫁が追い付かない。
		化学工業（管理担当）	・半導体や部品の不足により、自動車や家電関連の減産が予想される。
		金属製品製造業（経営者）	・コロナ禍による部品の入荷遅れがしばらく続く。
		輸送業（営業担当）	・木材の不足や、海外でのロックダウンが終わらなければ、商品が入ってこないため、配達件数が減少する。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・先の話がなく、手持ちの案件を処理している状態のため、今後良くなるとは思えない。
	x	金属製品製造業（営業担当）	・原材料である鋼材価格が大幅に値上がりしているが、大手自動車メーカーへの10月以降の販売価格との差は大きい。その分の値上げを認めてもらえないため、採算はより一層悪化しそうである。
	x	不動産業（営業担当）	・10月からは緊急事態宣言が解除となったが、景気の回復は困難であり、当面は底ばいの状態が続く。
	x	経営コンサルタント	・ここ3か月で良くなる要素はほとんどない。何とかやりくりしながら、現状を維持するのが精一杯である。コロナ禍の収束後に、どの業種にどのようなサービスが提供できるかをよく考え、準備を行うことが、今できる最も大事なことである。同業他社も同じ状況で、生き延びるために必死に努力している。
x	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・新型コロナウイルス感染収束後の経済状況が見通せない。	
雇用 関連 (近畿)		人材派遣会社（支店長）	・中国の大手不動産会社の経営危機によるショックが大きくならなければ、下半期も堅調に推移すると予想される。
		人材派遣会社（役員）	・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が全面解除になることから、大いに期待している。
		人材派遣会社（営業担当）	・ワクチン接種が進んでおり、採用を増やす企業も増えている。
		人材派遣会社（営業担当）	・10月から緊急事態宣言が解除されるが、ワクチン接種証明書の発行などに期待したい。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は急激に減少し、病床利用率にも改善がみられる。緊急事態宣言は多くの地域で9月30日には解除されそうである。ワクチンも年内にはほぼ希望者全員の接種が完了する見通しで、新型コロナウイルス変異株の感染も、ある程度は抑えられると予想される。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の激減により、宿泊業やサービス業、飲食業の景気の回復が予想される。
		民間職業紹介機関（職員）	・緊急事態宣言の解除後は、集客を見込んだ飲食店などの改修工事が予想され、それに伴って求人数が増える可能性がある。
		人材派遣会社（経営者）	・上半期からずれ込んでいた案件が、ここへきて動き出している。ただし、予定では8～9か月間の案件であったが、終了を年度末の来年3月に合わせているため、改善の動きがどこまで続くかは分からない。少なくとも、年度末までについては、今までよりもかなり忙しくなる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・10月から緊急事態宣言は解除されるものの、先行きが不透明な状況は変わらない。また、今後の与党の総裁選や衆議院選挙の結果により、政策面での変化があると予想されるが、それが良い変化かどうかは、現時点では判断できない。
		職業安定所（職員）	・雇用保険受給資格決定件数は5か月連続で減少し、離職者数そのものは減ってきたと感じるが、依然として雇用調整助成金の申請件数は2万件台で推移している。特に、最近は自動車部品メーカーからの相談が増えるなど、今後の推移が懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染第5波は収束しつつあるが、まだ先の見通しが楽観できる状況ではない。当面の好材料としては、ワクチン接種の拡大や、抗体カクテル療法などの新たな治療法の普及もあるが、その一方、冬に向けての感染第6波への懸念もあり、今のところは明るい材料が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・8月の求職者の新規登録は、前年比で1割程度増えている。特に、パート登録者の増加が目立っている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・今後3か月は、内定の辞退や就職活動に出遅れた求職者の動きが中心となるが、大学のキャリアセンターに進路の決定状況を聞くと、例年と大きく変わらないか、やや悪くなるとの予想である。オンライン授業の影響で動きの鈍い学生が増えているとみられ、全体的に活発ではない。ただし、求人と求職者のマッチング数を見る限り、人材業界の業況に大きな変化はない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・まだ変化の兆しがみられない。
		アウトソーシング企業（社員）	・職場の欠員が解消されなければ、今の状況は変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・緊急事態宣言の解除の有無や、コロナ禍による経済への影響次第であるが、まだまだ企業の宣伝に対する予算の動きが鈍く、前年割れの状況が続く見込みである。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・コロナ禍による特需で求職者が職を得ているため、求職者数が減ってきており、求人数も微減となっている。
	x	学校〔大学〕（就職担当）	・コロナ禍の影響で、企業の業績も不安定である。特に、観光業や飲食業、宿泊業などの業況の落ち込みによる影響が予想される。

## 9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連		-	-
(中国)		商店街（理事）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少やワクチン接種の進展等の報道で、客に安心感が生まれ、外出、買物、外食が増加するため、景気は少しずつ回復する。
		商店街（代表者）	・駅前通りでは、県外客らしい通行人が少しずつ増加してきており、今後、人流や物流が活発化する。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているため、今後、人通りも良くなる。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているので、少しずつ通常に戻っていく。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・ワクチン接種が進み、人の動きが良くなり、年末に向けて景気の回復が期待できる。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・年末年始にかけて、既存客のリピート購入を目的としたキャンペーンを行うため、景気はやや良くなる。
		百貨店（営業担当）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種が進み、客の外出の機会が増加することや、気温の低下により衣料品の秋冬物需要が高まることなどから、来客数や売上が増加する。
		百貨店（営業企画担当）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いた状況が続けば、人の動きも活発になり、前年大幅に落ち込んだ年末年始の商戦から復活する。
		スーパー（店長）	・ワクチン接種が進み、行動制限がなくなれば、景気は徐々に回復する。
		スーパー（店長）	・緊急事態宣言の解除や新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により客の行動パターンが変わる。クリスマスや年末年始に向けて、これまで消費を抑制してきた客の財布のひもが多少緩む。
		スーパー（店長）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種が進むと、周辺の動きも含め、景気はやや良くなる。
		スーパー（営業システム担当）	・客が新型コロナウイルス禍で外出等我慢を強いられているため、クリスマスや年末年始は御褒美のような形で高単価なものが売れる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルスが少し落ち着いてきており、徐々にではあるが、来客数も回復傾向にある。また、これまで自粛していた広告等の訴求も近々再開する予定であり、今後は少しずつ来客数も増加する。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が本格化すれば、経済活動が再開する。また、イベントや学校行事が増加すれば、来客数も回復し、売上も増加する。
		家電量販店（企画担当）	・ワクチン接種が進み、行動制限がなくなると、景気はやや良くなる。
		乗用車販売店（店長）	・緊急事態宣言の解除とともに、ワクチン接種も進み、外出に後ろ向きだった人の来客が期待できる。
		乗用車販売店（店長）	・新車、中古車、整備部門共に大幅に売上が伸びることはない。ただ、新型車の宣伝効果に引っ張られる形で来客数が伸び、中古車や整備部門に波及すると、好循環が期待できる。
		乗用車販売店（営業担当）	・緊急事態宣言等が解除されたため、来客数が増加する。
		自動車備品販売店（経営者）	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が終了したため、客の動きが出てくる。
		自動車備品販売店（経営者）	・ワクチン接種が7割程度まで進めば、以前のような生活様式に戻り、景気はやや良くなる。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・ワクチン接種率が上昇するため、景気はやや良くなる。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・ワクチン接種が進み、客に少しずつ安心感が出てきているため、景気はやや良くなる。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスや医療体制が落ち着き、観光客や買物客の表情が明るくなっていることから、今後、景気はやや良くなる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・ワクチン接種が進み、このまま新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が続き、営業時間も通常時に戻れば、広域からの客も戻り、来客数も増加し、景気は上向き傾向になる。
		高級レストラン（事業戦略担当）	・ワクチン接種が進み、政府による行動制限が緩和され、外食やレジャーの機会が徐々に増加する。
		一般レストラン（経営者）	・最低の新型コロナウイルス感染対策は既に行き届いているため、行政の経済的取組が明らかになるにつれて、客の行動自粛制限が緩和する。
		一般レストラン（経営者）	・営業時間の制限が続いても、酒が提供できるようになり、客単価が上昇すれば、売上は多少持ち直す。
		一般レストラン（店長）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種が進み、客がある程度普通の生活をできるようになれば、景気は徐々に回復する。
		バー（経営者）	・まん延防止等重点措置の解除で、景気はやや良くなる。
		観光型ホテル（営業担当）	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の終了により、来客数が増加する。
		観光型ホテル（副支配人）	・緊急事態宣言が解除されると、秋の行楽シーズンに向けて若干ではあるが客の予約が入ってくる。以前の売上は到底見込めないが、今よりはやや良くなる。
		都市型ホテル（企画担当）	・新型コロナウイルス感染症の第6波の懸念が払拭できない面もあり、年末年始の集客時期に不安がある。ただ、政府の行動制限の緩和策が具体的になり、アルコールの提供等に制限がなくなれば、ある程度、人流が回復し、景気はやや良くなる。
		都市型ホテル（総支配人）	・10月より緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が全面解除となり、自治体支援策も再開されることから個人や小グループを中心とした需要が期待されるが、今後の新型コロナウイルスの新規感染者数の動向により先行きの不透明感は否めない。
		都市型ホテル（企画担当）	・行動制限緩和により人の動きが出てくるため、景気はやや良くなる。
		旅行代理店（支店長）	・行動規制の緩和に伴い、前年のGo To Travelキャンペーンのような施策が実施され、旅行需要が復活すると、景気はやや良くなる。
		タクシー運転手	・各地の緊急事態宣言や地元の規制が解除されたため、人の動きが活発になる。また、ワクチン接種が進み、行政による需要喚起策が実施されれば、景気はやや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・来月から全車が稼働するので、会社全体の売上が増加する。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、ワクチン接種も進んでいるため、今後、景気はやや良くなる。
		タクシー運転手	・緊急事態宣言が解除されると、景気は徐々に良くなる。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・利用料金の延滞率がここ数か月落ちているのに加え、新型コロナウイルスの規制も緩和されるため、景気はやや良くなる。
		通信会社（企画担当）	・年末年始のタイミングで新型コロナウイルス第6波が到来しているかどうか最大のポイントだが、ワクチン接種率が上昇し、3回目接種も進んでいくと、新型コロナウイルスもかなり落ち着いてくる。通信、放送関連の新サービス展開は、全体的に遅れているが、消費は元に戻ってくる。
		通信会社（販売企画担当）	・客の外出機会が増加し、売上が増加する。
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言の解除とワクチン接種率の上昇で、人流が良くなり、サービス業が回復する。
		テーマパーク（営業担当）	・県内の新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向であること、県の観光支援策が再開したことなどから、景気はやや良くなる。
		テーマパーク（業務担当）	・緊急事態宣言が解除されれば、人の流れも良くなり。来客数も増加する。
		観光名所（管理担当）	・開館すれば客も徐々に戻ってくる。
		観光名所（館長）	・緊急事態宣言の解除で、景気はやや良くなる。
		設計事務所（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に減少しており、このまま減少し続ければ、今後、新たな工事の動きが出てくる。
		住宅販売会社（従業員）	・ワクチン接種が更に進み、感染しても重症化せずに治療ができるようになれば、行動制限解除につながり、景気回復が始まる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少してきているので、徐々に売上が回復するが、景気はさほど変わらない。
		百貨店（経理担当）	・緊急事態宣言が解除されても、新型コロナウイルスが再び拡大するおそれもあるので、急激な景気回復とはならない。ただ、ワクチン接種が進んでいるので、緩やかな回復傾向となる。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスが落ち着いているが、前年と比べ、客の来店頻度は減少している。また、単価の高い商品が動いていないため、今後も景気は良くならない。
		百貨店（営業担当）	・大半の人がワクチン接種を終え、11月以降、本来の旅行、観光需要が戻るなら、景気は多少良い方向へ向かっていくが、衣料品関係の需要はそこまでは伸びない。
		百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきたものの、当面はこの状態が続く。
		百貨店（外商担当）	・当面は外出の自粛や消費マインドの冷え込みが続く。
		百貨店（売場担当）	・ワクチン接種率が順調に上昇しているが、依然として、客の外出のモチベーションは低く、ファッション関連を中心に厳しさが継続する。
		スーパー（店長）	・来客数が回復する兆しがなく、現状が続く。
		スーパー（店長）	・今後3か月で新型コロナウイルス感染症が終息するわけではないので、景気は変わらない。
		スーパー（店長）	・ワクチンの接種が進み、客の流れが徐々に通常に戻ると、外食の需要も回復するため、スーパーの景気だけが大幅に上向くことはない。
		スーパー（総務担当）	・イベント等はいまだ自粛状態だが、前年並みには回復する。
		スーパー（業務開発担当）	・食欲の秋に期待しているが、節約志向の定着や競合店との特売合戦で厳しい状況が続く。
		スーパー（販売担当）	・景気が良くなる材料も悪くなる材料もないため、変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこの値上げで売上が増加する要素はあるが、景気は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・9月はここ1年半くらいで一番良い状況であるが、前年よりは良いという状況で、根本的な回復はしていない。新型コロナウイルス感染症が終息し、競合店との競争に打ち勝たない限り、景気は良くならない。
		コンビニ（支店長）	・生活、行動パターンが変化してしまったため、新型コロナウイルス感染症が終息しても売上は元に戻らない。
		衣料品専門店（経営者）	・今後も厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（代表）	・緊急事態宣言が解除されても、新型コロナウイルス感染症の第6波が訪れ、再び、緊急事態宣言が発出される可能性があるため、景気は変わらない。
		家電量販店（店長）	・これといった目玉商品がないため、売上も変わらない。
		家電量販店（店長）	・来客数にほとんど変化がないため、今後も景気は変わらない。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの影響が続き、家電製品に目新しい商品の登場もないため、客の需要は回復しない。
		家電量販店（販売担当）	・年末のイベントが開催されるまでは変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・2～3か月先も客の動きは鈍い。
		乗用車販売店（業務担当）	・新型コロナウイルスの影響で、工場が相次いで停止し、商品が入ってこない。今後の見通しも立たないため、景気は良くならない。
		乗用車販売店（営業担当）	・3か月後は決算期に入っているが、このまま納期が遅れるようだと、販売台数も増加しない。
		住関連専門店（営業担当）	・来客数が大幅に変化することがないので、景気は良くも悪くもならない。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・売上が新型コロナウイルス感染症の流行以前に戻っているわけではないが、客は高価でも良質な商品を購入している。今後、来客数がなかなか増加しないため、売上も変わらない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・新型コロナウイルスの影響で、倒産したり、経営が悪化したりしている会社が多く、家庭の収入状況も良くないため、余分な出費を控える客が多い。巣籠り需要など一部商品のニーズは高まっているが、客の財布のひもはなかなか緩まない。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が終息しない限り、景気は変わらない。
		通信会社（工事担当）	・客の様子に変化がなく、今後も景気は変わらない。
		通信会社（経理担当）	・新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明な状態が続いているため、今後も景気は変わらない。
		テーマパーク（管理担当）	・現在の政府の政策では景気は変わらない。
		ゴルフ場（営業担当）	・現在の新型コロナウイルス禍では、直近で予約が増減するため先の見通しが難しく、景気はなかなか良くならない。
		美容室（経営者）	・まだまだ先が見通せない状況で、景気は変わらない。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、人の動きが出てこないため、景気は良くならない。
		設計事務所（経営者）	・新型コロナウイルスの終息の見通しが立つまで、現在の状況が続く。
		設計事務所（経営者）	・客の意思決定は安定しているが、新型コロナウイルスの影響で、海外からの部品供給が遅れ、一部の商品の納期が掛かり、引渡しの遅延が発生している。こうしたことから、景気は良くならない。
		商店街（代表者）	・子供服の需要が回復する兆しがないため、景気はやや悪くなる。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・ワクチン接種が進み、移動自粛ムードが一掃され、外食や観光が復活しないと、景気は良くならない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、取引国である東南アジアの経済が冷え込み、輸出が前年割れする。
		百貨店（販売計画担当）	・ボーナスなど客の所得が減少し、新型コロナウイルス第6波が訪れると、景気はやや悪くなる。
		乗用車販売店（統括）	・半導体不足や新型コロナウイルスの影響で、車が生産できなくなり、景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（広報担当）	・基本的に費用を削減する方向で物事を進めることが多いため、景気はやや悪くなる。
		住宅販売会社（営業担当）	・年末年始に新型コロナウイルスの新規感染者数が増加するため、景気はやや悪くなる。
		住宅販売会社（営業所長）	・マスクを通じ、アフターコロナの社会、住宅に関する問題、所得の減少等が問題となっている。今後、経済活動が再開し、働き方等について、新型コロナウイルス流行前と全く異なる状況が発生することで、景気の回復を妨げる可能性もある。
	×	一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・しばらくは新型コロナウイルスの影響が続くため、景気は悪くなる。
	×	スーパー（財務担当）	・ワクチン接種の浸透と緊急事態宣言の解除により、客の外食機会が増加し、売上が減少する。
	×	コンビニ（エリア担当）	・来年にかけて原価や売価が上昇するため、景気は悪くなる。
	×	乗用車販売店（営業担当）	・相変わらず節約傾向の客が多い。半導体や部品不足の影響で生産が遅れ、注文を受けても車が入荷せず売上にならない。
	×	一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言が解除され、客の動きは良くなるが、3か月では景気は良くなる見込みはない。
	×	競艇場（企画営業担当）	・舟券の発売時間が短くなることや主要レースが開催されないことから、景気は悪くなる。
	×	美容室（経営者）	・ウィズコロナ時代の新しい生活様式が確立しないと、今後も行動制限が続くため、景気は低迷する。
企業 動向 関連		*	*
		繊維工業（財務担当）	・今後、経済活動が活性化し、消費も増加する。
		化学工業（総務担当）	・新型コロナウイルス感染症が終息し、経済も活性化する。
(中国)		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・ワクチン接種率が上昇し、社会の動きも活発になってくる。
		輸送業（支店長）	・新型コロナウイルス感染症の第5波が終息に向かっているため、今後、荷動きが活発になる。
		輸送業（総務担当）	・半導体不足の影響などはあるが、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少傾向にあるため、景気は緩やかではあるが回復基調になる。
		農林水産業（従業員）	・いつまた緊急事態宣言等の制限が掛かるか分からないため、景気は変わらない。
		食料品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあるが、消費の回復はまだ先である。新政権には消費を喚起する政策を打ち出すことを期待している。
		食料品製造業（総務担当）	・経費削減や販売価格の引上げを実施しているため、今後も現状を維持する。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・大型案件の生産対応がしばらく継続する。鉄鋼業向け受注も好調で、現在の水準を維持する。
		鉄鋼業（総務担当）	・受注は高水準が続くが、これ以上は良くならない。
		鉄鋼業（総務担当）	・自動車の減産に伴い、荷動きは落ち着いた状況が続く。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・非鉄金属価格が引き続き高値で推移するため、当面は景気にとって好材料となる。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・特に変化がなく、変化があっても一時的な需要であるため、先行きは不透明である。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きから判断すると、景気は変わらない。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体や電子部品など電子デバイスの供給状況に左右されるため、現在のような供給不足の状況が続けば、景気は変わらない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・現在も客からの受注内示の減少が繰り返されており、見通しは不透明なままである。
		建設業（経営者）	・工事の受注量が安定しているし、引き合いもある。1年先までは読めないが、短期間では変化はない。
		建設業（総務担当）	・年内は景気に変化はない。
		輸送業（総務・人事担当）	・新型コロナウイルスの影響が見通せないため、景気は変わらない。
		通信業（営業企画担当）	・新型コロナウイルスの影響が余り考えられないため、ICTに関する需要も計画どおり、調達される可能性が高い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（融資企画担当）	・世界的な半導体不足解消のめどは立っておらず、地元完成車メーカーの国内生産の大幅減産が続く。また、これに伴い、系列の地元部品メーカーの受注や生産も低水準が続く。
		金融業（貸付担当）	・ワクチン接種が進むなか、人流が活発になり、消費が拡大する。ただ、人流増加により、新型コロナウイルスが再度拡大する可能性も払拭できず、企業の著しい業績回復は困難である。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で、受注が増えないことから、景気は変わらない。
		会計事務所（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の先行きが分からない。ワクチン接種が進行し、ウィズコロナ体制が整う可能性があるが、今後は景気が良くなる業種と悪くなる業種が混在する。
		木材木製品製造業（経理担当）	・今後も資材や運賃等のコスト高が続くが、販売価格の引上げが難しいため、利益面では厳しい状況が続く。
		金属製品製造業（総務担当）	・一時落ち着いていた鉄原材料価格が上昇しているため、仕入先からも材料や部品の値上げ要請がきている。当社も客と値上げ交渉を行っているが、全額は受け入れてもらえないため、採算悪化は必至である。
		不動産業（総務担当）	・例年と変わらなければ、来客数や成約件数が減少する。
	x	*	*
雇用 関連 (中国)		-	-
		人材派遣会社（経営戦略担当）	・ワクチン接種が進み、経済が復調することで、求人数が増加する。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・ワクチン接種が急速に進んでいるため、今後、これ以上景気が悪くなることはない。
		職業安定所（所長）	・半導体不足の影響を受け、9月に休業した自動車部品製造会社が、休業後の受注を見込んで、求人継続する。
		民間職業紹介機関（職員）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種率も上昇することから、新型コロナウイルスの感染拡大のおそれが少ないと判断し、集客型イベントの準備を進める企業が出てくる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・ワクチン接種や各種の新型コロナウイルス感染症対策が講じられてきているので、11月頃から旅行などのサービス業の景気が少しずつ回復する。
		その他雇用の動向を把握できる者	・緊急事態宣言が解除され、飲食サービス業の景気が回復する。
		人材派遣会社（社員）	・10月から新型コロナウイルス関係の政府の規制はなくなるが、今度は、一部行政の規制が始まるため、雇用環境は良くならない。
		人材派遣会社（支社長）	・緊急事態宣言が解除されれば、一時的に景気は回復するが、中長期的に企業の採用意欲が高まる要因は見当たらない。
		人材派遣会社（支店長）	・求職に慎重で、転職を控える人が多いため、労働市場が活性化しない。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・建設業、製造業、卸売業・小売業、医療・福祉、サービス業、運輸業は慢性的な人手不足である。新卒、中途採用共に求人活動は活発であるが、情報、飲食、ホテル、教育系については、新卒、中途採用共に採用人数が減少している。新型コロナウイルス流行前と比べ、採用環境は厳しいが、全体的にはやや売り手市場ではある。
		職業安定所（雇用関連担当）	・2回目のワクチン接種を終えてから就職活動をしようとする求職者が多いため、紹介件数や就職件数が回復するには少し時間が掛かる。
		職業安定所（事業所担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しつつあるが、依然として、先行きの不透明感があるため、新規求人数は減少している。飲食業や建設業は、新たな雇用を進めるよりも、現在の雇用を守ることに注力している。雇用調整助成金の相談や申請件数は依然として多く、今後も厳しい状況が続く。
		民間職業紹介機関（求人・人材採用担当）	・採用活動が新型コロナウイルスの感染の波に振り回され、低調なため、今後、景気がすぐに改善することはない。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・多くの企業で今年度の新卒採用が終了を迎えることや新型コロナウイルスの影響が続くことを考えると、今後も景気は良くならない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・半導体不足や海外事情等の影響で、先行きが不透明であり、当面は個人消費の回復が見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (四国)		百貨店（販売促進）	・当百貨店は10月以降、段階的にリニューアルする予定である。フードホールが新設されるため、周辺地区からの人流が増加すると思う。
		商店街（代表者）	・ワクチン接種率が向上しており、年末年始は新型コロナウイルスの新規感染者数がかかり減少することが予想されるため、明るい兆しがみえる。
		商店街（代表者）	・ワクチン接種が一通り進み、客が安心して娯楽を楽しめる環境が整備されていくことが予想されるため、少しずつではあるが回復傾向に進んでいくと思う。
		衣料品専門店（経営者）	・依然としてコロナ禍の影響が続いているが、来月以降は今までの反動で人出が増加し、景気が良くなると思う。
		衣料品専門店（営業責任者）	・まん延防止等重点措置が解除され、旅行需要が本格化すれば服飾関連も動き出すのではないかと期待している。
		家電量販店（店員）	・ボーナス商戦や季節商材が伸びることを期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・今後、新車の生産台数が回復し、売上が増加することを期待している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・お歳暮の時期には売上が少し増加すると思う。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・緊急事態宣言が解除され、行動制限も緩和されれば、自粛疲れの反動により景気が回復することが期待される。
		一般レストラン（経営者）	・ワクチン接種率の向上や新薬の開発など明るい話題が少しずつ増えている。このまま行動規制の緩和が進み、経済活動が再開されることを期待している。
		観光型旅館（経営者）	・各人が新型コロナウイルスの感染状況等に応じて動くようになっており、ワクチン接種済みの人などは旅行を再開している。
		旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少により、各県で発出されている行動規制が今月末で解除される方向で動いている。今後はGo To Travelキャンペーンの再開による景気の回復を期待している。
		タクシー運転手	・緊急事態宣言発出とまん延防止等重点措置が解除されることが決定し、夜に少しずつ人が増え始めるのではないかと予想する。遍路の仕事も来月から予約が少し入っており、このまま収束に向かえば、今より景気は良くなると思う。
		通信会社（社員）	・まん延防止等重点措置の解除や当県独自の新型コロナウイルス感染症の警戒レベルの引下げにより、売上の増加が見込める。休日においても今より人の動きが多少活発化すると予想する。
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言の解除等により、今より景気は上向く。
		通信会社（支店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、景気は上向くと思う。
		競輪競馬（マネージャー）	・ワクチンの接種率が向上し人々の安心感が強まることで、消費志向が強まり、景気が回復する。
		美容室（経営者）	・自粛ムードが緩和され、人の動きが活発化してきていると感じる。
	設計事務所（所長）	・近隣の宅地分譲地の販売が好調である。	
	商店街（事務局長）	・ワクチン接種が大幅に進んだことで新型コロナウイルスの感染拡大が抑制され、消費が上向くことを期待しているが、依然として先行きは不透明である。	
	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・ワクチンの接種率が高まり、新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向が続いているが、このまま収束に向かうかどうかは分からない。	
	一般小売店〔生花〕（経営者）	・まん延防止等重点措置は解除されたが、繁華街に客が戻ってくるかは分からない。一般家庭向けの予約は入るが、繁華街の飲食店向けの予約はなく、今後の見通しが立たない。	
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・コロナ禍で購買意欲が薄れ、ますます財布のひもが固くなっているように感じる。時短営業が解除されても外食産業が回復するまでには時間が掛かると思う。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業管理担当）	・ワクチンの接種率が高まり、行動規制の緩和が期待されているが、新型コロナウイルスの感染状況が不安定であるため先行きは不透明である。
		スーパー（企画担当）	・10月以降に値上げが実施される商品が多く、買い控えなどの影響が懸念される。
		コンビニ（商品担当）	・ワクチン接種は進んでいるが、政府による感染拡大防止策の効果が不透明であり、景気が回復するかは分からない。
		コンビニ（総務）	・コロナ禍におけるワクチン接種と行動抑制のみの対策が、医療ひっ迫と消費低迷につながっている。治療薬や予防薬の開発により、感染症の危険レベルを下げなければ、いつまでもウィズコロナにはならず景気は回復しないと思う。
		家電量販店（副店長）	・緊急事態宣言が解除されたとしても来客数が増加する要素が見当たらない。部品の供給不足で売上につながっていない商品が出てきている。
		乗用車販売店（従業員）	・受注しても、半導体不足のため長納期化する車種が増加している。
		乗用車販売店（役員）	・世界各国でワクチン接種率が高まるまでは、このままの状態が続くと思う。
		一般レストラン（経営者）	・ワクチン接種が進むことで、新型コロナウイルスの新規感染者数や重症者数が減少すると思うが、季節が変わり空気が乾燥する時期となるため、先行きは不透明である。
		都市型ホテル（経営者）	・選挙後の経済対策次第である。
		タクシー運転手	・当県では時短要請が26日に解除となったが、人の動きはまだ鈍い。ワクチン接種率は向上しているため、10月以降新型コロナウイルスの新規感染者数が収まり、景気が復活することを期待している。
		通信会社（営業部長）	・巣籠り需要の減少により、客の消費志向は物品購入からレジャー消費に移っていくと思う。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響でやや来客数が減少している。今後は新商品の販売を含め客の動きの活性化を期待したい。
		スーパー（店長）	・ワクチンの接種率が向上し、新型コロナウイルス感染症が終息することで、巣籠り需要などの特需が減少する。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が一旦収まり、巣籠り需要や内食需要が減少する。
		コンビニ（店長）	・引き続き来客数の減少が続く。
		乗用車販売業（営業担当）	・今後も新型コロナウイルスの影響と半導体不足が解消される見込みがない。
	×	商店街（代表者）	・地方自治体の社会インフラ整備は、今なお高速道路や橋が中心で、地方からの人口流出を加速させており、地方都市は衰退傾向にある。多発する自然災害や急速な人口減少への対策に重きを置く発想の転換がなければ、地方都市は存在が成り立たなくなると思う。
	×	スーパー（財務担当）	・まん延防止等重点措置の終了と、新型コロナウイルス感染症の終息により、再び外食へ客が流れる。
	×	コンビニ（店長）	・キャッシュレスキャンペーンの終了やたばこの駆け込み需要の反動で、しばらくは売上が減少すると思う。
	×	衣料品専門店（経営者）	・人の移動が制限されており、景気の回復が見込めない。
企業 動向 関連  (四国)		税理士事務所	・新型コロナウイルスの感染が収束に向かい、旅行業を中心に経済が活発化すると思う。
		食料品製造業（経営者）	・緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が解除され、飲食業や観光業が少しずつ回復基調になると推測する。
		木材木製品製造業（営業部長）	・大手住宅メーカーの受注棟数も順調に推移しており、下期の受注量に関しても期待している。
		鉄鋼業（総務部長）	・主力の造船関連だけでなく、産業用機械関連も受注案件が増加している。
		輸送業（経営者）	・ワクチン接種率の向上や新薬の開発などにより景気がやや良くなると思う。
		輸送業（営業）	・このまま新型コロナウイルスの感染が収束し、行動制限が緩和されることにより街中に人が戻れば、年末商戦の時期には消費者の購買意欲復活による景気向上効果が期待できる。
		通信業（企画・売上管理）	・まん延防止等重点措置の解除やワクチン接種率の向上により、レジャー関連産業の復調に期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（経営者）	・11月頃にはワクチン接種率が更に高まり、イベント等の再開も若干見込まれるため、客の販売促進計画が復活し売上が増加すると予想する。
		農林水産業（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が一時的に減少しているが、依然として先は見通せない。コロナ禍での生活が定着してきており、更に日販品の値上がりや飲食業や旅行業の不振もあるため、急な好転を望むのは難しい。
		繊維工業（経営者）	・コロナ禍が収まった段階で国内に出入りが戻り、観光地や小売店は幾らか潤うと思うが、消費マインドが以前のように戻るかは疑問である。これまで日本にあふれていた訪日観光客が戻ってくるのは、まだ先のことだと思うが、日本全体の活気が戻るのは、また更にその先である。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・コロナ禍で除菌や掃除用のウェットクリーナーの需要は高いが、十分な供給力があるので売上は横ばいである。最近では新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあり、需要も減少するのではないかと懸念している。
		化学工業（所長）	・回復傾向にあると思うが、先行きは不透明である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・仕事の引き合いが少なく、今後も大きな案件の受注は望めない。横一線の状態で推移すると思う。
		電気機械器具製造業（経理）	・新型コロナウイルス感染症の第5波は落ち着きつつあるものの、第6波や第7波も見込まれており、市況が不安定である。
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少してきているが、年末年始までに感染が再拡大すると推定する。今後も景気は良くも悪くもないという状態が続くと思う。
		建設業（経営者）	・今後も余り景気の変化はない。
		通信業（総務担当）	・ワクチン接種の効果はどの程度継続されるのかははっきりしておらず、従来のような活動が再開できるかは見通しづらい。
		金融業（副支店長）	・ワクチン接種が進んでいるにもかかわらず、感染状況が目立った改善がみられないため、当面は収束が見通しにくい状況が続く。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・市場マインドは上向きつつあるものの、新型コロナウイルスの影響や世界的な電子部品供給不足等による部品調達の遅滞、原材料価格の高騰等、不確定な要素が多く先行きは不透明である。
		輸送業（経理）	・12月までの海外向け輸出数量計画が前年比でも減少が続く。
	x	-	-
雇用関連 (四国)		人材派遣会社（営業）	・今は集客イベントを中止するところもあり、消費は微増にとどまっていると思うが、これから秋の行楽シーズンを迎えることで、県内外の人の往来が活発化し、景気も少しずつ回復していくと思う。
		求人情報誌（営業）	・当県では新型コロナウイルス新規感染者数が低水準となってきたり、経済活動が徐々に活発化しつつある。このままイベント行事等が再開されれば、購買意欲が高まり、消費も戻ってくると予想する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今後景気が良くなることを期待している。
		民間職業紹介機関（所長）	・緊急事態宣言の解除で観光や飲食に活気が戻ると予想する。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・年末のアルバイト求人数が増加する時期ではあるが、このまま新型コロナウイルスの感染が収束するとは思えないため、現状維持が続く。
		職業安定所（求人開発）	・現在も新型コロナウイルス新規感染者数が2けたの日が続いているが、9月末で感染拡大防止策が解除されることや、ワクチン接種完了者が増加していることから、景気の悪化に歯止めが掛かると思う。
		学校〔大学〕（就職担当）	・学生の就職状況の改善はしばらく難しいと思う。
		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)		一般小売店〔青果〕 (店長)	・寒くなくても新型コロナウイルスの新規感染者数が増加せずに現状維持をし、また、気温の冷え込みにより鍋関係が増えれば、当県産の野菜の青果物が動くことにつながるため、期待している。
		コンビニ(経営者)	・3か月後は新型コロナウイルスの感染拡大も収まり、経済が回っていくと、前年よりも売上増加が見込める。
		住関連専門店(従業員)	・今後ますます冷え込み、単価の高い秋冬商材が動くことに期待している。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(支配人)	・規制緩和やワクチンの接種の増加により、ショッピングセンターとして集客イベント等を徐々に解禁していく。それに伴い、周辺地域のイベントも実施する方針へ転換しているため、経済動向も活性化する見込みである。ただし、新規感染者数の急拡大や、新型コロナウイルス変異株の猛威が発生すれば逆の流れになる可能性も十分にある。
		一般レストラン(スタッフ)	・休業要請が解除になり、これから人の動向が多くなると予想される。ワクチンを打った安心感で、安易な外出が多くなり、再び新型コロナウイルスのまん延が懸念される。
		都市型ホテル(スタッフ)	・ワクチン接種が進み、人流が増えてくる。
		競馬場(職員)	・緊急事態宣言が終了し、来客数の増加が見込まれる。
		商店街(代表者)	・新型コロナウイルスの沈着次第ではあるが、やや売上が上昇傾向のため、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少しており、また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が緩和されれば、現状より良くなると期待している。
		商店街(代表者)	・緊急事態宣言が解除されるということで、飲食店も再開し、一般の客も季節柄、食欲が増してくる。商売が繁盛することを期待している。
		商店街(代表者)	・緊急事態宣言が解除され、飲食店等も動き出すため、若干であるが良くなる。
		商店街(代表者)	・全国的に9月末で緊急事態宣言も解除になり、10月以降に向けては期待を持っている。
		商店街(代表者)	・ワクチン接種が進み、新規感染者数もかなり減っており、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除されれば、客も商店街に出てくる。季節も過ぎやすくなるが、これから寒くなるとどれだけ新型コロナウイルスの新規感染者数が増えるのか心配である。この先2か月は期待をしている。
		商店街(代表者)	・全国的に景気が回復し、秋になり少しずつ人が動き出すことで、活気も戻る。
		一般小売店〔鮮魚〕 (店員)	・緊急事態宣言が解除されるため、何とか回復してくれることを期待している。最近の海水温度上昇が原因で魚がいなくなり、入荷量が少なくなっている。今までは、サバ等青魚もたくさん入荷していたが、今年は減少し、今後が危惧される。
		一般小売店〔生花〕 (経営者)	・切り花、生花を中心に販売しているので、8～9月の暑い時期よりも、贈物として選択されることが多く需要は上がる。新型コロナウイルスの影響を考慮しても、売上は増加する。
		百貨店(総務担当)	・緊急事態宣言の解除後、テナントに入店予定がある。
		百貨店(企画担当)	・県内での感染者数も低下傾向にあり、ワクチン接種率も増加することで、感染拡大はやや落ち着く。外出需要の回復により、今月よりは改善すると期待している。
		百貨店(企画担当)	・年末年始における需要は、恐らく堅調に推移する。
	百貨店(経理担当)	・まん延防止等重点措置の解除後、若干ではあるが来客数が増加傾向である。	
	百貨店(販売促進担当)	・緊急事態宣言が解除されることがほぼ確定しており、来客数の増加が予測される。	
	百貨店(経営企画担当)	・気温の上昇や悪天候等の気象条件を除き、新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向が継続することで、消費意欲は回復する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・9月末で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置も解除される見込みであり、ひと・もの・かねの動きが活性化することを期待している。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染率の動向と、営業成果の指標となる数値は、今後も連動して上下すると考える。ワクチン接種率の上昇に伴い、新型コロナウイルス感染率が減少しているため、外出が多くなり、衣料関連の商材が伸びると期待している。
		スーパー（総務担当）	・年末に向けて寒さが厳しくなるとの予報があり、生鮮食品を中心に年末商戦が盛り上がる事が期待できる。また、仮に新型コロナウイルスの感染が再拡大すれば、更に売上は増加するが、もし今までの我慢の反動で外食、旅行、百貨店等へと消費が向けば、売上は横ばい、あるいは減少する。
		コンビニ（経営者）	・ワクチン接種率が上昇している。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言解除により行動制限が緩和されることで、週末のイベント、行楽の動きが微増し土日の売上が上昇している。これまでの外出自粛による巣籠り需要と、今後の外出の活発化に伴う需要の両面で、コンビニへのニーズに応えたい。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が解除されることにより、客のマインドも上向くと考えられ、このまま客単価が前年を上回り、来客数が戻れば、コロナ前の状況に近づくことが期待される。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少で、いい方向に動くことを期待する。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・当市のまん延防止等重点措置も解除され、客の動きも来月には上向き見込みであるため、このまま新型コロナウイルスの感染が落ち着くことはないが、1～2か月は売上が伸びる。その後の新型コロナウイルスの感染状況が分からないため、先が見えず判断ができない。
		衣料品専門店（店員）	・10月からの緊急事態宣言解除による経済のリバウンドに期待している。
		衣料品専門店（取締役）	・緊急事態宣言が9月で解除となり、景気が良くなる。自粛に慣れ、生活が変化した人も多く、購買意欲が読めない。これ以上の企業努力はほぼ限界になっており、国民の所得、給料が増え、購買意欲につながる政策に期待をしている。
		家電量販店（店長）	・ワクチン接種率が増加し、今後緊急事態宣言等が出ることがなければ、景気は上を向く。
		家電量販店（店長）	・来月以降、緊急事態宣言が解除されると経済を回す流れとなり、人流が今より活発になる。今月も緊急事態宣言中ではあるが、前月以前と比べて来客数は回復傾向にある。
		家電量販店（店員）	・直近3か月は比較的景気が悪い状態が続いており、12月のボーナスの状況次第ではあるが、若干景気は上がる。
		家電量販店（店員）	・来客数が長期低迷したままである。世界的半導体不足と海上輸送のコンテナ不足の影響で、プリンターやF a x 電話機といった主に東南アジアからの商品がなかなか入荷しない状況が続いており、販売機会の損失がある。ただ、新型コロナウイルスも収束に向かいつつあり、今後は明るい材料が見えてくると期待している。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・当県のまん延防止等重点措置が9月末で解除されることで、客足が若干戻ると予想している。これから秋になり気温も下がると、コーヒーの消費量は例年若干増える傾向にあり、今後2～3か月先を見通せば若干良くなると考えている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・ワクチン接種率が上昇し、新型コロナウイルス第5波が収まってきているため、10月は期待している。
		一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言が解除になれば、来店したいという客もいるが、正直不安である。第6波の具体的な対策案を示してほしい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スナック（経営者）	・10月から緊急事態宣言が解除され、時短営業が可能になり、少し飲食業に客が戻ると考えられるが、ワクチン接種率がまだ6割程度で新型コロナウイルス変異株による感染の懸念が拭えない。売上が元に戻らないのではないかと危惧している。
		観光型ホテル（総務）	・新型コロナウイルス感染拡大第5波のため、運営するシティホテルは、今月の全館売上が今年最低になる見込みである。下旬にようやく新規感染者数が減少したため、レストランの予約が好調に上向いている。宴会も第5波が来ないうちにと開催する事例が、下支えになっている。
		観光型ホテル（専務）	・新型コロナウイルス感染症の終息が見通せず、一喜一憂させられる。少し景気が回復するのではと、諦め半分を期待している。
		旅行代理店（職員）	・自治体の旅行キャンペーン再開等で、旅行需要が高まることを想定している。
		タクシー運転手	・秋は様々な行事が行われるため、期待している。
		タクシー運転手	・このまま新規感染者数の減少が続き、催物の再開や飲食店等が通常営業することにより、景気回復が期待できる。
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言の解除が決まり、徐々に街に人が出る。
		通信会社（企画担当）	・客の新型コロナウイルスを踏まえた事業展開が進んでいる。引き合いの際には、新しい生活様式に沿ったものや新型コロナウイルス終息後の対応が含まれており、多少ではあるが本題の事業だけでなく、追加対応も売上に貢献している。
		観光名所（従業員）	・緊急事態宣言が全面解除されれば、流動人口が増えることが予想され良くなっていく。
		理容室（経営者）	・通常9月は全体的に売上が最も低く、更に新型コロナウイルスの影響で客足は悪い。新型コロナウイルスの感染拡大が今後収まり、人の動きが出てくることを期待している。
		美容室（経営者）	・2～3か月先の景気は期待している。秋は着飾る機会が増え、緊急事態宣言も解除されると人の動きも出て、少しずつ売上も増加すると推測する。
		設計事務所（代表）	・緊急事態宣言が解除されると若干良くなってくる。
		商店街（代表者）	・旅行やイベント等への参加機会が増えなければ、購買意欲が低いままの状態が継続される。
		商店街（代表者）	・緊急事態宣言発出及びまん延防止等重点措置が解除になっても、消費者は新型コロナウイルスに対してまだまだ脅威感がある。年内は変わりなく悪い商況が続くと覚悟しており、対策に苦慮している。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・年末にかけて、再度緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されるものと予測している。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・10月から緊急事態宣言も解除され、季節的にも売上が伸びる時期でもあることから、若干期待している。
		百貨店（企画担当）	・ワクチン接種が進み、経済活動再開に向けた社会の動きは感じられるが、新たな新型コロナウイルス変異株の発生等予測不能な要素が大きい。
		百貨店（営業担当）	・ワクチン接種率の向上や新規感染者数の減少のなかでも感染警戒は継続しており、催事場への入場制限への理解で混雑回避ができていく。ワクチン接種の進展の効果で制限緩和をしたが、早急な回復は難しい。一方、店頭外のサテライトショップやギフトショップ、インターネット受注、自家需要商材、し好性の高い舶来雑貨・時計等の売上は堅調である。県内外への旅行、帰省へ緩和や物産催事の再開でも慎重な行動と生活防衛意識は継続しており、自家需要中心の来店や購買は継続する。
		スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルス収束が見通せない限り、大幅な改善は見込めない。
		スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が急激に減っており、次の感染拡大状況によるが、収束へ向かうとやや良くなっていく。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言が解除されても、飲食店の営業にはまだ制約があり、企業の働き方も急激に新型コロナウイルス発生以前の状態には戻らない。
		コンビニ（エリア担当）	・年内は状況が変わる見込みがない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、現時点が底となることを期待している。
		家電量販店（総務担当）	・前年の特別定額給付金やプレミアム付商品券で先食いした家電需要の反動は、まだまだ続くと予想される。
		乗用車販売店（従業員）	・当面は納期が、商談の進行を阻んでいく。
		乗用車販売店（総務担当）	・新車販売台数の回復はメーカーの生産の正常化に懸かっている。販売店にとっては厳しい状況が続くが、対策の仕様がなない。
		住関連専門店（経営者）	・ワクチン接種が進み、新規感染者数が減少している。各地催物や経済活動、イベントも感染対策をしておきの動きが始まり、景気回復につながると期待している。
		その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・2021年7月下旬の連休で新型コロナウイルスの感染拡大を抑えるために、8～9月まで時間が掛かっている。10月の緊急事態宣言解除後に再度新型コロナウイルスの感染が拡大し、それを抑え込むために2か月掛かることが想定でき、3か月後は再度抑制期間に入っていると推測するため、景気は変わらない。
		タクシー運転手	・10月より緊急事態宣言が明けると、急激に売上が増加する見込みはない。恐らく1か月後には、冬の第6波も懸念されるため、今後も厳しい状況が続く。
		通信会社（企画担当）	・システムトラブルの解消が期待できない。
		通信会社（統括者）	・来店客が増加するようにインフォメーションメール等の発信やショッピングモールでの外販イベントを実施しているが、なかなか効果が現れていない。新しい携帯電話も発売されたので、来店誘導を継続して見込み客につなげていきたい。
		通信会社（業務担当）	・緊急事態宣言が解除されても、再度すぐに緊急事態宣言が出るという繰り返しであるため、今後も先が読めない。
		ゴルフ場（従業員）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、夜、飲食店での社交の増加による地元来場者数の減少と、県や国をまたぐ往来が元に戻り、国内外の来客数の増加とが相殺されると推測する。
		ゴルフ場（営業）	・緊急事態宣言が解除されて、再び新型コロナウイルス変異株が流行するおそれがある。
		美容室（店長）	・新型コロナウイルス感染者数で不安と安心を繰り返す状況で、先行きがみえないが、しばらくは変わらない。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・客先の受注見通しや受注状況から2～3か月先の好転は期待できない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・年末に向け第6波の感染拡大とインフルエンザの流行が懸念され、来客数が減少する。
		設計事務所（所長）	・今月の状態が2～3か月先に結果として出るため、変わらない。
		商店街（代表者）	・長期化しているコロナ禍で、来客数の減少は否めない。新型コロナウイルスの感染が収束しなければ、回復のめどは立たない。
		百貨店（業務担当）	・新型コロナウイルスの感染状況は、周期的で次第に山が大きくなっており、現在は若干新規感染者数が減っているが、冬には第6波が発生すると予想する客が多い。前年以上に客の需要が減少することが予想される。
		乗用車販売店（従業員）	・生産遅延等、新型コロナウイルスの影響で部品入荷等ができなくなっており、良くなる兆しは余りない。
		高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、現状が最も悪い状態であるため、2～3か月先は年末も控えており、状況が改善し、客の予約が入ることを期待している。
		設計事務所（所長）	・株価や輸出量が増加しても、世間一般には恩恵はない。むしろ各種料金や物の値段が上昇しているが、収入は減少しているため、景気の上昇は見込めない。
		住宅販売会社（従業員）	・建売住宅に関しては、住宅ローン減税13年の控除適用の契約期限が11月末までとなっているが、注文住宅については9月末までの契約期限のため、来月以降はやや下振れ傾向になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	スーパー（統括者）	・予定どおり9月30日で緊急事態宣言解除となった場合は、外出需要が増えるため、容易ではないと推測する。しかし、年末に第6波が発生した場合は、状況は変わっていく。
	×	コンビニ（店長）	・冬に向け、新型コロナウイルスの感染再拡大が必ず発生する。
	×	衣料品専門店（店長）	・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除になったとしても、新型コロナウイルスの影響は半年から1年掛かる。この状況下で10月からは徐々に良くなることを期待している。
	×	乗用車販売店（代表）	・新型コロナウイルスの影響で、景気が悪くなっていく。
	×	高級レストラン（経営者）	・9月末でまん延防止等重点措置が解除で、人の動きが始め、利用者も増加すると予想される。これまでの新型コロナウイルス感染拡大からの対策が全くできていなかったため、次の第6波で再び景気が悪くなり、人の流れが止まってしまいう前に、感染させない手立てをワクチンだけに頼っていた状況から、何か対策を備えることが重要である。
企業 動向 関連  (九州)		経営コンサルタント （代表取締役）	・9月末で全国的に規制が解除になるため、今まで押さえられていた人の動きが活発になる。それが原因で新型コロナウイルスの感染が拡大すれば問題ではあるが、感染状況が落ち着けば、一気に経済的な動きが活性化すると期待している。
		農林水産業（経営者）	・9月の後半に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少しており、当地でも1けた代に落ちているため、外食産業も徐々に戻ってくると予想している。量販店向けも巣籠り需要は顕在であり、冷凍食品メーカー向けも年末年始に向け新メニューの生産では、原料が強くなっていく。新型コロナウイルスの感染が収束し、安定すれば需要がかなり期待できる。
		化学工業（総務担当）	・下期に向かっての農薬需要を期待する。
		窯業・土石製品製造業 （経営者）	・秋になり、新型コロナウイルスも落ち着いてきているため、売上は上向きになっている。ふるさと納税の実績は前年より上がり、インターネット販売も前年と同水準で推移していることから、良くなっていくと期待をしている。
		一般機械器具製造業 （経営者）	・この業界はIC半導体の動きに左右される。この半年は、半導体の動きが段々と良くなり、生産が間に合わない現状が続いていたが、徐々に動き出したため、今後2～3か月は、恐らく動きが良くなると予想される。
		電気機械器具製造業 （総務担当）	・半導体関連取引先の下期フォーキャストは、増産傾向が続いている。
		電気機械器具製造業 （取締役）	・新型コロナウイルス新規感染者数が急激に減少しており、人流の増加による消費マインドがどの程度上がるかが、今後の懸念材料である。
		その他製造業 [ 産業廃 棄物処理業 ]	・見込みではあるが、中国企業の一部社債の利払いや緊急事態宣言の解除等で市場が動けば、相場や生産量も徐々に戻ってくる。
		建設業（社員）	・新型コロナウイルスの感染率も低下しているが、気を緩めるとまた感染者はすぐに多くなるため、このまま収束へ向かうためにも、各人が、気を引き締めることが非常に大切である。そうすることで景気回復につながっていく。
		輸送業（総務担当）	・ワクチン接種率や感染症対策が向上しており、活気が戻ってくる。効果的な治療方法等明るい材料が増えれば、反動による物量増加が予測され、回復に期待している。
		通信業（経理担当）	・実効性は不確定だが、ワクチン接種により、新規感染者数の増加に歯止めが掛かってきていることで、新たな対策が期待できる。
		金融業（営業）	・緊急事態宣言の解除には期待できる。飲食業やその他の施設で、営業時間の制限や酒類の提供自粛が解除されれば、それなりの効果はある。
		金融業（営業担当）	・当県は緊急事態宣言が9月末をもって解除されるので、飲食店や観光、イベント等に関しても一部規制は入るが、酒類の提供、営業時間の規制の緩和が期待されるため、9月よりは全体的に景気は良くなる。ただし、新規感染者数が増加すると、規制が戻るが、9月の現状よりは若干良くなる。
		新聞社 [ 広告 ]（担当者）	・衆議院選挙による好影響に期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（役員）	・新型コロナウイルスの影響で、改めて自社ブランドを振り返し、ブランドの再構築の必要性を考える客が増えており、今後は企業ブランディング業務の増加が期待できる。
		食料品製造業（経営者）	・引き続き、農産物の原料が収穫期に当たるため、製造と販売共に比較的順調に推移する。
		家具製造業（従業員）	・現段階での案件情報のみでは厳しい。また、木材の価格が高騰しているため数少ない受注についても利益確保が困難な状況に陥っている。
		金属製品製造業（事業統括）	・上向き始めた実感していたが、受注売上に影響があり、2～3か月前と同じ状態で変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・新型コロナウイルスによる外出自粛要請で、営業活動がしづらく、今後の景気が見通せないが、受注量はほとんど変わらないと予想している。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・海外部品の供給不足により、車両生産調整等の影響がしばらく続く可能性が高い。
		輸送業（従業員）	・特に変化はない。コロナ禍で、健康食品の受注量は高止まりを維持している。同じく海外向けの健康食品も高止まりで注文を受けている。一方で化粧品は落ち込んだままである。
		輸送業（従業員）	・北米向けのコンテナ手配が難しい状況は続く。来年の北京オリンピックの関係から、前倒しで10月以降に輸入を増やす動きをしている荷主もあることから、一時的には回復傾向となるが、その分北京オリンピック期間中の中国からの輸入は減少となり、長期的に考えると変化はない。
		通信業（職員）	・官庁が施主の営業案件数と受注予想額が伸びておらず、当面この状況が継続する見込みである。
		金融業（従業員）	・災害復旧工事を含め、公共投資は高水準で推移しており、住宅投資も持ち直している。また、家電販売やスーパーマーケット、コンビニエンスストアの売上も増加傾向を示している。一方、新型コロナウイルスの影響は、引き続き残るとの見方から飲食店や旅行・観光関連業者の先行きの見通しは厳しい。
		金融業（調査担当）	・ワクチン接種率の高まりや緊急事態宣言の効果もあり、新規感染者数は減少しているが、これまでも減少と増加を繰り返しており、減少の流れを維持できるかが不透明である。また、新型コロナウイルスに感染者の受け入れ拒否が起きる等依然として医療体制のぜい弱さがみられる状況である。飲み薬型の治療薬の開発や、感染者数増加に耐えうる医療体制の構築ができない限り、人流、経済の抑制を軸とした新型コロナウイルス感染症対策からの脱却は難しく、景気は引き続き悪い状況が続く見込みである。
		金融業（調査担当）	・ワクチン接種の進展をきっかけとした経済活動の本格的な回復にはまだ時間を要する。冬場の第6波を警戒する声も根強い。
		不動産業（従業員）	・賃貸オフィス物件の入居率は、横ばいに推移している。
		広告代理店（従業員）	・緊急事態宣言が解除されるとはいえ、まだまだ新型コロナウイルス感染対応が必要であり、企業の前向きな投資意欲が出てくる状況ではない。少なくとも1～2年は現状が続くと考えている。
		経営コンサルタント（社員）	・現状が改善され、もう少し自由に外に出ることができなければ、良くはならない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・問合せ件数や受注件数に大きな変化がみられない。
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・緊急事態宣言発出により、新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にあるが、今後冬場を迎えることで再度増加することも考えられ、大幅な変動はないと推測する。
		農林水産業（従業者）	・消費者は野菜が高いという認識を持っているが、実際フードサプライチェーンでは、今の時期に稼げている人は誰もいない。この結果、野菜の出荷が増えてきたタイミングで市況では、下げる圧力がより高まり、生産者への圧迫はより増えることが想定される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注量の心配はないが、資材の品薄状態が続いており調達がかかなり困難になっている。
		建設業（従業員）	・規模の縮小に伴い、受注活動が限られ、厳しい状況になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	経営コンサルタント（社員）	・インバウンドや業務用食材の流通が回復しないことには、元どおりにはならない。回復までに3年は掛かるため、その間にマイホームマーケットへの切替えやインターネット通販の拡大にスイッチしていくと予想している。
		繊維工業（営業担当）	・現在取引先と工賃の値上げ交渉中であるが、最低賃金上がる分の値上げができるのか心配である。この状況が毎年続くようであれば、今後1～2年で最低賃金のアップに耐え切れずに倒産することが懸念される。
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・今後も指名競争入札では、受注が困難であり、公募型プロポーザル方式での発注は、応募が多くなっていると市街の担当者から聞いている。発注時期が遅れ、実質の業務期間が短くなるため、以前当該市街の業務を手掛けたコンサルタントが有利になり、受注の機会が減ることから景気が悪くなると予想される。
雇用 関連  (九州)		求人情報誌製作会社（編集者）	・年内に再び緊急事態宣言が発出されると多くの企業が痛手を被ることになるが、緊急事態宣言が解除されると年末まで企業の動きが活発になると予想され、期待している。
		人材派遣会社（社員）	・10月以降緊急事態宣言が解除されれば、実施される案件も増える。
		人材派遣会社（社員）	・年末年始限定の注文の時期でもあり、新型コロナウイルス関係の規制が緩くなるので、人材確保の動きが活発になってくる。年末年始限定の業務は、既存の客からも問合せがきているが、人数については、もう少し様子を見て決めていく状況である。
		人材派遣会社（社員）	・コロナ禍以前の求人数を捉えており、求人数はこの推移で進む。求職者数の動きが鈍いため、人手不足感が発生している。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・緊急事態宣言の解除がほぼ確実となり、旅行、宿泊施設等の広告が復活しつつある。ワクチンを2回接種済みの人を対象とした旅行の広告も始まっている。映画の新聞広告も問合せがあり、緊急事態宣言が解除となれば、レイトショーが可能になることは、映画業界にとっては追い風である。ただ、新型コロナウイルスの感染状況により、再び緊急事態宣言発出となった場合は、再度低迷する可能性がある。2か月先まではやや良くなると推測するが、3か月先については不安が残る。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ワクチン接種率の向上、飲食店等の認証制度の広がり、また、感染拡大の可能性が高い行動への理解が進んだことにより、人の行動自体は積極的になり、景気も良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・9月末の緊急事態宣言の全面解除により、制限付きではあるが特に旅行や飲食等の消費が増える。また、ワクチン接種の証明もできれば、年内にはかなり景気は良くなる。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は、微増ながらも増加傾向は継続している。新型コロナウイルス感染症の影響により、9月の雇用調整助成金の相談件数は増加しているが、今後は新型コロナウイルス感染拡大が収まりつつあり、雇用動向に好影響を与える。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少しており、求人数と求職者数の増加傾向が継続している。また、就職件数も微増だが前年比よりも増加となっている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前年よりも上昇しており、新型コロナウイルスの感染拡大による離職者がほとんど出ていない。
		民間職業紹介機関（職員）	・当県でもワクチン接種者数が増加し、企業の経済活動だけでなく大学等の対面授業率も上がり人が動くようになれば、求人も増え求職者数の活動も活発になるため、これからは良くなっていく。
		人材派遣会社（社員）	・企業からの求人でも多い職種が管理者やシステムエンジニア等であるが、一方、事務案件の直接雇用は切替え後の採用条件が厳しくなっていることが多い。また、募集を掛けても求職者から問合せや反応がない案件も多い状態が継続している。
		職業安定所（職員）	・今月は3か月前と比べ、若干求人数の動きが良いが、例年どおり、今後2～3か月で更に増加する要因はなく、多少の増減はあるものの現状を維持する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・緊急事態宣言の効果が顕著に表れ、新規感染者数が減少していることから、ワクチン接種の効果がでてきている。ただ、まだ油断できない状況は続き、企業の業績回復にはまだ一定の時間が掛かると推測される。
	x	*	*

## 12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)		コンビニ（店長）	・沖縄県での緊急事態宣言の全面解除が決まり、10月以降年末にかけて来客数増加が期待できる。
		家電量販店（総務担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数減少に伴う緊急事態宣言解除や移動制限の緩和により客の動きが活発化してくるとみられる。
		乗用車販売店（経理担当）	・緊急事態宣言が解除され観光客が戻ってくれば、レンタカーの需要も確実に上がってくる。
		一般小売店〔酒〕（店長）	・新型コロナウイルス対策が具体的にできているので、今後感染者数が大きく増えていくとは考えにくい。
		百貨店（店舗企画）	・新型コロナウイルス感染防止対策やワクチン接種の増加で、消費者のマインドも穏やか傾向になっているように見受けられる。
		スーパー（企画担当）	・緊急事態宣言解除が決まり、来客数、売上の伸長が見込まれる。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言が解除され観光客が増加するので景気は回復していくとみられる。
		コンビニ（副店長）	・新型コロナウイルスのワクチン接種も進み、来月から本格的に規制緩和される。今後の感染者数にも注視だが、年末に向けて人流回復に伴う消費が増えることに期待している。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・緊急事態宣言が解除になり一時的に反動で客が街に繰り出す、飲食店の営業、酒の提供時間には制限が掛かっており、それを守っているのは損益分岐点を超えられない。ステイホームに慣れた客は以前のように飲み歩かなくなっており、事業転換、副業、ヒット商品が必要である。
		観光型ホテル（代表取締役）	・緊急事態宣言が解除されるということであるが、10月の宿泊部門で1度消えてしまった宿泊予約が戻るとは考えにくい。11～12月に関しては予約の取消しが下げ止まっているので今後の予約増に期待している。料飲部門に関しては、宣言解除により、10～12月と少しずつ動きが良くなるのではと期待している。
		観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの9月の販売室数は緊急事態宣言の影響があって前年比55%減少だが、9月末時点での12月の予約室数は前年比33%減少となっており、マイナス幅が小さくなっている。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数も減り、来月より緊急事態宣言が解除されることもあって客足が戻ってくると期待しているが、自粛期間中に客がWebでの手続きに慣れてしまっていることも考えられ不安もある。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・今月に入り新型コロナウイルス新規感染者数の減少により、先行きの予約状況は上向いているが、観光での需要は横ばい状態である。需要回復に向けては、国や県による即効性がある観光施策が必要であり、対応を願いたい。
	住宅販売会社（役員）	・緊急事態宣言の解除が期待され、物件内覧、成約件数も増えると思われる。	
	スーパー（販売企画）	・10月より緊急事態宣言は解除されることが決まったが、それに伴い2～3か月後には第6波の話も聞こえているので、やや悪いままの状況が続くと予想される。	
	コンビニ（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が全国的に減少してきているが、観光のマインドが上がってくるのは来年以降と考える。	
	衣料品専門店（経営者）	・今月も、ここ数か月続いている新型コロナウイルスの緊急事態宣言の影響が、客が少ない状態が続いている。来てくれている客も、以前ほど購買意欲は感じない。景気は依然、悪い状態が続いている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・少なくとも良くなるとは考えられない。来月から緊急事態宣言が解除になるということであるが、新型コロナウイルスの感染状況次第でまた同じことの繰り返しだと考えられ、先行きは変わらず不透明である。
		旅行代理店（マネージャー）	・緊急事態宣言がまん延防止等重点措置になっても余り大差はない気がする。
		住宅販売会社（代表取締役）	・現時点では最悪の受注状況ではないがこの先不安である。
		-	-
企業 動向 関連  (沖縄)	x	商店街（代表者）	・現在新型コロナウイルスの緊急事態宣言の対象に沖縄県も含まれている。これが解除されなければ、当分、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況が続くとみられる。
		食料品製造業（役員）	・10月には緊急事態宣言の解除、ワクチン接種証明活用による経済活動の再開も検討されており、観光客数の増加が期待できる。
		輸送業（経営企画室）	・ワクチン接種の進展により緊急事態宣言解除後の第6波が来ないことに期待しつつ、各納品先が通常営業の状態を維持できるようにしなければとの期待を込め良くなると考えている。
		建設業（経営者）	・契約見込み度の高い客の来社が増えてきている。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少傾向にあることから徐々に県内企業の販促活動が動き始めている。ただし、引き続きリアルでのイベント販促施策については、感染リスクの不安要素が拭えないことから、やや消極的である。
		会計事務所（所長）	・年末に向けて購買、消費活動が幾分活性化するとみられる。
		窯業土石業（取締役）	・緊急事態宣言解除により若干景気は上向くと考えているが、企業の積極的な設備投資にはまだ時間を要し当面の間、現状の受注状況で推移するとみられる。
		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島の建設関連は、急拡大した新型コロナウイルス感染で現場でも影響が出ていたが、今後は落ち着く方向だと考える。大型公共工事が端境期の宮古島では大きな伸びは期待はできない。自衛隊関連の建設工事が本格化している石垣島は、砕石は島内産そして砂は海外産が主流のため、こちらも内航海運として大きな期待はできないと考える。
雇用 関連  (沖縄)	x	学校〔大学〕（就職支援担当）	・緊急事態宣言が明けることが予想され、求人に動きが出ることが予想できる。ワクチンの接種も進み、経済活動も活発化するだろう。
		人材派遣会社（経営者）	・新型コロナウイルス感染による休職中のスタッフが復帰し、増加している派遣依頼に対しての人員確保ができる、数字も伸びていくものとみられる。また社会全体がワクチン接種率アップで活況を取り戻していくとみられ、企業にも反映される。
		人材派遣会社（総務担当）	・今月30日で緊急事態宣言が解除され、経済が動き出し景気が回復するのではないかとみられる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・緊急事態宣言の解除に伴い人の動きが増えるとともに、求人数が増加する。
		求人情報誌製作会社（営業）	・前年同期は新型コロナウイルス感染の第2波収束後～3波前に当たる期間である秋から年末年始にかけてで、求人数は増加していた。長期化した緊急事態宣言が解除となり、年末や来年に向けた採用活動の増加を予測している。ただし宣言が長く、その反動で人流や行動が急激に増加した場合、感染拡大の第6波に至ってしまうことへの懸念はある。
		職業安定所（職員）	・9月半ばで前年同月比45%増加と、求人件数の回復が見込まれ、また新型コロナウイルスで就職活動含め経済的な活動を控えていた反動がくるとみられる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・久しぶりに沖縄県の緊急事態宣言が解除されることにより、サービス業を中心に経済活動が活発になることが見込まれ、デザイン系求人数が動き出すのではないかとみている。ただ、企業の余力を考えると、新卒採用で育成というよりは即戦力のある経験者採用を強化するのではないかとみられる。
		-	-